

保育学科 専門教育科目

『学習成果』

- 保育者に必要とされる専門的知識と基礎的な技能を習得し、実践につなげることができる。
- 保育者の社会的役割を自覚し、豊かな感性や想像力、表現力をもって、子どもの理解や支援ができる。
- 幅広く教養を身につけ保育者及び社会人として、地域社会で活用することができる。
- 保育者及び社会人として、必要なコミュニケーション能力を有し、自ら主体的、積極的行動がとれる。
- 他者と協調する心、協働する力を持ち、地域社会でいかすことができる。
- 自己の課題を客観的に見出し、解決に向け学び続けることができる。

『ディプロマ・ポリシー(DP)』卒業の認定に関する方針

1. 乳幼児保育に関する専門的知識を幅広く習得している。
2. 乳幼児の主体的な活動を援助するために必要な確かな基礎技能を身につけている。
3. 自分の考えを文章や口頭によつて的確に伝えることができる。
4. 保育・教育現場の多様なニーズに応じた自らの保育を考察していくことができる。
5. 他者の声に耳を傾け、自分の考えを伝えることができる。
6. 自らの課題を追求し、実践力を高める意欲をもっている。
7. 人間形成上重要な乳幼児期に関わる保育者としての自覚をもち、誠実に他者と協働することができる。

保育学科 専門教育科目シラバス目次

－ 1 年 －

●必修 ○選択

科目名	授業形態	単位数	開講期		担当者	ナンバリング	ページ
			1前	1後			
保育原理	講義	2		●	上村裕樹	H012	48
教育の制度と原理	講義	2	●		山口刀也・井本佳宏	H031	50
子ども家庭福祉	講義	2		●	君島智子	H012	52
社会福祉	講義	2	●		上村裕樹	H011	54
社会的養護 I	講義	2	●		川上芳夫	H011	56
保育者論	講義	2	●		中島恵(実務家教員)	H031	58
保育の心理学	講義	2	●		山本信(実務家教員)	H031	60
子どもの保健	講義	2		●	下山田鮎美	H012	62
子どもの食と栄養	演習	2	●		岩田教子	H011	64
保育・教育課程論	講義	2		●	小森谷一朗	H022	66
保育内容指導法「健康」	演習	1		○	金野麻衣	H022	68
保育内容指導法「環境」	演習	1		○	宮本美和子(実務家教員)	H022	70
保育内容指導法「表現(音楽)」	演習	1		○	佐藤万利子・岩淵摂子 松村万里子	H022	72
幼児と健康	演習	1	○		金野麻衣	H031	74
幼児と人間関係	演習	1	○		君島智子	H031	76
幼児と環境	演習	1	○		飯島典子	H031	78
幼児と言葉	演習	1	○		山本信(実務家教員)	H031	80
幼児と表現	演習	1	○		佐々木貴弘・佐藤万利子	H031	82
乳児保育 I	講義	2	●		中島恵(実務家教員)	H011	84
乳児保育 II	演習	1		●	中島恵(実務家教員)	H012	86
特別支援教育・保育概論	演習	2		●	川村修弘	H022	88
保育実習指導 I A (1年)	演習	1	●	●	佐々木貴弘・中島恵 岩淵摂子	H011	90
児童文化	演習	1		○*	佐々木貴弘	H042	92
保育内容の理解と方法	演習	2		●	小野真喜子(実務家教員)	H012	94
ピアノ I	演習	1	●	●	佐藤万利子・岩淵摂子・他	H011	96
子どもと音楽	演習	2	●	●	佐藤万利子・岩淵摂子 松原優子	H011	98
子どもと造形あそび	演習	2	○*		佐々木貴弘	H031	100
子どもと運動あそび	演習	2	○*		金野麻衣	H031	102
教育方法	講義	2		○	柴田千賀子	H032	104
教育実習事前事後指導 I	実習	1	●	●	宮本美和子・小森谷一朗	H021	106

－ 2 年 －

科目名	授業形態	単位数	開講期		担当者	ナンバリング	ページ
			2前	2後			
子ども家庭支援論	講義	2		○	小山里織・重原達也	H014	108
子ども家庭支援の心理学	演習	2		●	飯島典子・加藤和子	H014	110
子どもの理解と援助	演習	1		○	山本信(実務家教員)	H034	112
保育内容総論	演習	1	●		宮本美和子(実務家教員)	H033	114
保育内容指導法「人間関係」	演習	1		○	君島智子	H034	116
保育内容指導法「言葉」	演習	1	○		山本信(実務家教員)	H033	118
保育内容指導法「表現(造形)」	演習	1		○	佐々木貴弘	H033	120
子どもの健康と安全	演習	1		○	東海林初枝	H014	122
社会的養護 II	演習	1		○	川上芳夫	H014	124
子育て支援	演習	1		○	加藤和子	H014	126
保育実習 I (保育所)	実習	2	○	○	佐々木貴弘・中島恵 岩淵摂子	H013	128
保育実習 I (施設)	実習	2	○	○	佐藤万利子・山本信 金野麻衣	H013	130
保育実習指導 I B (2年)	演習	1	○	○	佐藤万利子・山本信 金野麻衣	H013	132
保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2		○	中島恵・宮本美和子	H034	134
ICT 演習	演習	1		○	飯島典子・小森谷一朗	H044	136
全体的な計画の作成と理解	演習	1	○		小森谷一朗	H043	138
保育内容 A	演習	2		○#	岩淵摂子・金野麻衣 山本信	H044	140
保育内容 B	演習	2		○#	中島恵・佐藤万利子 小森谷一朗	H044	142
保育内容 C	演習	2		○#	佐々木貴弘・宮本美和子 君島智子	H044	144
ピアノ II	演習	1	○	○	佐藤万利子・岩淵摂子・他	H043	146
子どもと楽器あそび	演習	1		○	佐藤万利子・岩淵摂子	H024	148
子どもと自然	演習	1		○	柴田卓	H044	150
保育実習 II	実習	2	○	○	佐々木貴弘・中島恵 岩淵摂子	H013	152
保育実習 III	実習	2		○	佐藤万利子・山本信	H044	154
保育実習指導 II	演習	1	○	○	佐々木貴弘・中島恵 岩淵摂子	H013	156
保育実習指導 III	演習	1		○	佐藤万利子・山本信	H044	158
教育相談	講義	1	○		君島智子	H043	160
教育実習事前事後指導 II	実習	1	○	○	宮本美和子・小森谷一朗	H023	162
教育実習	実習	4	○		宮本美和子・小森谷一朗	H023	164

『保育学科 専門教育科目』について

保育学科は、保育士と幼稚園教諭を養成することを目的とする学科です。2年間で合計65単位以上取得することが卒業要件です。保育士資格及び幼稚園教諭の免許状を取得するには、共通教育科目の中で指定されている科目のほかに、専門教育科目からそれぞれ指定された単位を取得することが必要です。

保育者としての心構えや教養、専門的な理論や基礎的な技術を身に付けた、質の高い保育者になることを目指して頑張ってください。保育学科では次の三つを教育目標に掲げています。

教育目的・教育目標

1. 豊かな人間性と幅広い教養を身につける（心）

乳幼児期から児童・青年期までの深い子ども理解に基づき、子どもの人格形成に携わる保育者としての自覚を持ち、豊かな人間性と広い教養を身につけ、保育者としてふさわしい態度や資質の向上を図る。

2. 専門的な知識を身につける（知識）

子どもの発達や社会的適応を援助、支援するための専門的理論や知識を身につけ、子どもの姿と環境の観点から援助および支援のあり方等について広い視野で理解し、正しく判断する知性を養う。

3. 基礎的な技能を身につける（技能）

子どもの主体的な活動を援助するために必要な幅広い確かな基礎的スキルを身につけ、指導力を培うと共に、自ら保育を創造していくための力を養う。

立派な保育者＝立派な社会人となるために、特に次の事項を心掛けて勉学に励みましょう。

1. 学生時代から多く子どもに接してみましょう。

保育者になるためには、まず子どもをよく理解することが大切です。機会のあるごとに多くの子どもと話したり一緒に遊んだりしてみましょう。

2. 基本的マナーは、日常の学生生活の中でも実践しましょう。

保育者になってから子どもの手本になるように立派にしようと思っても、すぐにできるものではありません。言葉づかい、あいさつなど基本的なマナーは普段の生活でも心がけましょう。

3. 実体験が多いので、欠席しないようにしましょう。

講義だけでなく、実技、演習、実習と実体験が多いのが特徴です。欠席すると友人にノートを見せて貰っただけでは補うことが難しくなります。

4. 先生方の研究室を訪れ、何でも相談しましょう。

担任の先生はもちろんのこと先生方は、学生一人一人との触れ合いを大切にしてください。皆さんの勉学に役立ちたいと思っています。遠慮なく何でも相談して下さい。

科目名	保育原理				担当者	村上 裕樹						
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、又は uemura.hiroki@seiwai.ac.jp への連絡（学籍番号・氏名記載必須）とする。										
専門的 学習成果	①	保育の今日的な役割について社会状況を踏まえた上で、適切に説明、報告することができる。										
	②	保育の意義について、自らの学習に基づき、相互インタビューを通して、互いに学び合うことができる。										
	③	保育所保育指針について、協同学習を通して主体的に学び、保育の場面や子どもの姿に応じた適切な解釈を説明、報告することができる。										
	④	保育の目標や方法について、自らの学習に基づき、グループワークでの対話を通して、実習を含めた保育現場のイメージをもちながら具体的な子どもや保育者の姿を説明、報告することができる。										
	⑤	現在の保育の理念を説明できるとともに、それらの理念を基に、これからの保育の課題について、その解決に向けた提案ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における保育の必要性の高まりを理解し、実践において必要とされる知識や理論の基礎について自ら学びに向かい、得た内容等について、説明、報告する事ができる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)										
	(2)	他者と協働的に学び合い、高め合うための方法を知り、実践することが出来るとともに、協働的な関係性の構築に向けて、自ら協力的に体制づくりに参加することができる。(専門的学習成果②③④に関連)										
	(3)	幅広い教養を身に着け、自ら課題を見出し、将来に渡り学び続けるための基礎となる研究心が養われ、学びに向かい続け探求することができる。(専門的学習成果③④⑤に関連)										
授業概要	保育及び幼児の教育のこれまでの歴史的展開を踏まえ、その理念や原理、保育・教育課程についての理解を果たす。また、各種指針・要領(保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領)に基づいて、保育の理念や基本的役割づけ、保育の目標や方法、内容等について、事前学習をもとにした自らの学びを積み重ねると同時に、対話的な学習による協働的な学びを重ねていくことで、学習を深めていく。 これらの学びを通して、理論の上に立った保育実践の展開について考え、今後の課題について自らが説明、報告する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	5	学習ノートの提出と評価								
		課題	30	学習課題の取り組み、実施の評価								
		報告書	40	授業内容の取り組みの報告書(提出状況(20)・内容(20))								
		ワーク	15	グループワークへの取り組み(参加・貢献)の評価								
事前学習	10	事前学習課題への取り組みと提出の評価										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・④・⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②・③・④にて評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③・④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名									
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
	文部科学省	『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示)										
	厚生労働省	『保育所保育指針』(平成29年3月告示)										
内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示)											
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>①準備学習等履修上の留意点：授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。学習時間の自らの確保と保障は本講義受講において、必須とする。</p> <p><事前学習>事前学習課題に基づく学習を必須とする。テキストと参考文献資料に目を通し、専門用語の意味を含め、各回での学習内容について、事前の基礎学習を行うこと。また、講義理解のため、子どもや子育て家庭を取り巻く現在の社会状況について社会制度や生活課題等に関するニュースに目を通しておくこと。</p> <p><事後学習>毎回の講義の内容について振り返りを行うとともに、講義において示される学習課題について、能動的に取り組み提出を必ず行うこと。それらを通して、講義内容の理解を深め、講義の中で得られた自らの疑問や課題について、担当教員への質問だけではなく、図書資料等を用いながら学習を深めること。</p> <p>②フィードバックの方法等：専門的学習成果の評価における評価内容のフィードバックの方法は、以下の通りとする。</p> <p>▶授業の中で取り扱うコメントペーパーに関する内容は、次回講義開始時にコメントへのフィードバックを行う。</p> <p>▶各種テストの内容に関しては、テスト終了時に問題の解答に関してのフィードバックを行う。</p> <p>▶ワーク課題に関するフィードバックは、グループ課題は講義内でのハーベストと返却によりフィードバックとする。</p> <p>▶学習内容を学習ノートに指示された通り段階的にファイリングし、自らの学習の成果を視覚的に捉えることが可能となるよう取り組むこと。</p> <p>▶評価基準の補足は、以下の通りであり、自己学習のフィードバックの際の参考とすること。</p> <p>▶各種テストに関しては解答正解率により評価される。</p> <p>▶グループワークやワーク課題に関しては、ワークを通して得られる成果のみならず、ワーク活動への参加を含めた活動のプロセスも同様に評価される。</p> <p>▶事前・事後の学習に伴う提出課題は、各個人での取り組みが必要となるため、その取り組みのプロセスについても同様に評価される。</p> <p>▶学習ノートは、学びの成果を自らがまとめることが必要であるため、その取り組みが評価される。</p>											

		授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	保育の今日的役割 テーマ：保育の現在の社会における役割(グループワーク)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
	学習成果	保育の今日的役割について事前学習の理解を基に、GWにおいて意見交換が出来るとともに、メンバー学生との対話を経ませ、保育の今日における役割について、積極的に説明、報告できる。			
2回	学習成果	保育の意義(保育の理念と概念) テーマ：保育とは・保育者とは(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
	授業内容	保育の意義(保育の今日的役割と社会的意義) テーマ：現在の社会における保育の役割と社会的意義(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
3回	学習成果	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
	授業内容	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
4回	学習成果	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
	授業内容	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
5回	学習成果	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
	授業内容	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
6回	学習成果	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
	授業内容	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
7回	学習成果	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
	授業内容	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
8回	学習成果	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
	授業内容	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
9回	学習成果	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
	授業内容	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
10回	学習成果	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
	授業内容	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
11回	学習成果	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
	授業内容	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
12回	学習成果	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
	授業内容	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
13回	学習成果	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
	授業内容	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
14回	学習成果	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
	授業内容	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
15回	学習成果	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	
	授業内容	保育の意義(保護者との協働) テーマ：保護者との協働の重要性(相互インタビュー)		▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 ▷当該指定期間で作成の上提出 ▷確認小テスト	

科目名	教育の制度と原理				担当者	山口 刀也・井本 佳宏						
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
授業時間数				30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問や要望等については、授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	教育の基本概念を身につけ、教育に関する歴史及び指導についての基礎知識と多様な教育の理念や実際の教育及び学校とを関連付けて説明できる。										
	②	社会状況が学校教育に与える影響と課題、それに対応した教育政策の動向について説明できる。										
	③	保育施設と地域との連携や協働、学校の管理下での危機管理を含む学校安全の目的と取り組みに参加できる。										
汎用的 学習成果	(1)	幅広く教養を身につけ保育者及び社会人として、地域社会で活用することができる。										
	(2)	自己の課題を客観的に見出し、解決に向け学び続けることができる。										
授業概要	幼児教育の基本（理念、歴史、指導法、カリキュラム、制度等）を解説するとともに、現代日本における教育および保育の営みと家庭的教育の方向性と課題について考察していく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	これまでの修学内容に基づいて記述式問題（持ち込み不可）を実施し、評価する。								
		レポート	20	授業内容に関わるレポート（A4用紙2枚程度）を課す。体裁・内容・根拠を評価する。								
汎用的 学習成果	保育者に必要とされる教育学的基礎教養（思想、歴史、法令、制度、実践論等）を身につけて、自らの実践を理論的に構想・評価・表現する能力を養う。（専門的学習成果①②に関連） 保育者として家庭・地域と連携を取りながら、子どもの最善の利益に資する取り組みをコーディネートすることができる。（専門的学習成果③に関連）											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前にテキストや参考資料を読みポイントを把握した上で授業に臨み、講義内容の理解に備えておく。また、筆記試験の準備を行い、理解の定着に努めること。受講希望者は、第1回に必ず参加すること。なお、テキストを購入する必要はない。②レポートは授業で返却し解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	教育とは何か 乳幼児期の教育の特性（佐藤）	筆記試験（1～3、9～15回分の内容を問う）。第15回授業終了後、試験期間中に実施する
	学習成果	教育の語義・語源、教育の形態、教育の機能について説明できる。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
2回	授業内容	教育と保育の目的・方法 教育と保育の理念と目的（佐藤）	
	学習成果	教育と保育の違い、それぞれの目的やそれを実現するための方法を説明できる。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
3回	授業内容	家庭教育と社会教育 家庭における教育の歴史と現代日本の子育て（佐藤）	
	学習成果	今日の家庭教育や社会教育をめぐる法令や実践について説明することができる。	
予習復習の内容	参考資料を熟読しておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
4回	授業内容	教育制度の諸原理と現代的課題（教育制度の基本原理／公教育／教育法）（井本）	
	学習成果	教育制度について理解し、説明することができる。	
予習復習の内容	参考資料を熟読しておくこと。授業内容について見返すこと。		
5回	授業内容	乳幼児期の保育制度、初等教育制度（井本）	
	学習成果	乳幼児期の保育制度について説明することができる。	
予習復習の内容	参考資料を熟読しておくこと。授業内容について見返すこと。		
6回	授業内容	義務教育と諸外国の教育制度（井本）	
	学習成果	義務教育についてより認識し、諸外国との違いについて説明することができる。	
予習復習の内容	参考資料を熟読しておくこと。授業内容について見返すこと。		
7回	授業内容	学校の現代的課題と可能性（開かれた学校／カリキュラムを開発する学校）（井本）	
	学習成果	現代的課題について説明することができる。	
予習復習の内容	参考資料を熟読しておくこと。授業内容について見返すこと。		
8回	授業内容	安全管理と安全教育（井本）	
	学習成果	安全管理と安全教育について説明することができる。	
予習復習の内容	参考資料を熟読しておくこと。授業内容について見返すこと。		
9回	授業内容	教育の歴史と思想（古代ギリシャ・ローマ） 諸外国の教育思想と子ども観の歴史① 近代以前の子ども観（佐藤）	
	学習成果	古代の教育思想や教育的営為、教育論の概要とその今日的意義について説明できる。	
予習復習の内容	参考資料を熟読しておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
10回	授業内容	教育の思想（コメニウス、ロック、ルソー） 諸外国の教育思想と子ども観の歴史② 近代教育思想（佐藤）	
	学習成果	近代初期の教育思想について説明することができる。	
予習復習の内容	参考文献の該当箇所を熟読しておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
11回	授業内容	日本における教育（江戸時代）我が国における幼児教育の発展（佐藤）	
	学習成果	手習い塾や郷学、藩校など近世の教育実践や教育家について説明することができる。	
予習復習の内容	参考資料をヒントに学習予定事項について調べておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
12回	授業内容	教育の思想（バスターロッチ、オウエン） 幼稚園と保育所（佐藤）	
	学習成果	保育所の起源とその歴史的背景、実践思想について説明することができる。	
予習復習の内容	参考文献の該当箇所を熟読しておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
13回	授業内容	教育の思想（フレーベル） 認定こども園と子ども子育て支援制度（佐藤）	
	学習成果	幼稚園教育の起源と思想、実践理論について説明することができる。	
予習復習の内容	参考文献の該当箇所を熟読しておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
14回	授業内容	日本における教育（明治・大正・昭和） 様々な保育形態と保育方法による教育実践（佐藤）	
	学習成果	日本における教育の近代化をめぐる制度や理念について説明することができる。	
予習復習の内容	参考資料をヒントに学習予定事項について調べておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
15回	授業内容	教育の思想（モンテッソーリ、デュエイ） 遊び論の系譜（佐藤）	
	学習成果	児童中心主義の教育思想とその実践について説明することができる。	
予習復習の内容	参考文献の該当箇所を熟読しておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		

科目名	子ども家庭福祉				担当者	君 島 智 子						
区 分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中のみ											
専門的 学習成果	① 児童福祉の意義と歴史を学び児童の権利とその価値を獲得する。 ② 児童と家庭を取り巻く課題それらに対する施策や福祉制度を学ぶ。 ③ 児童福祉法をはじめとして、その他の法制度についても理解する。											
汎用的 学習成果	(1) 保育士としての業務の広汎性を理解する。(専門的学習成果①②③) (2) 自らの課題を追究し、将来にわたり学び続けるための基礎となる力を獲得している。(専門的学習成果①②③)											
授業概要	日本では1994年に「子どもの権利条約」が批准されたが、児童を取り巻く状況は深刻さを増し、児童の最善の利益に拠って立つ専門職の役割は大変重要なものとなっている。本授業では、児童と家庭の現状と支援についてや児童・家庭福祉制度について学んでいく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	15回の授業の評価となる。								
		レポート	40	8回目の授業で行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で行う。 (2) は専門的学習成果①～③で行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	公益財団法人児童育成協会	『子ども家庭福祉論』				中央法規						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
		授業中に紹介する。										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①教科書を事前に読み込んでおくこと。(予習を週2時間程度) 教科書並びに配布資料を基に復習すること。(週2時間程度) ②公務等(実習・部活動等)で欠席する場合は、必ず所定の様式の欠席届を提出すること。また、病欠についても事後に届け出ること。課題レポートや提出物については、誤字・脱字は減点の対象になるので必ず辞書で確認すること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション	授業内容についてレポート課題を提出及び定期試験を行う。
	学習成果	授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価方法を理解する。	
予習復習の内容	配布資料で復習する。		
2回	授業内容	児童福祉の意義と歴史1	
	学習成果	日本における児童福祉の歴史と子ども観の変遷を学ぶ。	
予習復習の内容	配布資料で復習する。		
3回	授業内容	児童福祉の意義と歴史2	
	学習成果	憲法・児童憲章・子どもの権利条約・子どもの権利の形成過程を理解する。	
予習復習の内容	配布資料で復習する。		
4回	授業内容	子どもと家庭の現状と課題1	
	学習成果	少子高齢化社会のなかの子どもと家庭の現状を理解する。	
予習復習の内容	配布資料で復習する。		
5回	授業内容	子どもと家庭の現状と課題2	
	学習成果	ひとり親家庭の現状と課題また支援策の概要を学ぶ。	
予習復習の内容	配布資料で復習する。		
6回	授業内容	子どもと家庭の現状と課題3	
	学習成果	児童虐待の現状と被虐待児への支援について理解する。	
予習復習の内容	配布資料で復習する。		
7回	授業内容	子どもと家庭の現状と課題4	
	学習成果	DVの現状と被害者支援の実態について理解する。	
予習復習の内容	配布資料で復習する。		
8回	授業内容	子どもと家庭の現状と課題5	
	学習成果	青少年の健全育成の現状や性犯罪や性被害も含めて理解する。	
予習復習の内容	配布資料で復習する。		
9回	授業内容	児童・家庭福祉に関する法制度1	
	学習成果	児童福祉法の概要について学ぶ。	
予習復習の内容	配布資料で復習する。		
10回	授業内容	児童・家庭福祉に関する法制度2	
	学習成果	児童虐待防止法、DV防止法の概要について学ぶ。	
予習復習の内容	配布資料で復習する。		
11回	授業内容	児童・家庭福祉に関する法制度3	
	学習成果	児童手当法、次世代育成支援対策推進法等のその他の法について理解する。	
予習復習の内容	配布資料で復習する。		
12回	授業内容	児童・家庭福祉関連の行政機関	
	学習成果	福祉事務所・児童相談所等の役割と現状について理解する。	
予習復習の内容	配布資料で復習する。		
13回	授業内容	児童・家庭福祉関連の福祉施設1	
	学習成果	通所型の施設を取り上げ、特に待機児童の問題を考える。	
予習復習の内容	配布資料で復習する。		
14回	授業内容	児童・家庭福祉関連の福祉施設2	
	学習成果	入所型の施設を取り上げ、社会的養護について考察する。	
予習復習の内容	配布資料で復習する。		
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの授業のふりかえりとまとめを行い、これからの課題と展望を考察する。	
予習復習の内容	配布資料で復習する。		

科目名	社会福祉				担当者	上村 裕 樹							
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業	講義	学年	1年	開講期	前期	
				授業時間数	30	時間	形態						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、又は uemura.hiroki@seiwa.ac.jp への連絡（学籍番号・氏名記載必須）とする											
専門的 学習成果	①	社会福祉の歴史的展開や法制度などについて理解し、適切に説明・報告する事ができる。											
	②	社会福祉の理念や原理を理解し、現在の社会福祉サービスについて、説明することができる。											
	③	社会福祉の対象を理解し、その対象者の背景や状況を踏まえた上で、対象者が抱える課題とその解決策について説明・報告することができる。											
	④	社会福祉の働きを理解し、実習を含む施設保育の場面をイメージしながら社会福祉の役割や意義について、自ら積極的に説明することができる。											
	⑤	社会福祉の課題について自ら考えることができると共に、その解決に向けた提案を対話型学習において、提案する事ができる。											
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における社会福祉の必要性を理解し、実践において必要とされる知識や理論の基礎について自ら学びに向かい、得た内容について、説明、報告する事ができる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)											
	(2)	他者と協働的に学び合い、高め合うための方法を知り、実践することが出来るとともに、協働的な関係性の構築に向けて、自ら協力的に体制づくりに参加することができる。(専門的学習成果①③④⑤に関連)											
	(3)	幅広い教養を身に着け、自ら課題を見出し、将来に渡り学び続けるための基礎となる研究心が養われ、学びに向かい続け探求することができる。(専門的学習成果③④⑤に関連)											
授業概要	社会福祉のこれまでの歴史的展開を踏まえ、その理念や原理、各種法制度の成立の状況やその変遷を知り、社会福祉サービスの成立とその役割について、理解する。また、社会福祉の対象についても同様に社会的状況やその背景、各対象へのサービスの具体的な内容についても理解する。												
	そして、これらの理解を得るための事前学習をもとにした自らの学びを積み重ねると同時に、対話的な学習による協働的な学びを積み重ねていくことで、学習を深めていく。これらの学びを通して、理論の上に立った社会福祉実践の展開について考え、今後の課題について自らが説明、報告する。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	5	学習ノートの提出と評価									
		課題	30	学習課題の取り組み、実施の評価									
		報告書	40	授業内容の取り組みの報告書（提出状況（20）・内容（20））									
		ワーク	15	グループワークへの取り組み（参加・貢献）の評価									
	事前学習	10	事前学習課題への取り組みと提出の評価										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・④・⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①・③・④・⑤にて評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③・④・⑤にて評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名							
	芝野松次郎、新川泰弘、山縣文治 編著	[社会福祉入門]				ミネルヴァ書房							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名							
		[施設実習必携ハンドブック]				晃洋書房							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>①準備学習等履修上の留意点：授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。学習時間の自らの確保と保障は本講義受講において、必須とする。</p> <p>＜事前学習＞事前学習課題に基づく学習を必須とする。テキストと参考文献資料に目を通し、専門用語の意味を含め、各回での学習内容について、事前の基礎学習を行うこと。また、講義理解のため、子どもや子育て家庭を取り巻く現在の社会の状況について社会制度や生活課題等に関するニュースに目を通しておくこと。</p> <p>＜事後学習＞毎回の講義の内容について振り返りを行うとともに、講義において示される学習課題について、能動的に取り組み提出を必ず行うこと。それらを通して、講義内容の理解を深め、講義の中で得られた自らの疑問や課題について、担当教員への質問だけではなく、図書資料等を用いながら学習を深めること。</p> <p>②フィードバックの方法等：専門的学習成果の評価における評価内容のフィードバックの方法は、以下の通りとする。</p> <p>▶授業の中で取り扱うコメントペーパーに関する内容は、次回講義開始時にコメントへのフィードバックを行う。</p> <p>▶各種テストの内容に関しては、テスト終了時に問題の解答に関してのフィードバックを行う。</p> <p>▶ワーク課題に関するフィードバックは、グループ課題は講義内でのハーベストと返却によりフィードバックとする。</p> <p>▶学習内容を学習ノートの指示された通り段階的にファイリングで、自らの学習の成果を視覚的に捉えることが可能となるよう取り組むこと。</p> <p>評価基準の補足は、以下の通りであり、自己学習のフィードバックの際の参考とすること。</p> <p>▶各種テストに関しては解答正解率により評価される。</p> <p>▶グループワークやワーク課題に関しては、ワークを通して得られる成果のみならず、ワーク活動への参加を含めた活動のプロセスも同様に評価される。</p> <p>▶事前・事後の学習に伴う提出課題は、各個人での取り組みが必要となるため、その取り組みのプロセスについても同様に評価される。</p> <p>▶学習ノートは、学びの成果を自らがまとめることが必要であるため、その取り組みが評価される。</p>												

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	現代生活と社会福祉 テーマ：現代社会の生活と社会福祉	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷確認小テスト
	学習成果	現代の社会状況について理解し、社会福祉の役割やその意義について、グループワークにおいて、積極的に説明・報告ができる。	
2回	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷確認小テスト
	授業内容	社会福祉の歴史 テーマ：日本における社会福祉の歴史	
3回	学習成果	社会福祉の歴史について理解し、社会福祉の成立からその変遷について、グループワークにおいて、積極的に説明・報告ができる。	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷確認小テスト
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
4回	授業内容	社会福祉の法律 テーマ：社会福祉法制度	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷確認小テスト
	学習成果	社会福祉の法律の成立から、その働きについて、グループワークにおいて、積極的に説明・報告ができる。	
5回	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷確認小テスト
	授業内容	社会福祉の行政組織 テーマ：社会福祉行政の仕組み	
6回	学習成果	社会福祉の行政組織の仕組みについて理解し、その働きや役割について、グループワークにおいて、積極的に説明・報告ができる。	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷理解度確認テスト
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
7回	授業内容	社会福祉の民間活動 テーマ：社会福祉の民間活動の現状	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷確認小テスト
	学習成果	社会福祉の民間活動について、その現状と課題について、グループワークにおいて、積極的に説明・報告ができる。	
8回	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷確認小テスト
	授業内容	社会福祉従事者の役割 テーマ：社会福祉従事者の役割	
9回	学習成果	社会福祉従事者の資格や業務について理解し、その役割と働きについて、グループワークにおいて、積極的に説明・報告ができる。	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷確認小テスト
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
10回	授業内容	社会福祉における相談援助 テーマ：相談援助の役割と仕組み	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷確認小テスト
	学習成果	社会福祉における相談援助の意義と役割について理解し、福祉課題解決のための相談援助のあり方について、自ら説明することができる。	
11回	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷確認小テスト
	授業内容	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み テーマ：利用者保護の仕組み	
12回	学習成果	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解し、権利擁護や成年後見制度の役割について、グループワークにおいて、積極的に説明・報告ができる。	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷理解度確認テスト
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
13回	授業内容	児童家庭福祉 テーマ：現在社会の児童家庭福祉	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷確認小テスト
	学習成果	現在の社会における児童家庭福祉の現状について理解し、児童家庭福祉におけるサービスの役割や課題について、グループワークにおいて、説明・報告ができる。	
14回	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷確認小テスト
	授業内容	高齢者保健福祉 テーマ：現在社会の高齢者保健福祉	
15回	学習成果	現在の社会における高齢者福祉の現状について理解し、高齢者福祉におけるサービスの役割や課題について、グループワークにおいて、説明・報告ができる。	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷確認小テスト
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
16回	授業内容	障害者福祉 テーマ：現在社会の障害者福祉	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷確認小テスト
	学習成果	現在の社会における障害者福祉の現状について理解し、障害者福祉におけるサービスの役割や課題について、グループワークにおいて、説明・報告ができる。	
17回	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷確認小テスト
	授業内容	生活保護制度 テーマ：生活保護制度の仕組みと課題	
18回	学習成果	生活保護制度の仕組みや役割について理解し、現在の社会における生活保護制度の必要性とその課題について、グループワークにおいて、説明・報告ができる。	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷理解度確認テスト（質問の向上）
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
19回	授業内容	地域福祉 テーマ：地域福祉の仕組みと課題	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷確認小テスト
	学習成果	地域福祉の仕組みや役割について理解し、現在の社会における地域福祉の必要性とその課題について、グループワークにおいて、説明・報告ができる。	
20回	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷確認小テスト
	授業内容	保育と社会福祉 テーマ：社会福祉における保育	
21回	学習成果	保育の仕組みや役割について理解し、現在の社会における保育の必要性とその課題について、グループワークにおいて、説明・報告ができる。	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷理解度確認テスト
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	
22回	授業内容	社会福祉の課題 テーマ：社会福祉の課題の解決に向けて	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷理解度確認テスト（13-15回） ▷学習ノートの提出
	学習成果	社会福祉の課題について、これまでの学びをもとに、社会福祉に従事するものとして、自らの具体的な参与と福祉課題への解決のアプローチに関して提案ができる。	
23回	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）	▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該添削時までに作成の上提出 ▷確認小テスト
	授業内容	社会福祉の課題 テーマ：社会福祉の課題の解決に向けて	

科目名	社会的養護 I				担当者	川 上 芳 夫						
区 分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1 年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				授業時のみ								
専門的 学習成果	①	社会的養護とは何か、現状と今後の課題を論じることができる。										
	②	社会的養護の制度、仕組みを理解し、説明できる。										
	③	児童養護の先駆者の業績、現在につながる諸制度を理解し、説明できる。										
	④	施設養護、家庭養護の役割を理解し、説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育士としての業務の広汎性を理解する。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	自らの課題を追究し、将来にわたり学び続けるための基礎となる力を獲得している。(専門的学習成果①②③④)										
授業概要	平成28年6月に改正された児童福祉法は、これまでの社会的養護を大きく変革するものとなった。これらを踏まえて、戦後70年の社会的養護の歩みと現状、そしてこれからの社会的養護のあり方を探っていく。また、大きな社会的課題となっている、児童虐待の現状と課題にも焦点をあてる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	全15回分の講義内容について筆記試験を行い、評価する。								
		平常点	50	授業への関心、意欲、態度を評価するとともに、原則として毎回課す提出課題への取り組み状況を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で行う。 (2) は専門的学習成果①～④で行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	伊藤嘉余子、福田公教 編著		『社会的養護』						ミネルヴァ書房			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
			授業の中で紹介する。									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①教科書を事前に読み込んでおくこと。(予習を週2時間程度) 教科書並びに配布資料を基に復習すること。(週2時間程度) ②公務等(実習・部活動等)で欠席する場合は、必ず所定の様式の欠席届を提出すること。また、病欠についても事後に届け出ること。										

授業計画			学習成果の評価
1 回	授業内容	オリエンテーション担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価方法	授業内容について 報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	社会的養護の大纲を理解する。	
	予習復習 の 内容	配布した資料で復習する。	
	授業内容	日本の社会的養護の現状と子ども虐待	2 回目の授業内容について報告課題 を与え、提出させる。
学習成果	社会的養護の現状を理解し、説明できる。		
	予習復習 の 内容	教科書 P 1～19 をよく読んでおく。	
	授業内容	子どもの権利擁護から考える。	3 回目の授業内容について報告課題 を与え、提出させる。
学習成果	社会的養護の再編の方向性を理解し、説明できる。		
	予習復習 の 内容	教科書 P 1～19 をよく読んでおく。	
	授業内容	社会的擁護の基本理念。	4 回目の授業内容について報告課題 を与え、提出させる。
学習成果	社会的養護の必要性について理解し、説明できる。		
	予習復習 の 内容	教科書 P 1～19 をよく読んでおく。	
	授業内容	社会的養護の歴史 1	5 回目の授業内容について報告課題 を与え、提出させる。
学習成果	古代から大正期までの社会的養護の歴史を理解し、説明できる。		
	予習復習 の 内容	教科書 P 22～42 をよく読んでおく。	
	授業内容	社会的養護の歴史 2	6 回目の授業内容について報告課題 を与え、提出させる。
学習成果	昭和から現在までの社会的養護の歴史を理解し、説明できる。		
	予習復習 の 内容	教科書 P 22～42 をよく読んでおく。	
	授業内容	社会的養護の課題と将来像	7 回目の授業内容について報告課題 を与え、提出させる。
学習成果	社会的養護にかかる施策の動向を理解し、説明できる。		
	予習復習 の 内容	教科書 P 22～42 及び配布資料をよく読んでおく。	
	授業内容	社会的養護の制度と実施体系	8 回目の授業内容について報告課題 を与え、提出させる。
学習成果	社会的養護の相談システムを理解し、説明できる。		
	予習復習 の 内容	教科書 P 43～68 をよく読んでおく。	
	授業内容	子どもの権利擁護と社会的養護	9 回目の授業内容について報告課題 を与え、提出させる。
学習成果	社会的養護の国際的な動きを理解し、説明できる。		
	予習復習 の 内容	教科書 P 69～90 をよく読んでおく。	
	授業内容	社会的養護の理念と原理	10 回目の授業内容について報告課題 を与え、提出させる。
学習成果	社会的養護を支える理論の概要を理解し、説明できる。		
	予習復習 の 内容	教科書 P 91～112 をよく読んでおく。	
	授業内容	施設養護の実践と方法 1	11 回目の授業内容について報告課題 を与え、提出させる。
学習成果	乳児院、児童養護施設等の概況を理解し、説明できる。		
	予習復習 の 内容	教科書 P 113～129 をよく読んでおく。	
	授業内容	施設養護の実践と方法 2	12 回目の授業内容について報告課題 を与え、提出させる。
学習成果	児童心理治療施設、児童自立支援施設等の概況を理解し、説明できる。		
	予習復習 の 内容	教科書 P 130～160 をよく読んでおく。	
	授業内容	家庭養護の実践	13 回目の授業内容について報告課題 を与え、提出させる。
学習成果	里親が果たしている役割を理解し、説明できる。		
	予習復習 の 内容	教科書 P 161～190 をよく読んでおく。	
	授業内容	社会的養護に求められる専門性。	14 回目の授業内容について報告課題 を与え、提出させる。
学習成果	社会的養護における保育士の専門性について理解し、説明できる。		
	予習復習 の 内容	教科書 P 191～215 をよく読んでおく。	
	授業内容	社会的養護の課題と展望	15 回目の授業内容について報告課題 を与え、提出させる。
学習成果	家族支援のあり方を理解し、説明できる。		
	予習復習 の 内容	教科書 P 217～231 をよく読んでおく。	

科目名	保育者論				担当者	中 島 恵 (実務家教員)						
区 分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、又は nakajima.megumi@seiwa.ac.jp への連絡（学籍番号・氏名記載必須）とする。										
専門的 学習成果	①	子どもを取り巻く現在社会の状況について理解し、幼児教育や保育、保育士の必要性と役割について説明できる。										
	②	保育者の専門職としての業務について理解し、職務内容及び服務内容について説明できる。										
	③	少子化・経済状況・教育課題・家庭の養育力などの面から現在の社会状況について理解し、その中で必要とされる保育者の役割について説明できる。										
	④	求められる保育者としての理想像や資質能力について理解し、保育者の専門性を向上させることの意義について説明できる。										
	⑤	保育者の専門性を向上させるために必要な保育者自らの取り組みについて理解し、保育者を目指す受講生自らの取り組むべき学習や、期待される役割について理解し、自らの働き方のイメージを持ち、具体的な保育場面を想定し、自ら説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における保育者の重要性の高まりを理解し、教職の意欲を高め、進路選択における保育職のあり方を考え表現することができる。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	幅広い教養を身につけ、自ら課題を見出し、将来に渡り学び続けるための基礎となる研究心が養われ、学びに向かい続け探求することができる。(専門的学習成果①④⑤)										
授業概要	現代社会における社会状況について理解を深め、教育課題の現状とこれからの教育が担う役割や課題について、自ら説明することが可能となるよう理解を深める。また、保育・教育の重要性を理解するとともに、保育者の役割や働きについて理解する。そして、保育者の職務について適切に理解し、自らの保育者としての質の向上の必要性と意義、向上に向けた学習の手法と仕組みについて学ぶ。その他、保育者の連携や協働の重要性、家庭との協力連携体制の構築の重要性を認識し、社会資源を有効に活用した協働の方法を模索するとともに、子どもの発達に沿った就学に向けて、小学校教育との連続性についても学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		テスト	30	理解度確認テスト・確認小テストの正否による得点での評価								
		レポート	40	授業内容の取り組みのレポート（提出状況（20）・内容（20））								
		ワーク	20	グループワークへの取り組み（参加・貢献）の評価								
事前学習	10	事前学習課題への取り組みと提出の評価										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・④にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①・④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	佐藤哲也編著	『子どものこころにより添う保育者論』					福村出版					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	文部科学省	『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）										
	厚生労働省	『保育所保育指針』（平成29年3月告示）										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>①準備学習等履修上の留意点：授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。学習時間の自らの確保と保障は本講義受講において、必須とする。 <事前学習>事前学習課題に基づく学習を必須とする。テキストや参考文献資料に目を通し、専門用語の意味を含め、各回での学習内容について、事前の基礎学習を行うこと。また、講義理解のため、子どもや子育て家庭を取り巻く現在社会の状況について社会制度や生活課題等に関するニュースに目を通しておくこと。 <事後学習>毎回の講義の内容について振り返りを行うとともに、講義において示される学習課題について、能動的に取り組み提出を必ず行うこと。それらを通して、講義内容の理解を深め、講義の中で得られた自らの疑問や課題について、担当教員への質問だけではなく、図書資料等を用いながら学習を深めること。</p> <p>②フィードバックの方法等：専門的学習成果の評価における評価内容のフィードバックの方法は、以下の通りとする。 ▶学習内容を学習ノートに指示された通り段階的にファイリングし、自らの学習の成果を視覚的に捉えることが可能となるよう取り組むこと。 評価基準の補足は、以下の通りであり、自己学習のフィードバックの際の参考とすること。 ▶グループワークやワーク課題に関しては、ワークを通して得られる成果のみならず、ワーク活動への参加を含めた活動のプロセスも同様に評価される。 ▶事前・事後の学習に伴う提出課題は、各個人での取り組みが必要となるため、その取り組みのプロセスについても同様に評価される。</p>											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション・保育者の定義	ワークシートの提出及び授業課題の提出 確認テスト
	学習成果	保育者の定義について理解し、その社会的意義について説明ができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
2回	授業内容	保育者の役割と倫理	
	学習成果	保育者の役割について理解し、幼児教育や保育におけるその必要性について、説明ができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
3回	授業内容	教職の社会的意義	
	学習成果	教職の役割について理解し、幼児教育や保育における教職の意義とその必要性について説明ができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
4回	授業内容	保育者に求められる資質 (1) 理想的な保育者像	グループワーク ワーク評価・相互評価
	学習成果	自らの理想的保育者像について言語化することができ、グループワークを通し、他者の理想像を学ぶことで、保育者の理想像について報告・検討することができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
5回	授業内容	保育者に求められる資質 (2) 体験の中の保育者理解	グループワーク ワーク評価・相互評価
	学習成果	保育者に必要とされる資質・能力について理解し、その育成のために必要な取り組みについて、グループワークにおいて、積極的に報告・検討する。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
6回	授業内容	保育者の専門性 (1) 今保育者に求められること・信頼関係	ワークシートの提出及び授業課題の提出 確認テスト
	学習成果	保育者に求められる信頼関係について理解し、具体的に説明することができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
7回	授業内容	保育者の専門性 (2) 成長と省察	
	学習成果	保育者に求められる、省察について理解し、説明することができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
8回	授業内容	保育者の専門性 (3) 心を育てる保育	
	学習成果	子どもの心を育てる保育について、言語化することができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
9回	授業内容	保育者の職務 (1) 豊かな環境の構築	
	学習成果	保育者の職務である、環境構築について理解し、説明ができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
10回	授業内容	保育者の職務 (2) 欠格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等	
	学習成果	保育者としての欠格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等について理解し説明ができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
11回	授業内容	保育者の職務 (3) 危機管理	ワークシートの提出及び授業課題の提出 確認テスト
	学習成果	保育上の危機管理について、理解し説明ができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
12回	授業内容	保育者の職務 (4) 小学校との連携	
	学習成果	小学校との連携について、理解し説明することができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
13回	授業内容	保育者と同僚性	
	学習成果	保育者にとって必要とされる同僚との協働について理解し、自らの保育者としての働きについて自らの意見をグループワークにおいて伝え、学び合うことができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
14回	授業内容	質の向上と研修制度（学び続けることの意義）	
	学習成果	学習し続ける専門職において、自らの実践を常に振り返り課題を見出すことの必要性を理解し、そのような保育者の働き方について言語化することができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	
15回	授業内容	保育・保育者の課題と展望	
	学習成果	保育者として課題について理解し、言語化することができる。	
	予習復習の内容	予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告	

科目名	保育の心理学				担当者	山本 信 (実務家教員)						
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、または email:yamamoto.makoto@seiwai.ac.jp への連絡 (学籍番号・氏名記載必須) とする。										
専門的 学習成果	①	子どもの発達について理解し、保育・教育における発達理解の意義について説明できる。										
	②	運動・言語・認知・社会性・感情など領域ごとの発達メカニズムとプロセスについて理解し、想定された保育場における具体的な子どもの姿と関連付けて説明できる。										
	③	子どもの学習の原理について理解し、子どもの主体的な学習に必要とされる保育者の姿勢・能力について考察し、説明できる。										
	④	子どもの学びと遊びとの関連について理解・考察し、具体的な保育場面における保育者の役割について説明できる。										
	⑤	特別な配慮を必要とする子どもの特徴について理解し、子どもを取り巻く現在の状況とともに、保育現場においてどのような支援が行われているのかについて説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	子どもの育ちに関する知識を身につけ、保育者としてどのように子どもを理解し支援していくことができるのかについて考え表現することができる。(専門的学習成果①②③)										
	(2)	現代社会における保育者の役割を理解し、発達や学習に関する専門的知識を活用しながら自ら課題を見出し、学びに向かい続けることができる。(専門的学習成果①④⑤)										
授業概要	発達についての知識を通じて乳幼児を理解し、支援・指導することの重要性について学ぶ。また、発達段階ごとの発達特徴とその変化を理解し、生涯発達の中での乳幼児期の位置づけをふまえた保育・教育のあり方について学ぶ。 また、運動・言語・認知・感情・社会性などの領域ごとの発達プロセスについて学び、各領域が相互に関連していることを理解する。 さらに、乳幼児の主体的な学びのメカニズムと保育・幼児教育との関連について理解し、発達や学びに関する専門的知識が、どのように保育現場において活用されていくべきかについて学ぶ。保育士としての実務経験をもとに保育現場における子どもの具体的な姿や発達障害等に関する現状や課題と照らし合わせながら授業を展開していく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		ワークシート	30	ワークシート(2回): 講義内容を踏まえ、テーマに沿ったレポートの評価を行う(各20点)。								
		小テスト	20	小テスト(2回): 正答率に応じて評価を行う(各10点)								
		確認試験	50	これまでの学習内容に基づき、学習習熟度に関してのテストを実施し、評価を行う。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①・④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	本郷 一夫・飯島 典子 編著	『シードブック 保育の心理学』				建帛社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	文部科学省	『幼稚園教育要領』(解説書含む)										
	厚生労働省	『保育所保育指針』(解説書含む)										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(解説書含む)										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業は、テキスト・参考資料・配付資料を中心に進める。また、授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。 ＜事前学習(週2時間程度)＞: テキスト・参考文献を読み、専門用語の理解をはじめ、各回の学習内容について予習を行うこと。また、子どもを取り巻く社会状況の理解のために、新聞やニュース等から積極的に情報を取り入れ、学習内容と関連付けながら深く考える機会を多く持つこと。 ＜事後学習(週2時間程度)＞: 毎回の講義の内容について復習を行い、疑問や課題等については、担当教員への質問や参考資料・図書資料等を活用しながら理解を深めること。また、新聞・ニュース等で得られた情報と学習内容を結びつけながら、自分の考えを言葉や文字で表現できるようにし、レポートの作成等につなげること。 ②フィードバックの方法については、以下の通りとする。 ＜小テスト＞テストの実施後に解答・解説を行う。 ＜ワークシート＞提出後2週間以内を目安に、評価のポイントを含めたコメントとともに返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	子どもの発達を理解することの意義	1～2回の講義内容を踏まえ、ワークシートを提出。 テーマ: 「保育者の専門性①: 子どもの発達理解と保育」 第2回の授業終了後、1週間以内に提出(研究室)
	学習成果	発達と発達を規定する要因について理解し、保育者として発達を理解することの意義について説明することができる。	
2回	予習復習の内容	発達の定義を理解し、発達を理解することの意義について考えておくこと。表面的発達や潜在的発達について理解し、保育者がどのように子どもの発達を捉え、保育を行うべきかについて、具体的な言葉でまとめておくこと。	小テスト 5回目の授業後半にて実施 ○身体・運動の発達 ○認知発達
	授業内容	子どもの発達と保育 様々な子どもと親や保育者・発達親について理解し、子どもと発達と環境や、養護と教育との一体性について説明することができる。	
3回	学習成果	子どもと親の変遷や代表的な保育親について理解しておくこと。様々な保育親の理解を通して、子どもと環境との関わりについて理解を深め、養護と教育が一体となった保育を行う意義についてワークシートにまとめること。	小テスト 5回目の授業後半にて実施 ○身体・運動の発達 ○認知発達
	予習復習の内容	胎児期からの身体の発達や、発達の方向性・順序性について理解し、運動発達の分類と関連させながら具体的な子どもの動きや姿を説明することができる。	
4回	授業内容	身体・運動の発達	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会的発達 ○仲間関係の発達
	学習成果	胎児期からの身体の発達や、発達の方向性・順序性について理解し、運動発達の分類と関連させながら具体的な子どもの動きや姿を説明することができる。	
5回	予習復習の内容	新生児反射や、運動発達の方向性と順序性について、保育者の中での具体的な子どもの姿をイメージしながら理解しておくこと。運動発達と他の発達領域との関連について調べ、理解を深めておくこと。	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会的発達 ○仲間関係の発達
	授業内容	乳児期・幼児期前期の認知発達	
6回	学習成果	知覚・模倣・表象の発達や代表的な発達理論について理解し、認知発達と関連した乳児期・幼児期前期の子どもの姿について説明することができる。	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会的発達 ○仲間関係の発達
	予習復習の内容	認知発達の代表的な理論(ピアジェ理論)について理解しておくこと。認知が発達することにより、乳幼児ができるようになること、理解することについて具体的に説明できるよう、まとめておくこと。	
7回	授業内容	幼児期後期・児童期の認知発達	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会的発達 ○仲間関係の発達
	学習成果	実行機能やメタ認知の発達について理解し、心の理論や科学的概念の獲得のメカニズムについて説明することができる。	
8回	予習復習の内容	認知発達に関する専門用語について調べ、具体的な子どもの姿とともに理解しておくこと。認知発達と他の発達領域との関連について調べ、理解を深めること。	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会的発達 ○仲間関係の発達
	授業内容	言語の発達	
9回	学習成果	前言語期を含むコミュニケーションの発達について理解し、話し言葉・読み言葉・書き言葉など、子どもの発達における言葉の役割と言葉の発達を促す要因について説明することができる。	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会的発達 ○仲間関係の発達
	予習復習の内容	共同注意・三項関係等、発達前夜のコミュニケーションの発達について理解しておくこと。表象・象徴機能と言葉の発達について理解を深め、言葉の発達を促す保育者のかかり方についてまとめること。	
10回	授業内容	感情の発達	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会的発達 ○仲間関係の発達
	学習成果	感情の分化や感情理解の発達について理解し、子どもの生活において感情がどのような役割を果たしているか、感情の発達とはどのようなことかについて具体的に説明することができる。	
11回	予習復習の内容	感情が発達するとはどのようなことかを考え、調べておくこと。他者の感情理解や、感情を適切に調整するためには何が必要であるかについて考え、非認知能力の発達との関連について理解を深めること。	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会的発達 ○仲間関係の発達
	授業内容	社会的発達	
12回	学習成果	自己意識や自己制御の発達について理解し、道徳性や規範意識を育むための要因について説明することができる。	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会的発達 ○仲間関係の発達
	予習復習の内容	社会的発達に関連する要因について調べ、理解しておくこと。社会性が発達するというとはどのようなことか、他の発達領域との関連について理解した上で自分の言葉で表現できるようにすること。	
13回	授業内容	仲間関係の発達	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会的発達 ○仲間関係の発達
	学習成果	幼児期・児童期における仲間関係の発達について理解し、集団の中で子どもがどのように社会的スキルを獲得していくか、社会化に向かっていくのかについて具体的な場面を挙げて説明することができる。	
14回	予習復習の内容	社会的スキルや社会化など、仲間関係に関する用語について調べ、理解しておくこと。個々の発達に加え、クラス集団の発達を促していくことの意味について理解を深めること。	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会的発達 ○仲間関係の発達
	授業内容	子どもの学びと発達	
15回	学習成果	学習の原理について理解し、意欲や動機づけの役割を理解しながら子どもの学びを支えるための保育者の役割について説明することができる。	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会的発達 ○仲間関係の発達
	予習復習の内容	保育の中で、子どもの学びがどのように展開されているのか自分なりに調べておくこと。学びを促すために、保育者がすべきことは何か、自分の言葉で表現できるようにすること。	
16回	授業内容	生活と遊びを通した学び	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会的発達 ○仲間関係の発達
	学習成果	子どもの生活・遊びと学びの関連について理解し、知的好奇心や自己肯定感を育むために必要なことを具体的な保育場面で挙げて語ることができる。	
17回	予習復習の内容	生活や遊びがどのように学びにつながっているのかについて理解しておくこと。保育のあらゆる場面において、それらがどのような学びにつながっているかを考え、プレゼンテーション資料の作成を行うこと。	小テスト 9回目の授業後半にて実施 ○言語の発達 ○感情の発達 ○社会的発達 ○仲間関係の発達
	授業内容	特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援	
18回	学習成果	幼児期・児童期にみられる障害や「気になる」子どもの特徴について理解し、特別な配慮を必要とする子どもへの支援について自分の言葉で語ることができる。	小テスト 9回目の授業終了時に提出 ○特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援 ○子どもの発達と現代的課題 ○発達と学びの連続性・就学移行支援
	予習復習の内容	障害の分類や主な症状について調べ、理解しておくこと。子どもの発達・学びを保障するための「特別な配慮」とはどのようなことを具体的に考え、理解を深め、表現できるようにすること。	
19回	授業内容	子どもの発達と現代的課題	小テスト 9回目の授業終了時に提出 ○特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援 ○子どもの発達と現代的課題 ○発達と学びの連続性・就学移行支援
	学習成果	子どもを取りまく現代社会における様々な課題やそれらが子どもと発達へ及ぼす影響について理解し、現代社会の特質を踏まえた具体的な保育・教育について語ることができる。	
20回	予習復習の内容	就学支援やスタートアップカリキュラムについて調べ、理解しておくこと。現代社会における様々な課題についてまとめ、その中での保育者の役割や、専門的知識の活用について考え、理解を深めること。	小テスト 9回目の授業終了時に提出 ○特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援 ○子どもの発達と現代的課題 ○発達と学びの連続性・就学移行支援
	授業内容	発達と学びの連続性・就学移行支援	
21回	学習成果	これまでの学習内容について理解し、就学に向けての現在の取り組みや課題を踏まえ、保育者としてどのようにあるべきか、どのような環境構成をしていくべきかについて、自らの思いを含めて説明することができる。	小テスト 9回目の授業終了時に提出 ○特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援 ○子どもの発達と現代的課題 ○発達と学びの連続性・就学移行支援
	予習復習の内容	これまでの学習内容を理解し、乳幼児期の育ちにおいて「保育」が果たすべき役割について考え、自らの言葉で表現できるようにすること。発達や学びに関する専門的知識の活用について考え、それらをふまえた自らの学習についても評価を行うこと。	
22回	授業内容	発達・学びの多様性と発達の機能関連、振り返りとまとめ	小テスト 9回目の授業終了時に提出 ○特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援 ○子どもの発達と現代的課題 ○発達と学びの連続性・就学移行支援
	学習成果	各発達領域が互いに関連しながら、どのように子どもの育ちや適応に影響を及ぼしているかについて振り返り、自らの言葉で説明することができる。	
23回	予習復習の内容	各領域の発達プロセスやメカニズムについて理解し、領域間の関連や、学びとの連続性について理解を深めておくこと。また、本講義のまとめとして、学習内容の振り返りを行い、自らの学習成果に関して具体的な評価を実施すること。	小テスト 9回目の授業終了時に提出 ○特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援 ○子どもの発達と現代的課題 ○発達と学びの連続性・就学移行支援

科目名	子どもの保健				担当者	下山田 鮎 美						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		連絡や質問は、クラスルームよりメールで連絡すること。学籍番号と氏名、用件を明記すること。										
専門的 学習成果	①	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について説明できる										
	②	子どもの身体的な発育・発達と保健について説明できる										
	③	子どもの心身の健康状態とその把握の方法について説明できる										
	④	子どもの疾病の予防方法及び適切な対応について説明できる										
	⑤	子どもの健やかな育ちを支援する多職種間の連携・協働について説明できる										
汎用的 学習成果	(1)	子どもの身体的な発育・発達に関する専門的知識を修得し、保育及び保健活動に必要な基礎的な技能を高める（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	子どもの健康増進及び疾病予防と適切な対応について理解を深め、保育及び保健活動に必要な基礎的な技能を高める（専門的学習成果③④に関連）										
	(3)	地域における多職種連携・協働について理解を深め、保育者の社会的役割を果たすための基礎的な技能を高める（専門的学習成果⑤に関連）										
授業概要	この授業は、保育士養成カリキュラム「子どもの保健」に対応している。授業にて扱う内容は、子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの身体的発育・発達と保健、子どもの心身の健康状態とその把握、子どもの疾病予防及び適切な対応、である。保育者が子どもや養育者のニーズを適切にとらえ、保育のスペシャリストとしての活動が展開できるようになるために、子どもそのものはもちろんのこと、子どもを取り巻く社会情勢、各種制度の内容が理解できるようになることを目指す。また、子どもの健やかな育ちを支援するためには、多職種による連携についての理解も重要であることから、それらの基盤となる内容も扱う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60%	授業時間内に行う。教科書内の「振り返り問題」より出題する。								
		レポート	30%	「子どもの保健と保育者の役割」を論理的に述べているかを観点に評価を行う。								
		平常点	10%	授業の態度・関心・意欲を評価する。「授業における学び」をメッチャに提出しない場合は、減点対象となる場合がある。								
汎用的 学習成果	汎用的学習の成果は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①及び②で評価を行う (2) は専門的学習成果③及び④で評価を行う (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	小林美由紀		『授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト』						診断と治療社			
	医療情報科学研究所		『公衆衛生がみえる2022-2023』						メディックメディア			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点	①準備学習等履修上の留意点： ・事前学習として、教科書の該当箇所を必ず読み、わからない言葉は調べる。知識ノートを作ることが望ましい（予習週に2時間程度）。 ・事後学習として、毎回必ず「授業における学び」を提出し、教科書の「振り返り問題」を解き、学びを確認すること。											
②課題に対するフィードバックの方法等	②課題に対するフィードバックの方法：「授業における学び」の傾向を踏まえ、授業中に全体にフィードバックする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	子どもの健康と保健①保健活動とは（第1章①）	1. 教科書の各章末にある「振り返り問題」を解き、各自で学習成果の確認を行うこと。 2. 定期試験においては、上記「振り返り問題」より出題し、学習成果の定着の最終確認を行う。
	学習成果	保健活動の意義と目的を理解する。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。		
2回	授業内容	子どもの健康と保健②子どもの出生、成長・発達とは（第1章②）	
	学習成果	子どもの出生、子どもの成長・発達を理解する。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。		
3回	授業内容	子どもの健康と保健③子どもの成長・発育とは（第2章①）	
	学習成果	子どもの身体的発育と運動機能の発達を理解する。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。		
4回	授業内容	子どもの発育・発達と保健②子どもの生理機能、生活習慣とは（第2章②）	
	学習成果	子どもの生理機能の発達と生活習慣を理解する。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。		
5回	授業内容	子ども・子育て世代を対象とした制度①母子保健法とは（第6章・7章）	
	学習成果	母子保健法及び母子保健活動の概要について理解する。	
予習復習の内容	教科書、公衆衛生がみえるの該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。		
6回	授業内容	子ども・子育て世代を対象とした制度②健やか親子21、子育て支援対策とは（第6章）	
	学習成果	健やか親子21、子育て支援対策の概要を理解する。	
予習復習の内容	教科書、公衆衛生がみえるの該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。		
7回	授業内容	子ども・子育て世代を対象とした制度③児童虐待防止のための取り組みとは（第3章）	
	学習成果	児童虐待防止のための取り組みの概要を理解する。	
予習復習の内容	教科書、公衆衛生がみえるの該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。		
8回	授業内容	子どもの病気①免疫と感染症、感染症への対策とは（第5章①）	
	学習成果	子どもの免疫の発達と感染症の特徴、感染症予防および適切な対応を理解する。	
予習復習の内容	教科書、公衆衛生がみえるの該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。		
9回	授業内容	子どもの病気②免疫と感染症、感染症への対策とは（第5章②）	
	学習成果	子どもの免疫の発達と感染症の特徴、感染症予防および適切な対応を理解する。	
予習復習の内容	教科書、公衆衛生がみえるの該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。		
10回	授業内容	子どもの病気③新生児期の病気への対応とは（第5章④）	
	学習成果	新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気の特徴と対応を理解する。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。		
11回	授業内容	子どもの病気④慢性疾患への対応とは（第5章⑥）	
	学習成果	慢性疾患の特徴と適切な対応を理解する。	
予習復習の内容	教科書、公衆衛生がみえるの該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。		
12回	授業内容	子どもの病気⑤アレルギー疾患への対応とは（第5章⑤）	
	学習成果	アレルギー疾患の特徴と適切な対応を理解する。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。		
13回	授業内容	子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握（第4章）	
	学習成果	子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握方法を理解する。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。		
14回	授業内容	子どもの病気⑦救急疾患への対応とは（第5章③）	
	学習成果	救急疾患の特徴と適切な対応を理解する。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。		
15回	授業内容	子どもの保健での学びとは	
	学習成果	子どもの保健での学びをテストとレポートで総括する。	
予習復習の内容	教科書「振り返り問題」について解答できるよう自己学習を行う。		

科目名	子どもの食と栄養					担当者	岩田 教子					
区 分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	各授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	栄養に関する基本的知識を理解し、その内容を説明できる。										
	②	子どもの発育・発達と食生活について関連づけることができる。										
	③	食育の重要性について理解し、実践につなげることができる。										
	④	食生活全般について改善する方法や対策を考える力を習得し、実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる子どもの食と栄養について理解し、子どもの食生活を支援するための基礎的な技能を身につける。(専門的学習成果①②③)										
	(2)	栄養の重要性について理解し、自分自身が各ライフステージにおいてよりよい食生活を営み、さらには子どもや保護者に対して適切な支援ができる。(専門的学習成果③④)										
授業概要	子どもの健やかなよりよい成長と生涯にわたる健康への第一歩となる食・栄養に関する基礎的な知識を習得し、食生活全般について改善する方法や対策を考える力を模索する。また、それぞれの時期に望ましい食生活のあり方について、実践例も踏まえながら理解を深め、子どもの発育・発達と栄養・食の関連性について学ぶ。さらには、食育の重要性について理解し、子どもの発育・発達に応じた食を営む力を身につけるための支援方法や他職種間の連携による食育の実践について理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	全15回分の授業内容の理解について、筆記試験を行い評価する。								
		レポート	9	3回実施する。評価については各回3%を配点する。								
		課題作成	10	食育の実際の取り組み・意欲・態度・提出状況により評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記のとおり、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果③・④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	飯塚美和子 他	『最新子どもの食と栄養』					学建書院					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
		『授乳・離乳の支援ガイド』					厚生労働省					
	公益財団法人児童育成協会監修	『子どもの食と栄養』					中央法規					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習してこること(予習:週2時間程度)。事後学習としては、単元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること(復習:週2時間程度)。 ②小テストのフィードバックは実施後に正解を示し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	子どもの健康な生活と食生活の意義	○レポート(1) 2回目の後半で実施する。子どもの発育・発達・乳幼児発育曲線
	学習成果	子どもの食生活の実態や特徴について理解する。	
	予習復習の内容	子どもの食生活の実態や特徴について整理する。	
2回	授業内容	子どもの発育・発達の基本	○小テスト(1) 五大栄養素
	学習成果	子どもの発育・発達の概要及び発育曲線を用いた発育の評価方法について理解する。	
	予習復習の内容	子どもの発育・発達と評価方法について考察する。	
3回	授業内容	栄養に関する基礎的知識(1) 五大栄養素	○レポート(2) バランスのよい食事について
	学習成果	五大栄養素について理解する。	
	予習復習の内容	五大栄養素の種類や機能について整理する。	
4回	授業内容	栄養に関する基礎的知識(2) バランスのよい食事	○レポート(3) 日本人の食事摂取基準について
	学習成果	バランスのよい食事について理解する。	
	予習復習の内容	食事バランスガイドを実践し食事のバランスについて考察する。	
5回	授業内容	栄養に関する基礎的知識(3) 日本人の食事摂取基準2020	○小テスト(2)・胎見期(妊娠期)の食生活
	学習成果	日本人の食事摂取基準2020について理解する。	
	予習復習の内容	日本人が1日に必要なエネルギー、栄養素の量について理解する。	
6回	授業内容	胎見期(妊娠期)の食生活	○小テスト(3) ・母乳栄養について ○小テスト(4) ・人工乳栄養及び混合栄養について
	学習成果	胎見期の発育と妊娠期の食生活の関連について理解する。	
	予習復習の内容	妊娠期の栄養と食生活で注意すべき点について理解する。	
7回	授業内容	乳児期の授乳の意義と食生活(1) 母乳栄養について	○小テスト(5)・離乳の意義と食生活
	学習成果	母乳栄養の利点や成分、進め方及び支援方法について理解する。	
	予習復習の内容	母乳栄養の特徴について理解し、保育者として必要な知識をまとめておく。	
8回	授業内容	乳児期の授乳の意義と食生活(2) 人工乳栄養及び混合栄養について	○小テスト(6)・幼児期の食生活
	学習成果	育児用ミルクの種類や特徴について理解し、授乳方法及び支援方法について理解する。	
	予習復習の内容	人工乳栄養及び混合栄養の特徴について理解し、保育者として必要な知識をまとめておく。	
9回	授業内容	乳児期前半の離乳の意義と食生活	○小テスト(7)・食物アレルギー
	学習成果	離乳食前半の意義、進め方について理解する。	
	予習復習の内容	離乳食の具体的な進め方を知り、説明出来るようにする。	
10回	授業内容	乳児期後半の離乳の意義と食生活	○課題作成 グループ毎にテーマに沿ってグループワークを行う。
	学習成果	離乳食後半の意義、進め方について理解する。	
	予習復習の内容	離乳食の具体的な進め方を知り、説明出来るようにする。	
11回	授業内容	幼児期の心身の発達と食生活	○小テスト(7)・食物アレルギー
	学習成果	幼児期の心身の発達と食生活を関連づけて理解し、具体的な支援方法について理解する。	
	予習復習の内容	幼児期の食生活の実態や問題点について整理する。	
12回	授業内容	食物アレルギーのある子どもへの対応	○小テスト(7)・食物アレルギー
	学習成果	食物アレルギーの種類や対応について理解する。	
	予習復習の内容	食物アレルギーの種類について整理し、保育者として具体的な対応についてまとめておく。	
13回	授業内容	食育の基本と内容(1) 概要	○小テスト(7)・食物アレルギー
	学習成果	食育の内容と評価、食をとおした支援について理解する。	
	予習復習の内容	食育の概要について理解する。	
14回	授業内容	食育の基本と内容(2) 食育の実践	○小テスト(7)・食物アレルギー
	学習成果	食育について課題を追求し考察することができる。	
	予習復習の内容	食育について考察し、意見をまとめる。	
15回	授業内容	食育の基本と内容(4) これまでの授業の振り返りとまとめ	○定期試験時に筆記試験を実施する。 これまでの学習内容についての学習理解を計る。
	学習成果	食育の内容について理解する。	
	予習復習の内容	この授業の内容全体について整理・確認する。	

科目名	保育・教育課程論				担当者	ヨシダ ヨシノブ 小森谷 一 朗						
区 分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1 年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワー及び email。オフィスアワー及び email address は初回の授業時に連絡する。											
専門的 学習成果	①	幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格及び位置付けについて説明できる。										
	②	幼稚園教育要領や保育所保育指針の改訂（定）の変遷及び改訂（定）内容について説明できる。										
	③	カリキュラム・マネジメントの意義や重要性、評価の基礎的な考え方について説明できる。										
	④	教育課程編成や全体的な計画作成の目的や基礎原理を理解し、教育・保育目標に沿った指導計画の構想の仕方を説明できる。										
	⑤	保育の評価を支える保育記録の重要性やその役割、実際の活用の仕方について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	教育課程や全体的な計画の概要を学ぶことを通して、保育者に必要とされる専門的知識を習得し、実践につなげることができる。（専門的学習成果①②③）										
	(2)	子どもの興味や関心とそれを取り巻く環境を知り、支援の内容と方法に関する知識や技能を身につけ、援助ができる。（専門的学習成果④⑤）										
授業概要	教育課程・全体的な計画についてその意義・変遷や編成方法を理解するとともに、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の変遷、意図、考え方を学ぶ。また、具体的な教育課程・全体的な計画の展開、それを基にした長期・短期の指導計画について学ぶことを通して、保育者の役割を理解し、必要な能力について考え、実践する方法を学ぶ。最後に、小学校やその後の教育を見通した学びの土台づくりとしての幼児期という捉え方を考える。幼稚園教諭、小学校教諭としての実務経験をもとに実際の教育・保育目標及び保育内容や計画と保育記録との関係性の実態と照らし合わせながら授業を展開し、学生が自ら指導計画の立案ができることを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		リアクション ペーパー	30	授業内容を踏まえたリアクションペーパーの内容を評価する。(@ 2点×15回)								
		テスト	20	正答率に応じて評価する。(@10点×2回)								
		レポート	20	授業内容を踏まえたレポートの内容を評価する。(@20点×1回)								
		ワークシート	10	授業内で取り組むワークシートの内容を評価する。(@ 5点×2回)								
課題作成	20	授業内で取り組む課題（指導案、観察記録）に内容を評価する。(@10点×2回)										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名			出版社名							
	豊田和子・新井美保子 編著	『保育カリキュラム論-計画と評価-』			建帛社							
	文部科学省	『幼稚園教育要領』			フレーベル館							
	厚生労働省	『保育所保育指針』			フレーベル館							
	内閣府・文部科学省・ 厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』			フレーベル館							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名			出版社名							
	飯島典子・本郷一夫 編著	『子どもの理解と援助』			建帛社							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業は、テキスト・参考資料・配布資料を基にして進める。また、授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。 【事前学習（予習）週2時間程度】 テキストや事前に指示した内容、事前配布資料などを読み、分からない言葉は調べておくこと。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと。 【事後学習（復習）週2時間程度】 毎回の学習内容を振り返りを行い、要点や疑問点、課題などについてまとめておくこと。テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりと行うこと。 ②フィードバックについては以下の通りとする。 【リアクションペーパー・レポート】実施後に記述のポイントとなる点を授業の中で解説する。 【テスト】実施後に授業の中で解答・解説する。 【ワークシート・課題】実施後に授業の中で模範となる例を示し、解説する。											

		授業計画				学習成果の評価	
1 回	授業内容	カリキュラム（教育課程）とは				【リアクションペーパー①】	
	学習成果	カリキュラム（教育課程）とは何か、また、カリキュラムの類型とその特徴などについて理解し、説明できる。					
	予習復習の内容	予習：シラバスを熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
2 回	授業内容	日本におけるカリキュラムの基礎理論				【リアクションペーパー②】	
	学習成果	我が国の幼稚園教育要領や保育所保育指針等の変遷や幼児期の教育課程の歴史について理解し、説明できる。					
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
3 回	授業内容	保育における計画と評価の意義				【リアクションペーパー③】	
	学習成果	保育における計画と評価の意義やその重要性について理解し、説明できる。					
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
4 回	授業内容	カリキュラム・マネジメント				【リアクションペーパー④】	
	学習成果	カリキュラム・マネジメントの意義について理解し、PDCA サイクルによる保育の質の向上について説明できる。					
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
5 回	授業内容	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の教育課程・全体的な計画				【リアクションペーパー⑤】 【ワークシート①】 ・グループワークでの討議を踏まえてまとめる。	
	学習成果	三つの要領・指針の内容について比較し、共通点や相違点を見出すとともに、改訂（定）のねらいについて説明できる。					
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
6 回	授業内容	長期の指導計画の作成と展開				【リアクションペーパー⑥】	
	学習成果	指導計画の基本的な考え方について理解し、長期の指導計画作成の意義やその構成について説明できる。					
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
7 回	授業内容	短期の指導計画の作成と展開				【リアクションペーパー⑦】 【テスト①】 ・第7回後半に実施 ・1～7回の内容	
	学習成果	指導計画の基本的な考え方について理解し、短期の指導計画作成の意義やその構成について説明できる。					
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
8 回	授業内容	教育課程・全体的な計画と指導計画の実際				【リアクションペーパー⑧】 【ワークシート②】 ・学習した内容を踏まえてまとめる。 ・第8回終了後1週間以内に提出	
	学習成果	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における教育課程・全体的な計画及び指導計画の役割と編成について、その法的根拠に基づいて説明できる。					
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
9 回	授業内容	3歳未満児の指導計画				【リアクションペーパー⑨】	
	学習成果	乳児保育や1歳以上3歳未満児の視点について理解し、指導計画作成の基礎やその後の実践展開についての概要を説明できる。					
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
10回	授業内容	3歳以上児の指導計画				【リアクションペーパー⑩】	
	学習成果	3歳以上児の発達の特徴を理解し、指導計画作成の基礎やその後の実践展開についての概要を説明できる。					
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
11回	授業内容	指導計画の作成				【リアクションペーパー⑪】 【課題作成①】 ・指導計画を作成する。	
	学習成果	指導計画の書き方の基本について理解し、実践できる。					
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
12回	授業内容	保育の省察と保育記録				【リアクションペーパー⑫】	
	学習成果	保育の省察を支える保育記録の重要性や省察による保育の質の向上について理解し、説明できる。					
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
13回	授業内容	保育記録の実際				【リアクションペーパー⑬】 【課題作成②】 ・観察記録を作成する。	
	学習成果	保育記録の方法や種類について理解し、その特性について説明できる。また、保育記録の書き方の基本について理解し、実践できる。					
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
14回	授業内容	小学校との接続				【リアクションペーパー⑭】	
	学習成果	幼児教育と小学校教育のカリキュラムの違いについて理解し、小学校との接続を踏まえた幼児教育の考え方やその方法について説明できる。					
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
15回	授業内容	生活の発達と連続性				【リアクションペーパー⑮】 【テスト②】 ・第15回後半に実施 ・8～15回の内容 【レポート①】 ・全15回を踏まえた内容 ・第15回終了後1週間以内に提出	
	学習成果	入園から修了までの生活と発達の連続性を踏まえて要録を作成することの重要性を理解し、説明できる。					
	予習復習の内容	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					

科目名	保育内容指導法「健康」				担当者	金 野 麻 衣						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。オフィスアワーは授業内で連絡する。											
専門的 学習成果	①	領域「健康」のねらい及び内容を理解し、小学校への接続を視野に乳幼児に向けた指導法について考えることができる。										
	②	幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。										
	③	領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上や改善に取り組むことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	乳幼児期の健康に関わる専門的知識および現代的課題や保育実践の動向について説明できる。(専門的学習成果①③)										
	(2)	領域「健康」に関わる保育指導を想定し、主体的に教養を深めながら、他者と協同して実践に活かそうとすることができる。(専門的学習成果②③)										
授業概要	領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。現代的課題や保育の取り組みについて興味をもち、子ども理解や支援に結びつけることができるよう、保育者を目指す者としての協働を意識しながらグループワークに取り組む。乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	40	筆記試験を2回実施し、評価を行う。								
		課題	40	課題、レポートの内容、提出、体裁、文脈、独創性で評価を行う。								
	平常点	20	授業およびグループワークへの態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により行う。 (1) は専門的学習成果①③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	清水将之 他	『保育内容・領域 健康指導法』					わかば社					
	柴田卓・石森真由子	『楽しく学ぶ運動遊びのすすめ』					株式会社みらい					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	文部科学省	『幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説』										
	厚生労働省	『保育所保育指針・保育所保育指針解説書』										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①この科目では時間外学習（15時間）として、＜事前学習＞幼稚園教育要領および保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の当該箇所を各自で読み理解を深めること。また、乳幼児の健康、生活習慣、食育、安全、運動に関連するニュースについて目を通しておくこと。＜事後学習＞小テストに向けた復習、講義内で提示される課題への取り組みをすること。 ②小テストに対するフィードバックは実施後に正解を示し、解説する。課題についてはグループ発表形式で実施され発表内容と合わせてフィードバックを実施する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	領域「健康」のねらい及び内容の理解	
	学習成果	ねらい、内容、内容の取り扱いを踏まえ、幼児と健康の内容を振り返る。	
	予習復習の内容	教育要領、保育指針、保育・教育要領の健康に関する部分を読み込んでおく。	
2回	授業内容	基本的な生活習慣の形成を支える援助	
	学習成果	乳幼児の生活習慣に関する現状と保育計画を知る。	
	予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。	
3回	授業内容	健康管理と安全能力を育む援助	
	学習成果	乳幼児の安全に関する現状と保育計画を知る。	
	予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。	
4回	授業内容	健康な心と体を育む保育の構想 計画立案1	
	学習成果	テーマに沿った内容を調査し、保育指導を計画する。	
	予習復習の内容	テーマに関する情報収集と指導案の立案	
5回	授業内容	健康な心と体を育む保育の構想 教材研究1	
	学習成果	保育指導計画に基づき、教材研究・準備をする。	
	予習復習の内容	指導案に基づいた教材研究	
6回	授業内容	健康な心と体を育む保育の実践 模擬保育1	
	学習成果	模擬保育を通して、専門的知識およびテーマの理解を深める。	
	予習復習の内容	ロールプレイを通じた指導法の理解や反省をまとめる。	
7回	授業内容	健康な心と体を育む保育の評価と改善1	
	学習成果	乳幼児あるいは保護者、環境構成としての指導方法等について課題を見出す。	
	予習復習の内容	他者との連携、あるいは学び合いから自己課題を見出す。	
8回	授業内容	多様な動きの経験を促す援助	
	学習成果	乳幼児の動きや運動あそびに関する現状と保育計画を知る。	
	予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。	
9回	授業内容	領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助	
	学習成果	乳幼児期を支える環境構成と保育実践方法を考える。	
	予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。	
10回	授業内容	健康な心と体を育む保育の構想 計画立案2	
	学習成果	テーマに沿った内容を調査し、保育指導を計画する。	
	予習復習の内容	テーマに関する情報収集と指導案の立案	
11回	授業内容	健康な心と体を育む保育の構想 教材研究2	
	学習成果	保育指導計画に基づき、教材研究・準備をする。	
	予習復習の内容	指導案に基づいた教材研究	
12回	授業内容	健康な心と体を育む保育の実践 模擬保育2	
	学習成果	模擬保育を通して、専門的知識およびテーマの理解を深める。	
	予習復習の内容	ロールプレイを通じた指導法の理解や反省をまとめる。	
13回	授業内容	健康な心と体を育む保育の評価と改善2	
	学習成果	乳幼児あるいは保護者、環境構成としての指導方法等について課題を見出す。	
	予習復習の内容	他者との連携、あるいは学び合いから自己課題を見出す。	
14回	授業内容	乳幼児期に育まれる健康な心と体と小学校へのつながり	
	学習成果	乳幼児期の健康に関わる保幼小の連携の実際と課題について知る。	
	予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。	
15回	授業内容	領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践	
	学習成果	乳幼児期の健康に関連する外部組織の現状や連携について知る。	
	予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。	

科目名	保育内容指導法「環境」				担当者	宮 本 美和子 (実務家教員)						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				研究室の訪問及び e-mail (miyamoto.miwako@seiwa.ac.jp)。オフィスアワーは初回授業時に連絡する。								
専門的 学習成果	①	領域「環境」のねらい及び内容を子どもの生活と関連付けて説明できる。										
	②	幼児が経験し身に付けていく保育内容と指導上の留意点を理解し、保育構想に活用することができる。										
	③	領域「環境」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用方法を理解し、指導案を作成できる。										
	④	模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点について説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	指導に関する領域の専門的知識と基礎的な技術を習得し、豊かな感性と表現力を養う。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	子どもを取り巻く環境を理解し、他者との協働と協調の中で子どもに必要な経験と保育者の援助について学び続ける力を培う。(専門的学習成果③④)										
授業概要	子どもの発達における環境の意義を知り、子どもの生活の中で「環境とかかわる力」の発達を支えているものと、その中で体験していることを理解する。また、教育要領と保育指針の領域「環境」のねらいと内容、内容の取扱いを他の領域と関連させて学ぶ。さらに、実践事例から具体的な援助と留意点を検討し、保育の展開とその改善のための評価の視点を養う。そして、具体的な指導場面を想定し、子どもの発達や学びの過程をふまえた指導法について深く理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		ワークシート	40	授業内容を踏まえたワークシートの内容を評価する。								
		小テスト	20	正答率に応じて評価する。								
		課題	30	内容を評価する。								
		平常点	10	授業の参加態度を評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り専門的な学習成果の評価により評価を行う (1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う (2) は専門的学習成果③④で評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	小櫃智子編著		『実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境指導法』				わかば社					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	文部科学省		『幼稚園教育要領解説』									
	厚生労働省		『保育所保育指針解説』									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキスト、参考資料、自然教材を基にして授業を進める。植物栽培とその観察を含む、時間外学習を必ず行うこと。事前学習としてテキスト、参考文献を読み、予習しておくこと。事後学習として、授業内容の復習を行い、自身の身近な環境への関わりや時間外学習での経験を考え、保育内容の理解に努める。 ②提出されたワークシート、レポートに関しては、評価後授業内で解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	子どもと環境、子どもの生活の中で「環境とかかわる力」の発達について	・3回目終了後ねらいと内容に関する小テスト
	学習成果	子どもが身近な環境とどのようにかかわりを持つのか説明できる。	
2回	予習復習の内容	教科書P8～10を読む。子どもの生活と遊びの環境についてまとめる。	
	授業内容	子どもの発達と領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱い①1歳以上3歳未満児	
3回	学習成果	1歳以上3歳未満児の領域「環境」のねらいと内容について説明できる。	
	予習復習の内容	教科書P18～22を読む。発達と1歳以上3歳未満児のねらいと内容のつながりをまとめる。	
4回	授業内容	子どもの発達と領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱い②3歳以上児	
	学習成果	3歳以上児の領域「環境」のねらいと内容について説明できる。	
5回	予習復習の内容	教科書P22～23を読む。領域「環境」と他領域の関係が説明できる。	
	授業内容	自然事象とのかかわり・生命尊重の保育実践	
6回	学習成果	自然事象と生命尊重にかかわる保育実践の課題と対応について説明できる。	
	予習復習の内容	教科書P60～65を読む。自身の経験と学習内容を照らし、生命尊重する保育についてまとめる。	
7回	授業内容	自然とのかかわりの保育実践	
	学習成果	自然とかかわる保育実践の配慮と留意点について説明できる。	
8回	予習復習の内容	自然とのかかわりの実践事例を読む。自然とかかわることでは育まれるものとのかかわりを深めていくために必要なことをまとめる。	
	授業内容	ものとかかわりの保育実践	
9回	学習成果	ものとかかわりで育まれるものとその配置や工夫について説明できる。	
	予習復習の内容	保育場にあるものを調べる。身近な道具や素材との関りと保育者の援助をまとめる。	
10回	授業内容	数量・図形・文字への関心を育む保育実践	
	学習成果	子どもの生活や遊びの中での数量、図形・文字とかかわりについて発達と関連付けて説明ができる。	
11回	予習復習の内容	子どもの生活と数量・図形・文字とかかわりの事例を読む。授業後は、授業内容と保育者の援助と環境構成を理解する。	
	授業内容	遊びを通した総合的な指導の展開について	
12回	学習成果	子ども遊びの重要性と5領域の関連を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書P134～137を読む。子どもの興味・関心から始まる活動の展開の理解を深める。	
13回	授業内容	社会生活とのかかわりと保育	
	学習成果	社会・地域生活とのかかわりと保育実践のつながりを説明できる。	
14回	予習復習の内容	地域にある施設を調べる。地域・社会生活のかかわりを活かした保育についてまとめる。	
	授業内容	保育における行事	
15回	学習成果	保育における行事とその意義と指導計画とのつながりを説明できる。	
	予習復習の内容	伝承行事と社会的行事の内容と保育実践の留意点をまとめる。	
16回	授業内容	指導計画と指導案の理解	
	学習成果	指導計画と指導案のつながり、ねらいと内容に合わせた援助について説明できる。	
17回	予習復習の内容	配布した指導案を読む。指導案の基本的構成を理解する。	
	授業内容	模擬保育	
18回	学習成果	模擬保育を通して導入、展開、まとめの流れを理解し、保育者の援助の意図を説明できる。	
	予習復習の内容	保育に必要な事前準備と保育者の援助を理解する。	
19回	授業内容	模擬保育の振り返り	
	学習成果	保育の振り返りの視点と自身の課題及び修正点について説明できる。	
20回	予習復習の内容	指導案の修正点を挙げ、具体的な対処を検討し、まとめる。	
	授業内容	伝承遊び	
21回	学習成果	伝承遊びについて知り、遊びの展開や工夫について説明できる。	
	予習復習の内容	伝承遊びとその由来を調べ、遊びの展開の工夫をまとめる。	
22回	授業内容	小学校との連携・接続	
	学習成果	幼児期の学びと保育、小学校との接続について説明できる。	
23回	予習復習の内容	教科書P144～149を読む。幼児期と小学校との学びの連続性についてまとめる。	

科目名	保育内容指導法「表現（音楽）」				担当者	サトウ マリコ ・ イワブチ セツコ ・ マツカ ムサシ						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。e-mailsato.mariko@seiwa.ac.jp iwabuchi.setsuko@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	子どもの発達と音楽的表現の発達を理解し、説明できる。										
	②	生活や遊びの中での子どもの音楽的表現を理解し指導することができる。										
	③	『幼稚園教育要領』領域「表現」のねらいと内容と『保育所保育指針』子どもの発達と保育の内容を理解して、指導や支援ができる。										
	④	子どもの発達に合わせた音楽的表現遊びの具体的な指導計画作成と実践ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	領域「表現」と保育者としての表現活動を理解し説明できる。（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	領域「表現」の幼児が経験し身に付ける内容を理解し、指導を考えることができる。（専門的学習成果②③に関連）										
	(3)	表現活動の指導法を理解し、具体的な保育を想定した指導案作成ができる。（専門的学習成果③④に関連）										
	(4)	振り返りの方法や、課題抽出、指導計画の再構築の方法を理解して実践できる。（専門的学習成果④に関連）										
授業概要	領域「表現」のねらい及び内容について他領域と関連させながら子どもの発達や学びの過程を理解する。具体的な指導場面を想定した模擬保育を行い、関わり方や指導法を身に付ける。幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を学び、幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で、感性を働かせたり、気付き、経験が表現活動を通して育まれることを理解する。模擬保育実践を映像機器を使用して振り返り、課題を抽出する。情報機器を用いて保育指導計画案を作成し、柔軟な指導ができるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	40	表現活動と指導法を理解し、テーマに沿ったレポートの評価を行う。								
		発表	30	保育指導案作成を基に行う模擬保育を評価する。								
汎用的 学習成果	小テスト	30	「学習成果」に示す内容について、60%以上の得点を合格とする。									
	汎用的学習成果は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は専門的学習効果③④で評価を行う。 (4) は専門的学習効果④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	高御堂愛子 他編著	『楽しい音楽表現』						圭文社				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	文部科学省	『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）										
	厚生労働省	『保育所保育指針』（平成29年3月告示）										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）										
	幼児表現教育研究会編著	『幼児のための表現指導－うたって、つくって、あそぼう』						音楽之友社				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習してこずること。（予習：週2時間程度）事後学習としては、小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので、復習をしっかりすること。（復習：週2時間程度） ②小テスト及びレポートに対するフィードバックは実施後に、正解を示し解説を行う。 ③発表をビデオを用いて全体活動の振り返りを行い、フィードバックは映像確認後に講評を行う。											

授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	表現のねらい及び内容（幼児の表現活動の分析（映像教材）にて）
	学習成果	幼児教育において育みたい資質・能力を幼児の生活する姿から捉えることができる。
2回	予習復習の内容	「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」の領域「表現」のねらい及び内容を理解する。
	授業内容	領域「表現」の他領域との関わり、領域「表現」を踏まえた保育構想
3回	学習成果	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を5領域の内容を踏まえて理解することができる。
	予習復習の内容	「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」の5領域のねらい及び内容を理解する。
4回	授業内容	子どもの生活における領域「表現」
	学習成果	子どもの音楽表現活動において発達の過程を理解することができる。
5回	予習復習の内容	「保育所保育指針」年齢ごとの領域「表現」の内容と取り扱いを理解する。
	授業内容	模擬保育に向けた保育構想と指導案の理解。
6回	学習成果	子どもの音楽表現活動を考え、保育構想を指導案に作成できる。
	予習復習の内容	「幼稚園教育要領」の領域「表現」のねらいと内容の理解を深めておく。
7回	授業内容	映像（現場での実際の表現活動）を用いて模擬保育実施に向けた事前学習の提示。
	学習成果	音楽表現活動を事例に沿って理解し、保育構想を指導案に作成できる。
8回	予習復習の内容	保育現場における表現活動の理解を深めておく。
	授業内容	指導案作成に向けた保育構想の計画および教材研究。（グループワーク）
9回	学習成果	子どもの発達などの実態を知り、音楽表現活動を楽しみに繋げる保育構想を計画できる。
	予習復習の内容	子どもの日々の生活や遊びを環境を通して考察する。
10回	授業内容	指導案作成に情報機器を用いた保育構想の計画および教材研究。（グループワーク）
	学習成果	考察した保育構想を情報機器を用いて指導案を作成することができる。
11回	予習復習の内容	考察した保育構想を指導案にまとめておく。
	授業内容	指導案作成における5領域の理解。（グループワーク）
12回	学習成果	作成した指導案の音楽表現活動の5領域との関わりが理解できる。
	予習復習の内容	「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」の5領域のねらい及び内容を理解を深めておく。
13回	授業内容	「模擬保育」表現活動を通じた実践。（グループワーク）
	学習成果	作成した指導案で「模擬保育」を通して音楽表現活動を理解できる。
14回	予習復習の内容	指導案を読み込み教材を準備しておく。
	授業内容	模擬保育実践の振り返り①（ビデオを用いた全体活動の確認）
15回	学習成果	模擬保育実践をビデオで振り返り、反省と課題を挙げるることができる。
	予習復習の内容	模擬保育実践と指導案を照らし合わせて確認をする。
16回	授業内容	模擬保育実践の振り返り②（ビデオを用いた全体活動の確認）
	学習成果	ビデオで振り返った模擬保育実践の課題を修正することができる。
17回	予習復習の内容	模擬保育実践を基に教材研究や保育構想の計画を再確認する。
	授業内容	模擬保育実践の振り返り③（情報機器を用いた保育計画の再構築）グループワーク
18回	学習成果	模擬保育実践の課題を修正した指導案を作成できる。
	予習復習の内容	模擬保育実践を基に保育構想の課題を考察する。
19回	授業内容	模擬保育実践の振り返り④（保育計画の課題の検討）全体討議。
	学習成果	模擬保育実践を振り返り、音楽表現活動の具体的な事例を提案し実践できる。
20回	予習復習の内容	子どもの遊びや生活の中での姿から音楽表現活動を考察する。
	授業内容	保育計画の方法と振り返りの理解、および再構築の方法に関する理解。
21回	学習成果	保育実践を通じた課題を表出し、調和のとれた組織的、発展的な指導計画を作成できる。
	予習復習の内容	子どもの発達を促すために活動の見直しを描く保育計画を考える。
22回	授業内容	領域「表現」のまとめ。小学校へのつながりに関する理解。
	学習成果	「知的技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」を遊びを通しての総合的指導ができる。
23回	予習復習の内容	幼児教育において育みたい資質・能力について理解する。

科目名	幼児と健康				担当者	金野麻衣						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。オフィスアワーは授業内で連絡する。											
専門的 学習成果	①	乳幼児期の健康課題と健康の発達の意味を説明できる。										
	②	乳幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成について関連付けることができる。										
	③	安全な生活と怪我や病気の予防について説明できる。										
	④	乳幼児期の運動発達の特徴と意義について理解し、実践に活かそうとすることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	乳幼児期の健康および発達に関する専門的知識と現状について幅広く教養を身につけ、説明できる。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	自ら主体的、積極的に乳幼児期の生活習慣や安全、運動に関する情報を得て、保育や地域社会と関連付けて課題を見出し、他者と連携しながら学び続ける意欲を持つことができる。(②③④)										
授業概要	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身につける。生活リズムや繰り返しの経験が様々な要因と複雑に絡み合いながら、互いに強く影響を及ぼし合いながら成立していることを学ぶ。協働学習を通し幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等において、乳幼児期を取り巻く社会状況や課題、大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、それを踏まえた指導方法に関連付けていくことを理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	40	筆記試験を2回実施し、評価を行う。								
		課題	30	課題、レポートの内容、提出、体裁、文脈、独創性で評価を行う。								
平常点	30	授業およびグループワークへの態度・関心・意欲を評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により行う。 (1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	清水将之 他	『保育内容・領域 健康指導法』				わかば社						
	柴田卓・石森真由子	『楽しく学ぶ運動遊びのすすめ』				株式会社みらい						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	文部科学省	『幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説』										
	厚生労働省	『保育所保育指針・保育所保育指針解説書』										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①この科目では時間外学習（15時間）として、＜事前学習＞幼稚園教育要領および保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の当該箇所を各自で読み理解を深めること。また、乳幼児の健康、生活習慣、食育、安全、運動に関連するニュースについて目を通しておくこと。＜事後学習＞小テストに向けた復習、講義内で提示される課題への取り組みをすること。 ②小テストに対するフィードバックは実施後に正解を示し、解説する。課題についてはグループ発表形式で実施され発表内容と合わせてフィードバックを実施する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	乳幼児を取り巻く生活環境と健康	○小テスト 5回目に実施。1回から4回までの内容を対象とする。テスト終了時にフィードバックを行う。 ○レポート、課題提出 関連したテーマについて、授業内で指定された期日を厳守すること。また、そのレポートや課題、取り組みなどの評価は随時全体に向けフィードバックする。
	学習成果	現代の生活環境と子どもの健康の現状について理解する。	
予習復習の内容	テキストを読み、子どもの健康課題について調べる。		
2回	授業内容	乳幼児期の健康課題	
	学習成果	保育者としての視点から乳幼児期の健康課題について理解する。	
予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。		
3回	授業内容	乳幼児期の身体の諸機能の発達	
	学習成果	乳幼児の発育発達について知識を広げる。	
予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。		
4回	授業内容	乳幼児期の生活習慣の形成	
	学習成果	生活習慣の重要性について理解する。	
予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。		
5回	授業内容	乳幼児の安全教育と安全管理	
	学習成果	乳幼児期の特徴と安全への配慮を理解する。	
予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。		
6回	授業内容	乳幼児期の怪我や事故の特徴と病気の予防	
	学習成果	傷病・疾病予防の現状を理解し、他科目との関連について知る。	
予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。		
7回	授業内容	乳幼児期の運動発達の特徴	
	学習成果	運動発達と現状、それを支える環境構成や生活習慣を理解する。	
予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。		
8回	授業内容	遊びとしての運動	
	学習成果	発達段階を踏まえた運動遊びの重要性を知る。	
予習復習の内容	テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。		
9回	授業内容		
	学習成果		
10回	授業内容		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	予習復習の内容		

科目名	幼児と人間関係				担当者	君 島 智 子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスマワーで受け付ける。オフィスマワーは初回授業で連絡する。											
専門的 学習成果	①	子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴と課題について説明できる。										
	②	乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。										
	③	幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について説明できる。										
	④	自立心、協同性、道徳性・規範意識の育ちについて発達の姿と合わせて説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会の特徴を踏まえて領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、人との関わりでの発達に関する専門的知識を習得し、実践につなげることができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	集団生活や家庭、地域との関わりの中で育つ人間関係と、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を関連づけて理解し、保育者の社会的役割を自覚して子どもの理解や支援ができる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	本講義は、領域「人間関係」の指導の基盤となる、子どもの人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につけることを目的とする。子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解し、関係発達論的視点から、乳幼児期の人間関係の発達について理解する。教員の精神保健福祉士としての精神保健センターでの実務経験をもとに具体的理解を深めることができるよう講義を展開する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	90	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格点とする。								
		レポート	10	授業内容の理解についてレポートを課す(2回各5%)。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②で評価する。 (2) は専門的学習成果③④で評価する。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	文部科学省		『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示)									
	厚生労働省		『保育所保育指針』(平成29年3月告示)									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示)									
		(解説書、関連図書含む)										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①日常生活の中で子どもを取り巻く環境や人間関係の育ちについて意識し、考えること。特に授業内容に関連する部分については、テキスト該当部分の読了に加え事前に関係する文献を読み、理解を深めておくこと(予習:週2時間程度)。 ②毎回授業終了後にミニッツレポートの提出を促し、次の授業でフィードバックを行うことから、テキストをもとに授業時間外学習を行って授業に臨むこと(復習:週2時間程度)。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	幼児教育の構造と保育内容5領域	
	学習成果	幼児教育の目的と保育内容が持つ意味について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	幼児教育と育てたい10の姿、保育内容5領域について理解し、説明できるようにしておく。	
2回	授業内容	領域「人間関係」の特性と子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴	
	学習成果	現代社会の特徴を踏まえ、領域「人間関係」の特性を説明できる。	
	予習復習の内容	現代社会の特徴と子どもの人間関係の育ちを踏まえ、領域「人間関係」の特質を説明できるようにしておく。	
3回	授業内容	乳児期に育つ人と関わる力の発達	
	学習成果	乳児期に育つ人と関わる力の発達を、愛着の形成をもとに説明できる。	
	予習復習の内容	乳児期の愛着の形成について理解し、説明できるようにしておく。	
4回	授業内容	領域「人間関係」のねらいと内容	
	学習成果	「環境を通しての教育」を理解し、領域「人間関係」のねらいと内容を育てたい10の姿とつなげて説明できる。	
	予習復習の内容	領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。育てたい10の姿とつなげて説明できるようにしておく。	
5回	授業内容	遊びと人間関係の育ち	
	学習成果	遊びの中で育まれる社会性の発達について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	遊びを通して発達する人と関わる力について理解する。遊びの発達段階について説明できるようにしておく。	
6回	授業内容	集団生活と人間関係	
	学習成果	集団生活を通して育まれる自己主張、自己抑制、協同性、道徳性・規範意識について説明できる。	
	予習復習の内容	集団生活において育まれる人間関係の育ちを具体的に説明できるようにしておく。	
7回	授業内容	家庭の中で育つ人間関係、地域との関わりで育つ人間関係	
	学習成果	家庭生活や地域における人間関係の特徴と、価値やルールの学びについて説明できる。	
	予習復習の内容	家庭生活や地域における人間関係の特徴を理解し、連携の重要性について説明できるようにしておく。	
8回	授業内容	領域「人間関係」に関連する最新の知見と人との関わりでの育ち	
	学習成果	少子化、核家族化、グローバル化、ICTの進展と子どもの人と関わる育ちについて理解し、課題を説明できる。社会情動的スキルについて説明できる。	
	予習復習の内容	現代社会の特徴が子どもの人と関わる育ちに与える影響と課題を理解する。社会情動的スキルについて説明できるようにしておく。	
9回	授業内容		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	予習復習の内容		

科目名	幼児と環境				担当者	飯 島 典 子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		質問等は授業の前後に教室内で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	子どもを取り巻くさまざまな環境の特徴と、子どもの発達におけるそれらの意義について理解している。										
	②	子どもの環境に対する見方・考え方と現代的課題について説明できる。										
	③	子どもの身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念などの認知発達について説明できる。										
	④	子どもの表象の発達とその身近な環境との関わりにおける活用について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる専門的知識として子どもが遊びや生活を通して学ぶ学習過程を理解し、それらの学びを保障する環境および保育者の役割について考察できる。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	21世紀型学力とその育成について学校教育全体を通して考察できる。(専門的学習成果②③)										
	(3)	子どもが育つ社会の観点から地域資源およびコミュニティのあり方を考察できる。(専門的学習成果①)										
授業概要	領域「環境」の指導の基盤となる子どもの環境との関わりにおいて必要な認知発達として、科学的理解、数量等の発達に関する知識を身に付ける。それらを踏まえ、子どもが興味関心をもって関わろうとする環境の特徴と、身近な事象に子どもが主体的に関わる中で、発見し、考えたことを生活に取り入れようとする学びの連続的発達過程について学ぶ。また、それらの幼児期の学びが小学校以降の学びと接続する幼小接続の観点について概説する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	これまでの学習内容に基づき記述式の問題を課し正解率で評価する。								
		レポート										
	汎用的 学習成果	平常点	50	課題への参加姿勢およびその成果を評価する。								
		汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③により評価を行う。 (3) は専門的学習成果①により評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	文部科学省		『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）									
	厚生労働省		『保育所保育指針』（平成29年3月告示）									
	内閣府		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	柴崎正行・若月芳浩		コンパス『保育内容「環境」』						建帛社			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①5領域の総合化を踏まえ、他の領域に関する事項との関連を意識して捉える姿勢を求める。そのためにも、事前学習として幼稚園教育要領等に記載されている「ねらい」と「内容」、「内容の取り扱い」等については熟読し、理解すべき点を明確にして授業に臨むこと。また事後学習として、授業で示された内容に関して不明な事項や興味をもった事項は調べるなど自発的に理解を深めるようにすること。これらの事前事後学習および授業内に提示した課題に取り組む時間を授業時間外学習(29時間)とする。 ②課題に対するフィードバックは、授業内で学生間評価と教員コメントによって行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	幼児の育ちにおける環境とその現代的課題	領域「環境」の教育的意義に関するコメントシート。 第3回目を実施。	
	学習成果	幼児の育ちにおける環境とその現代的課題について説明できる。		
予習復習の内容	領域「環境」および関連事項の熟読と学びのめあての設定			
2回	授業内容	子どもの発達における環境の意義		
	学習成果	子どもの発達における環境の役割と保育者の援助について説明できる。		
予習復習の内容	領域「環境」および関連事項の熟読と学びのめあての設定			
3回	授業内容	子どもの認知発達		
	学習成果	幼児期の教育における「環境」領域の特色について説明できる。		
予習復習の内容	幼稚園教育要領等に示されている認知発達の内容を抽出しまとめる。			
4回	授業内容	数量、図形等と子どもの生活		領域「環境」の「ねらい」及び「内容」に関する課題を実施。課題の成果を評価。 第8回目に課題提出。
	学習成果	インフォーマル算数とそれを促す遊びや生活について説明できる。		
予習復習の内容	幼稚園教育要領等で示されている事項と遊びについてまとめる。			
5回	授業内容	子どものシンボルと情報理解の発達およびその活用（ICTの利活用を含む）		
	学習成果	子どものシンボルによる理解とそれを促す遊びや生活について説明できる。		
予習復習の内容	日常にあるシンボル情報について調べ、まとめる。			
6回	授業内容	子どもの身近な生物との関わり		
	学習成果	生物との関わりが子どもに及ぼす影響とそれを促す遊びや生活について説明できる。		
予習復習の内容	幼稚園教育要領等で示されている事項と遊びについてまとめる。			
7回	授業内容	子どもの身近な自然との関わり		
	学習成果	身近な自然との関わりが子どもに及ぼす影響とそれを促す遊びや生活について説明できる。		
予習復習の内容	幼稚園教育要領等で示されている事項と遊びについてまとめる。			
8回	授業内容	子どもの生活における社会資源の活用		
	学習成果	保育・教育をより良く展開するために活用可能な社会資源について説明できる。		
予習復習の内容	幼稚園教育要領等で示されている事項と地域の社会資源についてまとめる。			
9回	授業内容			
	学習成果			
予習復習の内容				
10回	授業内容			
	学習成果			
予習復習の内容				
11回	授業内容			
	学習成果			
予習復習の内容				
12回	授業内容			
	学習成果			
予習復習の内容				
13回	授業内容			
	学習成果			
予習復習の内容				
14回	授業内容			
	学習成果			
予習復習の内容				
15回	授業内容			
	学習成果			
予習復習の内容				

科目名	幼児と言葉				担当者	山本 信 (実務家教員)						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、または emailyamamoto.makoto@seiwa.ac.jp への連絡 (学籍番号・氏名記載必須) とする。											
専門的 学習成果	①	子どもにとっての言葉の機能と意義について説明できる。										
	②	子どもの言語の発達過程をその機能と関連付けて説明できる。										
	③	子どもの言葉の育ちと保育実践とを関連づけることができる。										
	④	子どもの豊かな言葉を育む児童文化財等の基礎的知識を身に付けている。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要な専門的知識として、子どもにとっての言葉の機能と意義およびその発達過程を理解するとともに、子どもの豊かな育ちを実現する多様な保育のあり方を構想できる。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	人類の社会文化的進化の観点から言葉の獲得と使用について捉え、自らの保育観に取り入れることができる。(専門的学習成果①③)										
授業概要	領域「言葉」の指導の基盤となる、子どもにとっての言葉の意義と機能、言語発達のプロセスについて前言語的コミュニケーションと言語的コミュニケーションの特徴から学ぶ。これらの基礎知識を踏まえ、子どもの言葉に対する感覚と豊かな言葉を育てるための児童文化財等を活用した教育・保育実践に関する知識を身に付ける。さらに、言葉の産出、文字や記号の発明が人類の社会文化的進化による産物であることを踏まえ、保育者と子どもの文化的営みにおける言葉の価値を確認していく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	40	4回：正答率に応じて評価を行う (各10点)。								
		ワークシート	30	2回：授業内容を踏まえ、テーマに沿ったワークシートの評価を行う (各15点)。								
	グループワーク	30	2回：テーマに基づいた発言や議論への参加姿勢の評価を行う (各15点)。									
汎用的 学習成果	(1) 汎用的学習成果については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う (1) は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①③により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	文部科学省	『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示)										
	厚生労働省	『保育所保育指針』(平成29年3月告示)										
	内閣府	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示)										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	秋田喜代美・野口隆子 編著	『保育内容 言葉』					光生館					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業は、テキスト・参考資料・配付資料を中心に進める。また、授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。 ＜事前学習(週2時間程度)＞：テキスト・参考資料を読み、専門用語の理解をはじめ、各回の学習内容について予習を行うこと。また、自身の経験や日常生活と関連付けながら深く考える機会を多く持つこと。 ＜事後学習(週2時間程度)＞：毎回の授業の内容について復習を行い、理解を深めること。また、新聞・ニュース等で得られた情報と学習内容を結びつけながら、自分の考えを言葉や文字で表現できるようにすること。 ②フィードバックの方法については、以下の通りとする。 ＜小テスト＞テストの実施後に解答・解説を行う。 ＜グループワーク＞グループワークへの参加姿勢や模擬授業の発表内容について、次回の授業において評価のポイントを含め、フィードバックを行う。 ＜ワークシート＞提出後2週間以内を目安に、評価のポイントを含めたコメントとともに返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	言葉の機能と意義	
	学習成果	言葉の機能と意義を言語発達の観点から説明できる。	
	予習復習の内容	領域「言葉」のねらいおよび内容について理解しておくこと。5領域と乳幼児の言葉の発達との関連についてまとめておくこと。	
2回	授業内容	子どもの言葉の発達①：乳児期	
	学習成果	非言語的コミュニケーションの発達過程について説明できる。	
	予習復習の内容	保育所保育指針の「身近な人と気持ちを通じ合う」の項目について、ねらい・内容・内容の取扱い(解説も含めて)を熟読し、理解しておくこと。	
3回	授業内容	幼児期の言葉の発達②：1歳以上3歳未満児	<小テスト①> 保育所保育指針解説、「身近な人と気持ちを通じ合う」についての理解を測る。
	学習成果	1歳以上3歳未満児の言葉の発達過程について説明できる。	
	予習復習の内容	領域「言葉」(1歳以上3歳未満児)の項目について、ねらい・内容・内容の取扱い(解説も含めて)を熟読し、理解しておくこと。	
4回	授業内容	幼児期の言葉の発達③：3歳以上児	<小テスト②> 保育所保育指針解説、領域「言葉」(1歳以上3歳未満児)についての理解を測る。
	学習成果	3歳以上児の言葉の発達過程について説明できる。	
	予習復習の内容	領域「言葉」(3歳以上児)の項目について、ねらい・内容・内容の取扱い(解説も含めて)を熟読し、理解しておくこと。	
5回	授業内容	子どもの言葉の育ちおよび言葉に対する感覚を豊かにする保育①言葉遊び	<小テスト③> 保育所保育指針解説、領域「言葉」(3歳以上児)についての理解を測る。
	学習成果	グループワークを通し、言葉遊びの特徴と活用方法や領域「言葉」との関連について理解を深め、説明できるようになる。	
	予習復習の内容	言葉遊びについて調べ実際に遊ぶ。	
6回	授業内容	子どもの言葉の育ちおよび言葉に対する感覚を豊かにする保育②児童文化財	<ワークシート> 調べた言葉遊びについて、グループワークでの討議を踏まえてワークシートにまとめる。
	学習成果	グループワークを通し、児童文化財の特徴と活用方法や領域「言葉」との関連について理解を深め、説明できるようになる。	
	予習復習の内容	児童文化財の特徴と活用方法について調べる。	
7回	授業内容	子どもの言葉の育ちおよび言葉に対する感覚を豊かにする保育③教材活用 (ICTの活用を含む)	<ワークシート> 調べた児童文化財について、グループワークでの討議を踏まえてワークシートにまとめる。
	学習成果	教材を活用する方法、工夫、配慮事項について考察できる。	
	予習復習の内容	言葉に関するそのほかの遊びについて調べる。	
8回	授業内容	子どもの言葉の育ちを豊かにする保育実践	小テスト④ これまでの学習内容についての理解を測る
	学習成果	言葉の発達を促す保育について総合的に説明できる。	
	予習復習の内容	子どもの年齢に応じた教材についてまとめる。	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	幼児と表現				担当者	佐々木 貴 弘 ・ 佐 藤 万利子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。e-mailsasaki.takahiro@seiwa.ac.jp, sato.mariko@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	領域「表現」のねらいや内容と合わせ、乳幼児の表現活動の特徴・特質を理解する。										
	②	基本的な保育表現技術の習得を通して、自身の感性を高める。										
	③	表現（音楽・造形）あそびの意義と特徴や、用具、楽器等の扱い方について学ぶ。										
	④	各種表現活動を通して、領域「表現」と他領域との関連について理解を深める。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる表現活動を理解し、保育現場における必要な基礎的知識・技能を身に付ける。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	子どもの発達や成長に即した保育実践力や、保育内容領域「表現」内における、造形、音楽などの各種表現技術を高め、豊かな感性や想像力、表現力をもって子どもの支援ができる。(専門的学習効果②③に関連)										
	(3)	子どもや保護者及び地域社会における表現活動の意義を理解し、保育者の役割を考慮することができる。人間的成長を基軸として営まれる幼児教育が保育内容の5領域で構成されていることを理解できる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	領域「表現」に関する理解を深め、子どもの表現を育む為の保育表現術を習得し、保育者としての感性表現力を高めると共に、専門的な知識・技術を身に付ける。幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」のねらいと内容の理解を深める。生活の中で身近な音や自然への興味、関心を持ち、イメージと重ね合わせる表現活動を展開することができる。造形表現を通して「よさ、たのしさ、うつくしさ」に触れ、子どもの感性について考える姿勢を持ち、音楽表現を通して「歌う、聴く、動く、作る活動」を理解することができる。体験的に学んだ表現活動を踏まえ、保育者の役割を考え、領域を越えた総合表現的活動への意識を高めることができる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	40	各表現活動に対し創作劇遊びの実践から振り返りを行い、課題抽出と幼児期に育む表現の理解を観点に評価を行う。								
		作品製作・発表	40	保育表現、創作表現に関して、造形的活動と音楽的活動に分かれグループワークを中心に行う表現活動と発表内容（創作劇遊びの実践）でその評価を行う。								
	平常点	20	表現活動や発表への取り組み、意欲・態度を評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	高御堂愛子 他編著	『楽しい音楽表現』				圭文社						
	横英子	『保育をひらく造形表現』				萌文書林						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	文部科学省	『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）										
	厚生労働省	『保育所保育指針』（平成29年3月告示）										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習してくる。(予習：週2時間程度) 事後学習としては、発表を実施し、その内容と課題抽出、考察のレポートを評価の対象とする。(復習：週2時間程度) ②発表に対するフィードバックは実施後に、講評を行う。											

授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」の位置づけ。ねらいと内容の理解。
	学習成果	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として提示された10項目を理解し説明できる。
	予習復習の内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」を理解する。
2回	授業内容	乳幼児期の表現の特徴「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」（造形、音楽を中心に）
	学習成果	生活の中で身近な音や自然への興味、関心を持ち、イメージと重ね合わせる表現活動を展開することができる。
	予習復習の内容	「保育所保育指針」の第二章子どもの発達から「幼児期の発達の特性と発達過程を理解する。
3回	授業内容	保育表現「いろいろなもの美しさなどに対する豊かな感性をもつ」表現活動①（造形表現を中心に）
	学習成果	造形表現を通して「よさ、たのしさ、うつくしさ」に触れ、子どもの感性について考える姿勢を持つことができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、「乳幼児期の造形表現」に興味関心を抱き、自身の研究心をより高めることができる。
4回	授業内容	保育表現「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」表現活動②（音楽表現を中心に）
	学習成果	音楽表現を通して「歌う、聴く、動く、作る活動」を理解し、子どもの遊びうた、わらべうたを実践できる。
	予習復習の内容	幼児期に体験したわらべうた、遊びうたを挙げ、その遊びを紹介できるようにまとめておく。
5回	授業内容	創作表現「歌う・描く・作る・演じるなどを通した表現活動」（グループワーク）① 製作、練習
	学習成果	創作劇遊びを考え、台本（指導案作成）、選曲、衣装、舞台装置を作成し、演じることができる。
	予習復習の内容	子どもの対象年齢とねらいを設定し、創作表現を応用した劇遊びを考える。
6回	授業内容	創作表現「歌う・描く・作る・演じるなどを通した表現活動」（グループワーク）② 発表、鑑賞
	学習成果	共同製作を通して、「表現、鑑賞」の関係性、「表現活動に関する構造的な理解」を深めることができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、表現のみならず、鑑賞への興味を持ち、広く芸術活動への関心を高めることができる。
7回	授業内容	乳幼児の表現を育む保育者の役割「求められる感性と表現力」。表現活動と他領域との関連を考察。
	学習成果	各活動で体験的に学んだ表現活動を踏まえ、保育者の役割を考え、領域を越えた総合表現的活動への意識を高めることができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、総合表現的活動に興味関心を抱き、自身の表現活動に対する研究心を高めることができる。
8回	授業内容	幼児期に育む「豊かな感性と表現」についてのまとめ。
	学習成果	幼児期における表現活動と、そこで培う「感性や表現力」について理解を深める。
	予習復習の内容	他領域も含め、幼児と表現における総合的な学びに関して考えを深め、自身の保育表現技術の向上に繋げることができる。
9回	授業内容	
	学習成果	
	予習復習の内容	
10回	授業内容	
	学習成果	
	予習復習の内容	
11回	授業内容	
	学習成果	
	予習復習の内容	
12回	授業内容	
	学習成果	
	予習復習の内容	
13回	授業内容	
	学習成果	
	予習復習の内容	
14回	授業内容	
	学習成果	
	予習復習の内容	
15回	授業内容	
	学習成果	
	予習復習の内容	

科目名	乳児保育 I				担当者	ナカ ジョ メグミ 恵 (実務家教員)						
区 分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワー及び e-mail (nakajima.megumi@seiwa.ac.jp) に連絡する。オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。											
専門的 学習成果	①	健やかな成長を支える生活と遊びについて理解し、3歳未満児及び幼児の発育・発達について説明できる。										
	②	乳幼児の生命を守ること、健康の保持増進について説明できる。										
	③	乳児保育の内容や方法、環境構成や記録等について理解し、意義について説明できる。										
	④	他機関との連携、保護者支援について理解し主体的に考えることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における乳児保育の重要性を理解し、保育者に必要な知識・技能を身に付け実践することができる。(専門的学習成果①②③)										
	(2)	子どもと保護者及び地域社会における保育者の役割を理解し、自ら課題を見出し学びに向かい続け探求することができる。(専門的学習成果④)										
授業概要	乳児保育の理念と保育内容、方法について理解する。また、乳幼児期の子どもの発育や特徴を理解し、一人ひとり大切に育てる乳児保育のあり方を学ぶ。乳幼児期の発達、その後の心身の発達の土台となることを理解し、保育所保育指針の乳児保育の保育内容についても理解を深めながら、発達過程を見通して学ぶ。映像や事例、児童文化についての課題探求を実践しながらグループ討議などを通して乳児保育について理解を深めていく。保育者として、意欲的に授業に臨む姿勢や態度も含めて評価をしていく。保育士および保育園長としての実務経験をもとに、乳児保育の実態や課題と照らし合わせながら授業を展開していく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	レポート	30	養護と教育について理解できているかを観点に評価をする。								
		小テスト	60	乳児保育のねらいと内容を中心に実施する。								
		平常点	10	授業参加態度の意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価より評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	ChaCha Children & Co. 編集	『見る・考える・創りだす乳児保育 I・II』 養成校と保育室をつなぐ理論と実践				萌文書林						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	厚生労働省	『保育所保育指針解説』				フレーベル館						
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』				フレーベル館						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと(予習:週2時間程度)。事後学習としては、小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること(復習:週2時間程度) ②小テストは授業で返却し、解説を行う。レポートについては授業内でフィードバックを行う。											

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 乳児保育の意義・目的	○小テスト 5回目の後半で実施する。 ・養護についての理解 ・乳児保育における教育(保育のねらい及び内容) ・児童福祉施設の設備及び運営に関する基準 保育所保育指針を熟読しておくこと。
	学習成果	乳児保育の定義について説明ができる。	
2回	予習復習の内容	乳児の特徴、自分なりのイメージを記述しておく。	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	授業内容	乳児保育の役割と機能(人生の基礎である乳児期)	
3回	学習成果	乳児期の捉え方について説明ができる。	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	予習復習の内容	保育所保育指針の関連部分を読み、理解をしておく。	
4回	授業内容	乳児保育における養護及び教育	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	学習成果	養護や教育の理念、ねらいや内容について説明ができる。	
5回	予習復習の内容	保育所保育指針の関連部分を読み、理解をしておく。	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	授業内容	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	
6回	学習成果	支援の実際と課題について説明ができる。	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	予習復習の内容	テキストの該当範囲を事前に読み理解をしておく。	
7回	授業内容	保育所における乳児保育	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	学習成果	乳児保育のねらいや内容の3つの視点について説明ができる。	
8回	予習復習の内容	保育所保育指針の該当部分を熟読しておく。	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	授業内容	保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育及び家庭的保育等	
9回	学習成果	乳児院や家庭的保育室について説明ができる。	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	予習復習の内容	テキストの該当範囲を事前に読み理解をしておく。	
10回	授業内容	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	学習成果	現代における子育ての現状や課題について語る事ができる。	
11回	予習復習の内容	あらかじめ子育て家庭の課題についての調べ学習をする。	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	授業内容	3歳未満児の生活と環境	
12回	学習成果	3歳未満児の生活の流れについて説明ができる。	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	予習復習の内容	3歳児のデイリープログラムや援助についてまとめておく。	
13回	授業内容	3歳未満児の遊びと環境	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	学習成果	3歳未満児の遊びの捉えかたについて語る事ができる。	
14回	予習復習の内容	発達過程を考慮した遊びについてまとめる。	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	授業内容	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	
15回	学習成果	基本的な生活習慣の自立にむけた保育士の援助について説明ができる。	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	予習復習の内容	2歳児の発達過程と生活援助について必要な知識をまとめておく。	
16回	授業内容	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	学習成果	発達過程を考慮した援助について説明ができる。	
17回	予習復習の内容	3歳未満児の発達過程と援助について必要な知識をまとめておく。	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	授業内容	3歳未満時の発育・発達を踏まえた保育における配慮、個別の計画	
18回	学習成果	3歳未満児の個別計画の必要性について説明ができる。	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	予習復習の内容	個別計画と3つの視点や5領域の関連性についてまとめておく。	
19回	授業内容	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	学習成果	全体的な計画からの指導計画の意味について説明できる。	
20回	予習復習の内容	保育所保育指針の該当部分を熟読しておく。	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	授業内容	乳児保育における連携・協働	
21回	学習成果	保育現場の同僚性について語る事ができる。	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	予習復習の内容	テキストの該当範囲を事前に読み理解をしておく。	
22回	授業内容	保護者支援と連絡帳の意味、書き方についてまとめと確認	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	学習成果	保護者支援の意義について説明することができる。	
23回	予習復習の内容	保護者支援に必要な知識や技術についてまとめておく。	○小テスト 10回目の後半で実施する。 ・保育所保育の3歳未満児の生活と援助について ・3歳未満児の発達過程の理解 ○レポート 保育所入所率から考察する、子ども(乳児)の生活と遊びの重要性
	授業内容	保護者支援と連絡帳の意味、書き方についてまとめと確認	

科目名	乳児保育Ⅱ				担当者	中 島 恵 (実務家教員)						
区 分	必修	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワー及びe-mail (nakajima.megumi@seiwa.ac.jp) に連絡する。オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。										
専門的 学習成果	①	3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの方針を、基本的な考え方を理解し、援助の実践ができる。										
	②	養護及び教育の一体性を踏まえ、子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について説明できる。										
	③	乳児保育における配慮の実践について具体的に述べる事ができる。										
	④	乳児保育における計画の作成について具体的に学び、指導計画や個別計画の一部を作成できる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における乳児保育の重要性を理解し、保育者に必要な知識・技能を身に付け実践することができる。(専門的学習成果②④)										
	(2)	保育者の社会的役割を自覚し、豊かな感性や想像力、表現力をもって、子どもの理解や支援ができる。(専門的学習成果①③)										
授業概要	乳児保育Ⅰで習得した知識を、さらに具体的な子どもの生活や遊びに照らし合わせながら、具体的な支援、援助方法について自ら考察する。また、個々の発達に合わせた一人ひとりの健やかな育ちを保障するために、保育者として必要な受容的で応答的な関わりや、援助の仕方を学んでいく。現代社会における、乳児保育の現状と課題について理解し、子どもの発達を踏まえた保育内容と保育者の役割について学ぶ。視聴覚教材や事例を基にして、グループ討議などを通して乳児保育について学びを深める。保育士および保育園長としての実務経験をもとに、乳児保育の実態や援助方法を示しながら授業を展開していく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	レポート課題2回 テーマに沿ったレポートの評価(評価観点: 体裁(2) 文脈(3) 内容(10))を行う。								
		確認テスト	60	これまでの学習内容に基づき、学習習熟度に関するテストを実施し、評価を行う。(60点)								
	平常点	10	演習への取り組み、意欲、態度により評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果(1)(2)については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果②④により評価を行う。 (2)は専門的学習成果①③により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	ChaCha Children & Co. 編集	『見る・考える・創り出す乳児保育Ⅰ・Ⅱ』養成校と保育室をつなぐ理論と実践						萌文書林				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	文部科学省	『幼稚園教育要領解説』						フレーベル館				
	厚生労働省	『保育所保育指針解説』						フレーベル館				
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』						フレーベル館				
	必要に応じてプリントを配布する。											
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等												
①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと(予習:週2時間程度)。事後学習としては、小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること(復習:週2時間程度) ②レポートや保育計画については、モデル案を示し、解説を行う。発表では相互の意見交換の時間も設け、その都度フィードバックを行う。												

授業計画			学習成果の評価			
1回	授業内容	子どもと保育士等との関係の重要性	○レポート 場面に応じた受容的、応答的なか わりについて考察し、具体的な声 掛け、態度をとることができているか。			
	学習成果	子どもと保育士等との関係について述べる事ができる。				
	予習復習の内容	3歳未満児の発達の特性を確認しておく。				
2回	授業内容	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり				
	学習成果	受容的応答的な具体的な場面に応じた関わりについて、説明ができる。				
	予習復習の内容	テキストの関連部分を読んでおく。				
3回	授業内容	子どもの主体性の尊重と自己の育ち				
	学習成果	子どもの主体性について説明ができる。				
	予習復習の内容	保育所保育指針の乳児保育、1歳以上3歳未満児の保育について熟読する。				
4回	授業内容	子どもの体験と学びの芽生え、乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際		○レポート 発達過程や育てたい視点を理解した環境について説明ができてい るか。		
	学習成果	3つの視点と5領域のつながりについて説明ができる。				
	予習復習の内容	保育所保育指針の3つの視点と5領域の内容を理解しておく。				
5回	授業内容	子どもの1日の生活の流れと保育の環境				
	学習成果	保育所での3歳未満児の生活の流れを説明できる。				
	予習復習の内容	テキストの関連部分を読んでおく。				
6回	授業内容	子どもの生活や遊びを支える環境の構成				
	学習成果	事例場面の環境構成の意味について述べる事ができる。				
	予習復習の内容	3歳未満児の発達の特性を確認しておく。				
7回	授業内容	0歳児の発育・発達を踏まえた生活や遊びの援助の実際	各年齢ごとの発達過程に合わせた 手作り玩具を製作し、発表する。 (発達過程にあっているか、危険 はないかなどが評価の基準とな る)			
	学習成果	0歳児の発達過程を理解した玩具や環境について説明ができる。				
	予習復習の内容	おおむね0歳児の発達過程の理解。				
8回	授業内容	1歳児の発育・発達を踏まえた生活や遊びの援助の実際				
	学習成果	1歳児の発達過程を理解した玩具や環境について説明ができる。				
	予習復習の内容	おおむね1歳児の発達過程の理解。				
9回	授業内容	2歳児の発育・発達を踏まえた生活や遊びの援助の実際				
	学習成果	2歳児の発達過程を理解した玩具や環境について説明ができる。				
	予習復習の内容	おおむね2歳児の発達過程の理解。				
10回	授業内容	乳児保育における配慮の実際		温度や分量を配慮しながら、適温 の調乳の実践ができていないか。		
	学習成果	調乳やおんぶについて実践ができる。				
	予習復習の内容	3歳未満児の発達の特性を確認しておく。				
11回	授業内容	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	対象年齢を見通したふれあい遊び やわらべうたを発表する。			
	学習成果	わらべうた遊びやふれあい遊びの技術を習得し実践できる。				
	予習復習の内容	発達過程に応じたふれあい遊びを調べておく。				
12回	授業内容	集団での生活における配慮、環境の変化や移行に対する配慮			○小テスト 児童福祉施設の設備及び運営に関 する基準(職員の数等)	
	学習成果	最低基準の職員数について説明できる。				
	予習復習の内容	児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を理解しておく。				
13回	授業内容	乳児保育における計画の実際				
	学習成果	保育目標を考慮した保育のねらいを立てることができる。				
	予習復習の内容	計画の意義について復習をしておく。				
14回	授業内容	長期的な指導計画と短期的な指導計画				
	学習成果	保育目標を考慮した保育のねらいを立てることができる。				
	予習復習の内容	長期計画と短期計画の特徴についてまとめる。				
15回	授業内容	個別的な指導計画と集団の指導計画				
	学習成果	事例の子ども発達を考慮した個別計画の一部を立案できる。				
	予習復習の内容	3つの視点や5領域とのつながりをまとめておく。				

科目名	特別支援教育・保育概論				担当者	川村 修 弘						
区 分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				質問や要望等については、授業の前後で受け付ける。								
専門的 学習成果	①	保育の場における特別な配慮、支援の多様性について説明できる。										
	②	保育の場では出会う特別な配慮を必要とする子ども（発達障がいを含む）の発達特徴・発達過程について説明できる。										
	③	発達課題に応じた個別の支援計画を立案するための基礎的な知識を有し、計画の策定ができる。										
	④	個別の支援計画を実行するための連携による保育の展開方法について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	特別な支援を要する子どもへの教育の必要性について理解し、実践において必要な知識や理論について自ら学び得た内容について説明、報告することができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	専門職としての協働的な役割について理解し、自ら積極的に参加することができ、将来に向かい学びにつづけるための研究心が養われ、学びに向かい探求することができる。（専門的学習成果②③④に関連）										
授業概要	保育の場では出会う特別な配慮を必要とする子どもが保育の場で豊かに生活できるように、様々な面から子どもを支援していくことは保育者の専門性のひとつである。そこで、特別な配慮を必要とする子どもの特徴や困難さについて概説し、そこから発達ニーズに応じた発達支援、援助のあり方について考察していく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	全15回分の授業内容の理解について筆記試験を行い評価する。								
		レポート										
		中間ミニレポート	30	授業内容の重点部分について理解されているか、レポートの記述内容により評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③にて評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	川村修弘・三浦光哉著		仮『特別支援教育総論』						ジアース教育新社			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	文部科学省		『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）						フレーベル館			
	厚生労働省		『保育所保育指針』（平成29年3月告示）						フレーベル館			
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）（解説書、関連図書含む）									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①この科目の時間外学習（60時間）として事前にテキストを読み授業に参加する事前学習と、講義内容について関連領域について習熟を深める事後学習を行うこと。 ②講義内で提示される課題への取り組みも時間外学習に含まれ、課題へのフィードバックは講義内に行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保育の場では出会う特別な配慮を必要とする子どもの保育と現代的課題	15回分の授業内容の理解について筆記試験で評価。 都度、ミニレポートを課し、理解度を確認、評価する。
	学習成果	配慮を必要とする子どもとその現状について説明できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
2回	授業内容	特別な配慮を必要とする子どもの生涯発達の理解と保育	
	学習成果	気になる子どもの生涯発達について説明できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
3回	授業内容	子どもの障がいと保育①視覚障がい・聴覚障がい	
	学習成果	感覚器の障害とその特徴を知り、適切な保育活動実践の基礎について説明できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
4回	授業内容	子どもの障がいと保育②知的障がい	
	学習成果	知的障害とその特徴を知り、適切な保育活動実践の基礎について説明できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
5回	授業内容	子どもの障がいと保育③自閉スペクトラム症	
	学習成果	自閉スペクトラム症について症候・背景・特徴について説明できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
6回	授業内容	子どもの障がいと保育④ ADHD・LD	
	学習成果	ADHD・LDについて症候・背景・特徴について説明できる。（行動面中心）	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
7回	授業内容	子どもの障がいと保育⑤肢体不自由	
	学習成果	脳性まひをはじめとする肢体不自由について説明できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
8回	授業内容	子どもの障がいと保育⑥重症心身障がい児、医療的ケア児の理解と援助	
	学習成果	重症心身障害とは何か学習を深め発達援助につながる支援について説明できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
9回	授業内容	子どもの障がいと保育⑦その他の特別な配慮を必要とする子どもの保育の実際	
	学習成果	さまざまな「気になる子ども」について広く保育の方向性を知り、説明できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
10回	授業内容	インクルーシブとユニバーサルデザイン	
	学習成果	ユニバーサルデザインの観点に立った保育とは何か事例を検証できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
11回	授業内容	発達理解の理論と方法	
	学習成果	様々な発達支援の方法について障害別に説明することができる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う。さらに実践的なワークを通じて理解を深める		
12回	授業内容	発達理解と個別の支援計画	
	学習成果	様々な発達支援の方法について障害別に検証することができる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う。さらに実践的なワークを通じて理解を深める		
13回	授業内容	関連機関との連携による発達支援	
	学習成果	関連機関や専門家との連携の方法について事例を通じて検討できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		
14回	授業内容	保護者理解と保護者支援	
	学習成果	保護者理解と保護者支援のあり方について事例を通じて検討できる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う。さらに実践的なワークを通じて理解を深める		
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	授業全体を通した「つながり」をイメージし、報告することができる。	
予習復習の内容	授業資料やノートを基に復習を行う		

科目名	保育実習指導 I A (1年)				担当者	佐々木 貴弘 ・ 中島 恵 ・ 岩瀬 祺子						
区 分	必修	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内で指示する。											
専門的 学習成果	①	保育実習の意義・目的を理解できる。										
	②	実習の内容を理解し、自らの課題を明確にできる。										
	③	実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解できる。										
	④	実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解できる。										
	⑤	実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にできる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育士の役割を理解し、保育現場における必要な基礎的知識・技能を身につけることができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	子どもの発達や成長や発達段階に関する理解を深め、実習で学んだことを観察記録に記すことができる(専門的学習成果③④に関連)										
	(3)	保育所や福祉施設の実態を知り、観察実習の自己評価を行い、課題を基に二年次の本実習に活かすことができる(専門的学習成果④⑤に関連)										
授業概要	保育実習を行うにあたって必要とされる知識、技術を獲得する。また、保育実習の意義と目的を理解し、課題を明確にすることで、意欲的に実習に臨む姿勢を身につける。実習後の振り返りによる学びの整理と自己評価から、課題を明確化し新たな学習目標を立てる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	事前事後指導における、各種提出物(事前学習、提出書類、観察実習、自己評価、報告書など)にて総合的に評価する。								
		実習評価	30	学外実習(保育所・施設観察実習を中心として)における、巡回指導報告、並びに、実習先からの外部評価にて総合的に評価する。								
	実習日誌等総合評価	40	事前事後指導、事前学習、観察実習などへの取り組み、実習時の実習日誌内容などを総合的に評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果(1)(2)(3)については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①②により評価を行う。 (2)は専門的学習成果③④により評価を行う。 (3)は専門的学習成果④⑤により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名									出版社名	
	聖和学園短期大学保育学科	『教育・保育実習ガイドブック』										
	宮城県保育実習連絡協議会編	『保育実習の手引き』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名									出版社名	
	厚生労働省	『保育所保育指針解説』									フレーベル館	
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』									フレーベル館	
		(解説書、関連図書含む)										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①この科目では時間外学習として、保育所保育指針の内容をよく理解しておくこと。また、ガイダンス内で示される指導案の作成等の課題に取り組むこと。 ②提出された課題は適宜フィードバックを実施する。それを基に教材研究など自主的に学びを進展させるようにすること。											

授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	保育所実習 I A の意義と目的
	学習成果	保育所実習 I A の事前事後指導の進行について、概要を理解し、授業の進め方について説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、保育所実習の意義と目的について理解し、保育実習に向けた学習目標を考える。
2回	授業内容	保育所保育の実態
	学習成果	保育所で勤務する保育所保育士について、職務内容や役割について理解し、実習の目標を立て、記すことができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、保育現場への関心を高め、保育の仕事に関する事前学習につなげる。
3回	授業内容	保育所実習 I の実習日誌の意義と記録方法
	学習成果	実習記録を記す意義を考え、その記述方法について具体的に学び、理解することで、日誌作成をすることができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、観察の視点を確認し、観察記録を記すための文章力、語彙力を向上させる。
4回	授業内容	保育所実習 I A の方法の理解
	学習成果	保育実習先の選び方について確認し、希望調査書など、提出書類の記入の仕方について理解し実際に、正しく記すことができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、保育実習に関する事前学習を進めながら、文書作成や手書きなどをしっかり行う。
5回	授業内容	保育所実習 I A の実習目標の課題と明確化
	学習成果	保育所実習(観察実習を中心に)、学外実習に向けた実習目標を踏まえ、各実習先に関する課題を立て、示すことができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実習マナーの確認や、実習に相応しい服装(名札)などを整える。
6回	授業内容	保育士倫理の理解および保育所実習の心構えと留意事項
	学習成果	保育所職員に求められる専門性や人間性について理解し、保育職を目指す実習生としての自覚を深め、行動することができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、求められる保育者像に向けて、常に挨拶やマナーを意識した生活をするよう心掛ける。
7回	授業内容	保育所実習 I A の振り返りと自己評価
	学習成果	保育所実習に関するガイダンス全体を振り返り、自己評価を行いレポートできる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、今後の保育所実習への課題を再確認し、二年次の本実習につなげる。
8回	授業内容	施設実習の意義と目的
	学習成果	福祉施設で勤務する施設保育士について、職務内容や役割について理解し、実習目標を考えることができる。
	予習復習の内容	保育士資格取得において施設実習が必要とされた歴史的背景と施設実習の意義、目的について理解しておく。
9回	授業内容	施設実習における留意点：守秘義務
	学習成果	人権とプライバシーの保護、守秘義務について理解し、実践できる。
	予習復習の内容	全国保育士会倫理綱領を読み、職業倫理と守秘義務について説明できるようにしておく。
10回	授業内容	施設観察実習の役割と機能
	学習成果	児童発達支援センターの法的根拠、機能と役割について理解し、説明できる。
	予習復習の内容	児童福祉法、障害者総合支援法等を読み、実習施設の機能と役割、利用する子どもの特徴を理解しておく。
11回	授業内容	施設観察実習の課題の明確化
	学習成果	児童発達支援センターの機能と役割、利用する子どもの障害について理解し、実習の課題を明確にできる。
	予習復習の内容	発達障害について理解し、施設で行われる活動や援助を踏まえて課題を設定できるようにしておく。
12回	授業内容	施設見学 I ・ II の意義と目的
	学習成果	福祉型障害児入所施設と特別支援教育の関連性、児童養護施設について理解し、見学の意義と目的について説明できる。
	予習復習の内容	福祉型障害児入所施設と特別支援教育、児童養護施設について理解し、説明できるようにしておく。
13回	授業内容	施設見学 I ・ II の課題の明確化
	学習成果	課題を明確にする意義を理解し、課題の設定の観点・方法を理解し、実践につなげることができる。
	予習復習の内容	見学の意義を考え、見学施設・学校の理解を踏まえて課題を設定できるよう整理しておく。
14回	授業内容	施設観察実習の振り返り
	学習成果	施設観察実習の学びを共有し、自己評価を通して課題を明確化し、実践にいかすことができる。
	予習復習の内容	グループで学びを共有し深める。自己評価を通して課題を明確にしておく。
15回	授業内容	施設見学 I ・ II の振り返り
	学習成果	施設見学 I ・ II の学びを共有し、自己評価を通して課題を明確化し、実践にいかすことができる。
	予習復習の内容	グループで学びを共有し深める。自己評価を通して新たな課題を明確にしておく。

科目名	児童文化				担当者	佐々木 貴 弘							
区 分	選択必修	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期	
教員との連絡方法 質問等の受付方法		sasaki.takahiro@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で通知。授業内容等に関する質問等は毎時、授業の前後に教室内で対応する。											
専門的 学習成果	①	児童文化について理解を深める。											
	②	児童文化財が担う保育現場における役割を考え、手作り保育教材の製作を行う。											
	③	代表的な児童文化財を実製作し、実演を通して体験的に学ぶ。											
	④	児童文化を共感し、将来、保育者としてその担い手になる素地を培っていく。											
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる児童文化に関することを理解し、保育現場における必要な基礎的知識・技能を身に付ける。(専門的学習成果①②③に関連)											
	(2)	子どもの発達や成長に即した保育実践力や、児童文化財を用いた実演発表力を高める。(専門的学習成果②③に関連)											
	(3)	子どもや保護者、及び地域社会における児童文化の意義を理解し、伝承の担い手としての保育者の役割を考慮することができる。(専門的学習成果④に関連)											
授業概要	子どもは、あそびや体験を通して、生きる知恵や力を身に付けていく。また、子どもの中には、独自の文化的活動があり、それらを営み、伝える術として、「昔話」「わらべうた」「伝承あそび」「児童文学」などで伝承されてきた。保育者養成内での「児童文化」の位置付けは、主に、幼児教育で用いられている絵本、紙芝居、遊び、絵描き歌など、保育者側（大人）が用意し、子どもに提供して情緒、感性、生活スキル向上に働きかける保育教材を総称している。その役割を担うものを「児童文化財」といい、絵本、紙芝居に加え、近年はパネルシアターなど、保育現場で多用されているシアター教材などがある。本講義は、保育者として実際に子どもの前で実演できるよう、作品製作・発表を通して体験的に学んでいく。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	30	児童文化財に関する技法や役割をまとめるレポートを課す。									
		作品製作・発表	50	製作技法の習得。それに伴う材料準備、製作手順の理解、活動時の試行錯誤の様子、留意点へ配慮、実演や内容、作品管理、持ち帰りまで評価する。									
	平常点	20	製作活動や発表への取り組み、意欲・態度を評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③により評価を行う。 (3) は専門的学習成果④により評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名						
	川勝 泰介 (著) , 生駒 幸子 (著) , 浅岡 靖央 (著)		『ことばと表現力を育む児童文化』				萌文書林						
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名						
			『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』				文部科学省						
			『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』				厚生労働省						
				『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』				内閣府・文部科学省・厚生労働省					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前学習、準備物等は、その都度指示。基本的に、保育現場で使える手作り児童文化財づくりを目標とします。製作・実演を中心に進めます(時間外学習約15時間)。各自、乳幼児を対象として保育教材研究に繋げることを目標とする。画材・手芸セット・は必要に応じて持参。エプロン(または汚れても良い服装)着用。長い髪はまとめる。教材費は、各々の製作物によって異なる(個人負担)。画材、教科書等は、番号・氏名を記入のこと。 ②ワークシートを基に、グループ内にて、アイディアや工夫点などを発表、共有し、学び合いを行う。また、製作中や発表時に、助言やコメントをする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 児童文化とは何か。	ワークシートへの取り組み。
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要について説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。オリエンテーションの説明を踏まえて、学習目標を立てる。	
2回	授業内容	児童文化財(絵本、紙芝居、各種シアター等)について。	映像教材を活用した児童文化財観賞。 基本的扱い方の確認。 多種多様な児童文化財の理解。
	学習成果	各種児童文化財についての再確認と、基本的な扱いができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、図書館などで関連図書などを探し、資料収集を行うことができる。	
3回	授業内容	児童文化財製作①-1(小作品課題製作) 伝えたいことを考える。	代表的な児童文化財(小作品)を選択し複数製作。 製作への取り組み。 実演、展示。 活動まとめ。
	学習成果	現場で多用されている手作り作品を活用し、「伝えたいこと」「製作目標」を考えアイディアスケッチを行うことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、「伝えたいこと」を踏まえ、いくつかテーマを設定する。	
4回	授業内容	児童文化財製作①-2(小作品課題製作) 方法・手段を考える。	
	学習成果	「伝えたいこと」に基づき、それを伝える方法・手段を考え説明することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、「製作物」を踏まえ、仕掛けや構造を、自分で試作試行することができる。	
5回	授業内容	児童文化財製作①-3(小作品課題製作) 素材研究。	
	学習成果	製作目標に対し、使用場所に適した素材について考え選ぶことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、手触り、強度、演出効果などを考え、適切な素材を準備することができる。	
6回	授業内容	児童文化財製作①-4(小作品課題製作) 媒体の製作。	
	学習成果	児童文化財の伝達媒体、手段としての役割を意識しながら、作品製作ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、より伝わりやすい表現方法について考え練習することができる。	
7回	授業内容	児童文化財製作①-5(作品発表) 実演・鑑賞。	
	学習成果	自分の作品を発表し、他者の作品を鑑賞することで、作品、活用法などを意見交換することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実演・鑑賞を経て、課題を見出し修正することができる。	
8回	授業内容	児童文化財製作②-1(保育実践に向けた保育教材製作) 教材として。	代表的な児童文化財(シアター類)を選択し複数製作。 製作への取り組み。 実演、展示、伝達。 活動まとめ。
	学習成果	代表的な児童文化財(シアター類)に関して、教材としての活用法を考え計画・設計できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、授業内で紹介したシアター類に関する資料収集を行うことができる。	
9回	授業内容	児童文化財製作②-2(保育実践に向けた保育教材製作) 方法・手段を考える。	
	学習成果	「伝えたいこと」に基づき、それを伝える方法・手段を、自分で考え示すことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、製作物に関して、仕掛けや構造を考慮することができる。	
10回	授業内容	児童文化財製作②-3(保育実践に向けた保育教材製作) 素材研究。	
	学習成果	製作目標に対し、使用場所に適した素材について、自分で考え選ぶことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、手触り、強度、演出効果などを考え、適切な素材を、自分で準備することができる。	
11回	授業内容	児童文化財製作②-4(保育実践に向けた保育教材製作) お話創作。	
	学習成果	オリジナル作品作りも視野に入れ、独自の児童文化財製作へ発展させることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、既存に限らず、自分で創作、考案し、実製作に繋げることができる。	
12回	授業内容	児童文化財製作②-5(保育実践に向けた保育教材製作) 実製作。	
	学習成果	試行錯誤をしながら、「手作り保育教材」のよさを実感しながら製作することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、事前準備で不足していた材料を考え調達することができる。	
13回	授業内容	児童文化財製作②-6(保育実践に向けた保育教材製作) 模擬保育。	
	学習成果	保育現場を想定し、児童文化財を活用しながら模擬保育を行うことができる(グループ学習)。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、模擬保育を経て、自己あるいは他者から評価を基に、修正することができる。	
14回	授業内容	児童文化財製作②-7(作品発表) 実演・鑑賞。	
	学習成果	グループ発表の中から、クラス全体へ紹介する作品を選出。クラスの中で実演することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、全体発表から学べたことを基に、自分の製作や実演について考えを深める。	
15回	授業内容	児童文化への理解と児童文化財製作研究のまとめ・総括。	振り返りシートへの取り組み。 全体総括。
	学習成果	手作り体験から、発表を通して、体験的発見的に、児童文化への理解を深め、表現することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を総括し、児童文化への理解をより深め、保育現場における児童文化財の活用に向けて表現力を増く。	

科目名	保育内容の理解と方法				担当者	小 野 真喜子 (実務家教員)						
区 分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワー及びe-mail:ono.makiko@m.seiwa.ac.jp オフィスアワーは初回の授業時に連絡する											
専門的 学習成果	①	幼稚園、保育園、認定子ども園の保育の流れについて子どもの発達段階をもとに理解する。										
	②	子どもの心身発達、気持ちを理解し評価することが出来る。										
	③	保育観に基づいた、子ども達への働きかけ、言葉かけ、興味づけなどを具体的に理解する。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる保育指導方法の具体的な方法を理解して実践につなげることが出来る。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	保育者として豊かな感性や想像力をもって子ども達と関わり、子どもの理解や支援が出来る。(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	保育者として必要なコミュニケーション能力を有し、自ら主体的に保育に関ると共に常に課題意識を持って保育指導法のあり方を考える。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	保育者の大きな役割は、子どもの発達段階や個々の気持ちに応じながら、より良い方向へ導いていくことである。その為には、子どもを知ること、理解を深めること、そして保育者自身がしっかりとした保育観を持って子ども達と接することが大切である。そこで、どのような働きかけ、言葉かけ、興味付け、援助のもとで喜びや楽しさ、充実感が味わえるのかを授業の中で、講義と実務経験をもとにした具体的な事例検討の両面から理解する。その理解の基に実際の保育現場における指導のあり方を考え、実践につなげられるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	保育の流れの理解と日常の幼児の気持ちの理解、及び、保育への導入方法、指導法を理解しているかを観点として評価を行う。								
		レポート	20	実際の保育で行われる折り紙、描画指導、紙粘土製作などを通しての指導法について理解できているかを観点として評価する。								
	最終レポート	60	保育観に基づいて、どのような働きかけ、言葉掛け、興味付け、援助が必要か理解できているかを観点に評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果の①で評価を行う (2) は専門的学習成果の②で評価を行う (3) は専門的学習成果の③で評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	厚生労働省	『保育所保育指針』(平成29年3月告示)										
	厚生労働省	『保育所保育指針解説』										
	文部科学省	『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示)										
	文部科学省	『幼稚園教育要領解説』										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』(平成29年3月告示)										
	佐藤 哲也 編	「子どもの心によりそう保育課程論」					福村出版					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①毎回配布する資料、視聴覚資料を活用し授業を進める。事前事後学習として授業理解の為配布資料を読み返しておくこと。(予習週2時間程度)。事後学習としては毎回の授業後に学んだことの要点をミニレポートにまとめて提出する。その内容を評価の対象とするので毎回しっかりとまとめて提出すること。 ②毎回のレポートに対するフィードバックは毎回の授業で解説を行う。											

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	「保育内容の理解と方法」の授業のねらいと目標について。	○レポート① 5回目のレポートは1回目から5回目までの自身のミニレポートを読み返し、授業で理解したことと自身が保育指導法を考えたながら普段関わってきた子どもとの関わりも踏まえてまとめる。
	学習成果	「保育内容の理解と方法」の授業のねらいと目標について理解する。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読みその内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	導入の大切さ・幼児の心を読み取る。	○レポート② 10回目の授業後のレポートは6回目から10回目までの自身のミニレポートを読み返し、授業で理解したことと自身が保育指導法を考えたながら普段関わってきた子どもとの関わりも踏まえてまとめる。
	学習成果	保育における導入の大切さと、幼児の気持ちを読み取り方について理解する。	
3回	予習復習の内容	授業内容についてミニレポートにまとめることと、日常出会う幼児の気持ちについて考えてみる。	○レポート② 10回目の授業後のレポートは6回目から10回目までの自身のミニレポートを読み返し、授業で理解したことと自身が保育指導法を考えたながら普段関わってきた子どもとの関わりも踏まえてまとめる。
	授業内容	生活の流れについて① 新しい環境へ迎え入れるときの配慮。	
	学習成果	幼稚園と保育所の生活の流れについて理解すると共に受け入れる側の配慮について理解する。	
4回	予習復習の内容	授業内容についてミニレポートにまとめることと、子どもを新しい環境へ迎え入れる配慮について自分自身で考えてみる。	○レポート② 10回目の授業後のレポートは6回目から10回目までの自身のミニレポートを読み返し、授業で理解したことと自身が保育指導法を考えたながら普段関わってきた子どもとの関わりも踏まえてまとめる。
	授業内容	生活の流れについて② 園生活の流れと指導の方法。	
5回	学習成果	幼稚園と保育所の生活の流れを理解すると共にその指導方法について理解する。	○レポート② 10回目の授業後のレポートは6回目から10回目までの自身のミニレポートを読み返し、授業で理解したことと自身が保育指導法を考えたながら普段関わってきた子どもとの関わりも踏まえてまとめる。
	予習復習の内容	授業内容についてのミニレポートと、日常出会う幼児の気持ちについて考えてみる。	
	授業内容	絵本・詩の世界について 絵本の読み方、詩の伝え方。	
6回	学習成果	絵本・詩の世界について知り実際の絵本の読み方、詩の伝え方を理解する。	○レポート② 10回目の授業後のレポートは6回目から10回目までの自身のミニレポートを読み返し、授業で理解したことと自身が保育指導法を考えたながら普段関わってきた子どもとの関わりも踏まえてまとめる。
	予習復習の内容	配布プリントによる授業の復習と実際に絵本の読み聞かせと詩の暗誦をする。	
7回	授業内容	幼児の描画・製作の指導について。	○レポート② 10回目の授業後のレポートは6回目から10回目までの自身のミニレポートを読み返し、授業で理解したことと自身が保育指導法を考えたながら普段関わってきた子どもとの関わりも踏まえてまとめる。
	学習成果	幼児の描画を見てその成長の様子を理解すると共にそ製作過程と指導のあり方について理解する。	
	予習復習の内容	授業の復習とミニレポートのまとめをして製作過程における指導のあり方について自分自身考えてみる。	
8回	授業内容	折り紙の指導① 基本的折り方の指導法。	○レポート② 10回目の授業後のレポートは6回目から10回目までの自身のミニレポートを読み返し、授業で理解したことと自身が保育指導法を考えたながら普段関わってきた子どもとの関わりも踏まえてまとめる。
	学習成果	折り紙の基本的な折り方の順序とその指導法について理解する。	
9回	予習復習の内容	授業の復習とミニレポートのまとめと折り紙で自分自身が作成し、その指導法を実践する。	○レポート② 10回目の授業後のレポートは6回目から10回目までの自身のミニレポートを読み返し、授業で理解したことと自身が保育指導法を考えたながら普段関わってきた子どもとの関わりも踏まえてまとめる。
	授業内容	折り紙の指導② 応用方法の指導方法。	
	学習成果	折り紙の基本を踏まえた上での応用の指導法について理解する。	
10回	予習復習の内容	授業の復習とミニレポートのまとめと折り紙の応用方法を自分自身で指導法を考える。	○レポート② 10回目の授業後のレポートは6回目から10回目までの自身のミニレポートを読み返し、授業で理解したことと自身が保育指導法を考えたながら普段関わってきた子どもとの関わりも踏まえてまとめる。
	授業内容	指人形製作指導① 紙粘土の扱い方と創作の指導方法	
11回	学習成果	指人形製作における保育者の準備と指導方法の実際と紙粘土の扱い方を体験し、指導方法を理解する。	○最終レポート 最終レポートとして、授業で理解したことと自身が保育指導法を考えたながら普段関わってきた子どもとの関わりも踏まえてまとめる。子どもを知ること、理解を深めること、また保育者が保育観を持って子ども達と接することの大切さと、実際の保育ではどのような働きかけ、援助のもとで充実感が味わえるのかを講義と実験をもとにまとめる。
	予習復習の内容	紙粘土による製作に限らず、保育者の事前準備についてミニレポートにまとめる。	
	授業内容	指人形製作指導② 指人形の制作方法及指導法。	
12回	学習成果	指人形の製作過程での保育者の配慮について自分自身が製作することで理解する。	○最終レポート 最終レポートとして、授業で理解したことと自身が保育指導法を考えたながら普段関わってきた子どもとの関わりも踏まえてまとめる。子どもを知ること、理解を深めること、また保育者が保育観を持って子ども達と接することの大切さと、実際の保育ではどのような働きかけ、援助のもとで充実感が味わえるのかを講義と実験をもとにまとめる。
	予習復習の内容	指人形の製作過程における保育者の配慮と自身の制作過程においての学びを整理する。	
13回	授業内容	製作した人形を用いての詩のグループ発表会。	○最終レポート 最終レポートとして、授業で理解したことと自身が保育指導法を考えたながら普段関わってきた子どもとの関わりも踏まえてまとめる。子どもを知ること、理解を深めること、また保育者が保育観を持って子ども達と接することの大切さと、実際の保育ではどのような働きかけ、援助のもとで充実感が味わえるのかを講義と実験をもとにまとめる。
	学習成果	自身で製作した人形を用いて幼児に向けた詩の発表をグループで発表し幼児への詩の伝え方を理解する。	
	予習復習の内容	実際の発表体験を通して感じたことをミニレポートにまとめ課題を持って今後の保育指導法を考える。	
14回	授業内容	人間関係と遊びの援助 「わらべうたあそびを通して①」 保育者との関係を中心に	○最終レポート 最終レポートとして、授業で理解したことと自身が保育指導法を考えたながら普段関わってきた子どもとの関わりも踏まえてまとめる。子どもを知ること、理解を深めること、また保育者が保育観を持って子ども達と接することの大切さと、実際の保育ではどのような働きかけ、援助のもとで充実感が味わえるのかを講義と実験をもとにまとめる。
	学習成果	段階をふんだらわらべうたの指導方法について今回は担任との関係を育むことについて理解する。	
15回	予習復習の内容	授業で行った内容をミニレポートにまとめることと行ったわらべうたを何度も歌って自身のものにする。	○最終レポート 最終レポートとして、授業で理解したことと自身が保育指導法を考えたながら普段関わってきた子どもとの関わりも踏まえてまとめる。子どもを知ること、理解を深めること、また保育者が保育観を持って子ども達と接することの大切さと、実際の保育ではどのような働きかけ、援助のもとで充実感が味わえるのかを講義と実験をもとにまとめる。
	授業内容	人間関係と遊びの援助「わらべうたあそびをと②」 同年齢同士の関係を中心に。	
	学習成果	段階をふんだらわらべうたの指導方法について同年齢の関係を中心とした段階について理解する。	
14回	予習復習の内容	授業で行った内容をミニレポートにまとめることと行ったわらべうたを何度も歌って自身のものにする。	○最終レポート 最終レポートとして、授業で理解したことと自身が保育指導法を考えたながら普段関わってきた子どもとの関わりも踏まえてまとめる。子どもを知ること、理解を深めること、また保育者が保育観を持って子ども達と接することの大切さと、実際の保育ではどのような働きかけ、援助のもとで充実感が味わえるのかを講義と実験をもとにまとめる。
	授業内容	人間関係と遊びの援助③ 異年齢との関係を中心に	
15回	学習成果	段階をふんだらわらべうたの指導法について、異年齢の友だちとの関係をふまえた指導法について理解する。	○最終レポート 最終レポートとして、授業で理解したことと自身が保育指導法を考えたながら普段関わってきた子どもとの関わりも踏まえてまとめる。子どもを知ること、理解を深めること、また保育者が保育観を持って子ども達と接することの大切さと、実際の保育ではどのような働きかけ、援助のもとで充実感が味わえるのかを講義と実験をもとにまとめる。
	予習復習の内容	授業で行った内容をミニレポートにまとめることと行ったわらべうたを何度も歌い自身のものにする。	
	授業内容	まとめ(レポート)	
15回	学習成果	14回の授業を振り返って自身の保育観と保育指導方法について理解したことを文章にまとめる。	○最終レポート 最終レポートとして、授業で理解したことと自身が保育指導法を考えたながら普段関わってきた子どもとの関わりも踏まえてまとめる。子どもを知ること、理解を深めること、また保育者が保育観を持って子ども達と接することの大切さと、実際の保育ではどのような働きかけ、援助のもとで充実感が味わえるのかを講義と実験をもとにまとめる。
	予習復習の内容	14回のレポートを振り返り自身の保育観と指導方法について文章にまとめることで自身のものとする。	

科目名	ピアノ I				担当者	佐藤 万利子 ・ 岩瀬 拱子 他						
区分	必修	1	単位	授業回数 30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	通年	
				授業時間数 60	時間							

教員との連絡方法
質問等の受付方法

sato.mariko@seiwai.ac.jp, iwabuchi.setsuko@seiwai.ac.jp
初回授業時に各担当教員に確認すること。

- ① 基礎的なピアノのテクニックを習得し、人前での演奏を実践できる。
- ② 初見視奏、コード奏法など保育現場で応用できるピアノ独奏及び伴奏技能を高め、実践できる。
- ③ 基本的な音楽理論を理解し、五線譜の読譜ができる。
- ④ ピアノによる子どもの歌の弾き歌いの技能を習得し、実践できる。

- (1) 五線譜の読譜力を高め、基礎的なピアノのテクニックを身につけることによって、保育現場で必要とされるピアノ演奏技能を習得し、実践できる。(専門的学習成果①③に関連)
- (2) 初見視奏やコード奏法などの応用力を身につけ、豊かな表現力をもってピアノを演奏できる。(専門的学習成果①②に関連)
- (3) 挨拶の歌、季節の歌や行事の歌など様々な場面で用いられる子どもの歌の弾き歌いを行い、保育現場での実践につなげることができる。(専門的学習成果②④に関連)
- (4) レッスンや試験で弾くことにより人前で演奏する時の態度・マナーを身につけ、地域社会で活用することができる。専門的学習成果①に関連

授業概要

主としてピアノの個人レッスンを行う。初心者には五線譜の読譜力を高めながらピアノの基礎的なテクニックを習得し、子どもの歌の弾き歌いにも慣れるようにする。経験者はそれぞれのテクニックをさらに向上させ、子どもの歌の弾き歌いを数多く習得し、保育現場で実際に役立つような応用力を身につける。教材として、ピアノの基礎テクニック向上のための練習曲や、様々な雰囲気をもつピアノ曲、挨拶の歌、季節の歌、行事の歌など保育の現場で用いられている様々な子どもの歌を取り上げる。一人当たりのレッスン時間は20分である。

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準
		定期試験	50	前期末及び後期末に演奏試験を行い、全担当教員により評価する。
		レポート		
		平常点	50	レッスンへの取り組み・意欲・態度により各担当教員が評価を行う。
	汎用的学習成果			汎用的学習成果 (1) (2) (3) (4) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②により評価を行う。 (3) は専門的学習成果②④により評価を行う。 (4) は専門的学習成果①により評価を行う。

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	小林美実監修・井戸和秀編	『こどものうた100』	チャイルド社

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	安川加寿子訳編	『メトードローズ・ピアノ教則本』	音楽之友社
	木村鈴代他共著	『これだけは知ってほしい楽典 はじめの一步』	ワイイ出版
	全国大学音楽教育学会編	『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み』	音楽之友社

①準備学習等履修上の留意点
②課題に対するフィードバックの方法等

①音楽に関わる基本的な技能の上達は、毎日の反復練習と各自の熱意が大切となる。予習復習を含めて毎日30分程度はピアノに触れて練習を行う。練習の継続が基礎的なテクニックの習得につながる。音楽を楽しみ、より高い音楽的能力を身につけるよう練習に励む。
②課題動画提出後に、担当教員によるレッスン指導内容とアドバイスのフィードバックを行う。

授業計画		学習成果の評価		授業計画		学習成果の評価	
1日	授業内容	レベリチェック、各自のテキスト・課題の提示、ピアノを弾くための基礎、読譜の基礎。	○レッスンの記録に授業内容の概ねまとめて書いているか。	160分	授業内容	長期リレナーション、仏教保育の歌を歌う。後期課題を確認する。	○仏教保育の歌を歌えているか。 ○レッスンの記録に授業内容を的確にまとめて書いているか。
	学習成果	ピアノを弾くための正しい姿勢と手の形を保つことができる。指番号、五線譜と鍵盤の位置関係を理解し、レッスンの記録にまとめることができる。			学習成果	仏教保育の歌を知り、歌える。レッスン内容を記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	各自、提示された課題を練習する。練習の記録をつける。			予習復習の内容	仏教保育の歌を歌う。レッスン内容を振り返り、指使いに気を付けて練習する。	
2日	授業内容	5楽譜の基本ポジションで弾いた音をユニゾンで弾く。ト音階の理解。四分音符と二分音符、全音符の長さの理解。	○各科目において、前回のレッスン内容を踏まえて演習できているか。 ○各科目において、課題を演習する動画を撮影してGoogle Classroomへ提出する。	170分	授業内容	コード奏の基礎（ハ長調IⅴV）、仏教保育の歌：お伽をほらうた	○各科目において、前回のレッスン内容を踏まえて演習できているか。 ○各科目において、課題を演習する動画を撮影してGoogle Classroomへ提出する。
	学習成果	ト音階がわかり始める。基本のポジションで両手で弾くことができる。音符の長さの異なる弾き分けができる。授業内容を記録にまとめることができる。			学習成果	ハ長調の旋律にIⅴVの和音で伴奏をつけることができる。お伽生はまはましようをコード奏で弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り、各自の課題を確認する。練習の記録をつける。			予習復習の内容	レッスン内容を振り返り、コード奏と仏教保育の歌を練習する。練習の記録をつける。	
3日	授業内容	基本ポジションで和音階を弾く。ハ音階の理解。		180分	授業内容	コード奏の基礎（ハ長調IⅴV7）仏教保育の歌：おほよりのうた	
	学習成果	ハ音階がわかり始める。基礎音階を弾くことができる。学習した音符の長さを正しく表現できる。			学習成果	ハ長調のV7を理解し、演奏できる。おほよりのうたを歌詞や曲想を参考に弾き歌いできる。レッスン内容を記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り、各自の課題を確認する。音符の長さをまとめる。練習の記録をつける。			予習復習の内容	コード奏を復習する。おほよりのうたをテンポに気をつけて練習する。練習の記録をつける。	
4日	授業内容	大譜表の読譜。両手で異なる動きの楽曲を弾く。腕力をつけて弾く。		190分	授業内容	コード奏の基礎（ハ長調IⅴV7）、仏教保育の歌：燃熱の曲	
	学習成果	両手で異なる動きの楽曲を弾くことができる。腕力をつけて弾くことができる。			学習成果	ハ長調の旋律にコードで伴奏をつける。燃熱の曲を正しい指使いで弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り、各自の課題を確認する。練習の記録をつける。			予習復習の内容	燃熱の曲を弾き分けて音が揃うように練習する。練習の記録をつける。	
5日	授業内容	楽譜上の記号（スラー、繰り返しなど）を生かして弾く。春の歌：ちゅうりゅう、おんみんみん。		200分	授業内容	コード奏の基礎（ハ長調IⅴV7）、仏教保育の歌：燃熱の曲	
	学習成果	スラーの意味を理解し、スラーを生かしてピアノで表現できる。繰り返し記号の意味を説明できる。			学習成果	ハ長調の旋律にコードで伴奏をつける。燃熱の曲をべんを指使いで弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	楽譜上の記号の意味を復習する。レッスン内容を振り返り、各自の課題を確認する。練習の記録をつける。			予習復習の内容	燃熱の曲を弾き分けて音が揃うように練習する。練習の記録をつける。	
6日	授業内容	指を動かして弾く。春の歌：チューリップ、うけのうた他		210分	授業内容	コード奏の基礎（ハ長調IⅴV7）、仏教保育の歌：お伽のうた	
	学習成果	5度より広い音程を楽譜で認識し、弾くことができる。課題の春の歌の弾き歌いできる。			学習成果	ハ長調の曲にコードで伴奏をつけることができる。お伽のうたの指使いに気を配り、正しい指使いで弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り、各自の課題を確認する。練習の記録をつける。			予習復習の内容	お伽のうたのリズムに注意してゆっくり練習する。練習の記録をつける。	
7日	授業内容	楽譜上の記号（D.C.）、付点音符の長さの理解。表拍から曲を奏で弾く。		220分	授業内容	コード奏のまとめ、仏教保育の歌：お伽のうた	
	学習成果	D.C.の指し方、意味を理解し説明できる。付点音符の長さを理解し説明できる。			学習成果	曲の調性に応じてコード伴奏をつけることができる。お伽のうたを両手で正しいリズムと指使いで弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り、各自の課題を確認する。練習の記録をつける。			予習復習の内容	お伽のうたのリズムに注意し、両手で弾く練習をする。練習の記録をつける。	
8日	授業内容	変化記号（シャープ、フラット、ナチュラル）の理解。ハ長調、ハ長調の楽曲。夏の歌：はなみかましよう、うみ		230分	授業内容	仏教保育の歌：お伽のうたを完成させる。いろいろなうた：いぬのおまわりさん	
	学習成果	変化記号の意味を理解し、ハ長調、ハ長調の楽曲をピアノで演奏できる。			学習成果	お伽のうたを弾くははましように弾き歌いできる。レッスン内容を記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り、各自の課題を確認する。練習の記録をつける。			予習復習の内容	仏教保育の歌を復習する。練習の記録をつける。	
9日	授業内容	休符（全休符、二分休符、四分休符）の練習。問いと答えの形の理解。夏の歌：ありさんのおはなし		240分	授業内容	冬の歌：お正月、いろいろなうた：ぞうさん	
	学習成果	休符の長さを理解し、説明できる。問いと答えの形式を理解し、ピアノで表現できる。			学習成果	季節感をもって弾き歌いできる。レッスンの内容を記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り、各自の課題を確認する。練習の記録をつける。			予習復習の内容	お正月、いろいろなうたを復習する。練習の記録をつける。	
10日	授業内容	八分音符の練習。楽譜上の記号（タイ）の理解。ハ長調の理解。曲想の理解。		250分	授業内容	冬の歌：雪、いろいろなうた：うちゅうせん	
	学習成果	八分音符、タイを理解し、説明できる。ハ長調の楽曲をピアノで演奏できる。			学習成果	調のリズムを正しく表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り、各自の課題を確認する。練習の記録をつける。			予習復習の内容	雪、うちゅうせんを復習する。	
11日	授業内容	指の独立。各自の前回課題のレッスン。秋の歌：まつばつくり、やまのおんがく		260分	授業内容	後期試験曲の選曲。冬の歌：あわたしほうのサンタクロース	
	学習成果	試験曲のテンポ、曲想などを理解し、適正な指使いが分かる。課題の秋の歌を弾き歌いできる。			学習成果	指の独立性に合わせた。あわたしほうのサンタクロースを両生を生かして表現できる。	
	予習復習の内容	試験曲のテンポ、曲想などを理解し、適正な指使いで練習する。練習の記録をつける。			予習復習の内容	後期試験曲の譜読み。練習の記録をつける。	
12日	授業内容	各自の試験曲のレッスン。秋の歌：まつかあ秋		270分	授業内容	後期試験曲を弾く。正しい指使いを確認する。いろいろなうた：アイアイ	
	学習成果	指の感覚をもって、正しいリズムで表現できる。			学習成果	試験曲を弾く。正しい指使いで弾くことができる。短期の曲の楽譜を覚えて弾き歌いできる。	
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り、試験曲の難し箇所を取り出して練習する。練習の記録をつける。			予習復習の内容	試験曲を両手でゆっくり弾く。いろいろなうた：おもちのうた	
13日	授業内容	各自の試験曲のレッスン。冬の歌：ジングルベル		280分	授業内容	試験曲を両手でゆっくり弾く。いろいろなうた：おもちのうた	
	学習成果	強弱、フレージング、和声感を表現できる。			学習成果	試験曲を両手でゆっくり弾くことができる。レッスンの内容を記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り、強弱、フレージング、和声感に気を付けて練習する。練習の記録をつける。			予習復習の内容	試験曲を少しづつテンポを上げて練習する。練習の記録をつける。	
14日	授業内容	各自の試験曲のレッスン。冬の歌：雪のこぼれ雪		290分	授業内容	試験曲を弾き歌いを通して弾くことができる。いろいろなうた：ふしきなポケット	
	学習成果	試験曲の難し箇所を克服し、通して弾くことができる。			学習成果	試験曲を両手で弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り、通して弾く練習をする。練習の記録をつける。			予習復習の内容	試験曲を適切なテンポで、指調で弾くようにする。練習の記録をつける。	
15日	授業内容	試験曲のリハーサル。演奏時のマナー、身だしなみについて、試験に際した試験準備の方法について。	○前期試験終了後に、担当者による前期学習成果と試験時の演奏についてフィードバックを行う。	300分	授業内容	後期試験のリハーサル。いろいろなうた：てのひらをたいたうた	○後期試験終了後に、担当者による後期学習成果と試験時の演奏についてフィードバックを行う。
	学習成果	試験曲を正確で演奏できる。人前で弾く時に必要なことを理解し、実践を見学できる。			学習成果	試験曲を表情豊かに弾き歌いできる。レッスンの内容を記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	リハーサルの内容を振り返り、試験に備えて練習する。			予習復習の内容	リハーサルを振り返り、試験に向けて人前で弾くための練習をする。練習の記録をつける。	

科目名	子どもと音楽					担当者	サトウマリコ 佐藤万利子 ・ イロハタ セリコ 岩淵 摂子 ・ マツバタ エリコ 松原 優子					
区分	必修	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスマワーは初回の授業時に連絡する。e-mailsato.mariko@seiwa.ac.jp , iwabuchi.setsuko@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	音楽の基礎理論を理解し、幼児の前で表現することができる。										
	②	コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。										
	③	呼吸法と発声法を身につけ、歌詞の内容に適した歌唱表現ができる。										
	④	童謡や幼児のうたにおいて、歌うことやピアノを弾く表現活動ができるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる音楽の専門的知識を理解し、基礎的な技能を身につける。(専門的学習成果①③に関連)										
	(2)	幼児の発達に合わせた保育表現技術を理解し、保育実践力を高める。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	豊かな感性や想像力を伸ばし、保育活動の中で幼児のうたを歌う及びピアノで弾く表現力を高める。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	領域「表現」のねらいや内容と合わせ、乳幼児の表現活動の特徴・特質を理解する。基本的な保育表現技術の習得を通して、自身の感性を高める。表現(音楽)あそびの意義と特徴や、用具、楽器等の扱い方について学ぶ。各種表現活動を通して、領域「表現」と他領域との関連について理解を深める。保育者に必要な基礎的な技能として音楽力を身に付けるために音楽理論(45分)と歌唱表現(45分)を学ぶ。音楽理論を土台として読譜力、リズム練習、伴奏付けの理解を深め、呼吸法と発声法の基礎を身につけ、歌詞の内容に適した表情豊かな歌唱表現を理解し、指導力や実践力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		前期試験	30	音楽理論の筆記試験と歌唱実技試験の総合評価を行う。								
		後期試験	30	音楽理論の筆記試験と歌唱実技試験の総合評価を行う。								
小テスト・発表	40	各10%を4回(音楽理論2回・声楽2回)実施する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①③で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③で評価を行う。 (3)は専門的学習効果④で評価を行う。											
テキスト等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	木村鈴代 共著	『これだけは知ってほしい楽典 はじめの一步』					カワイ出版					
	全国大学音楽教育学会編	『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌 唱歌童謡140年の歩み』					音楽之友社					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	小林美実編	『子どものうた100』					チャイルド本社					
	幼児表現教育研究会編著	『幼児のための表現指導-うたって、つくって、あそぼう』					音楽之友社					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習:週2時間程度)事後学習としては、小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので、復習をしっかりとすること。(復習:週2時間程度) ②小テスト及び前期試験、後期試験に対するフィードバックは実施後に、正解を示し解説または講評を行う。											

授業計画		学習成果の評価		授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	保育者に必要とされる音楽の専門的知識習得の意義と目的	○小テスト 音名・階名・リズム等についての理解力を確認する。 音楽歴史アンケートを行う。	16回	授業内容	前回の音楽的知識と音楽的技術の習得を振り返る	
	学習成果	音名・音部記号の理解と、呼吸法・発声法について理解できる。			学習成果	新しい楽譜を見て基本的なコード付けができる。	
	予習復習の内容	音部記号の書き方を理解し、楽譜と鍵盤位置の認知、音名との照合ができるようにする。			予習復習の内容	コードの基本形を理解して実践できる。	
2回	授業内容	三種の音名、音符と休符及び呼吸法		17回	授業内容	日本の幼児音楽教育の歴史と変遷	
	学習成果	イタリア、日本、英米音名読みと音符休符の理解ができる。呼吸法の実践ができる。			学習成果	明治(保育唱歌)大正(童謡)昭和(文部省唱歌)平成(遊びを通しての指導)を理解できる。	
	予習復習の内容	音名と音符・休符の種類や長さや書き方について理解する。			予習復習の内容	明治・大正・昭和・平成時代に作られた童謡や唱歌をまとめる。	
3回	授業内容	拍子記号とリズム及び発声法	○小テスト 3回目で「英米音名読み」のテストを実施する	18回	授業内容	世界の音楽教育(1) ユークロース	
	学習成果	単純拍子の理解とリズムの聞き取り、実践ができる。発声法の実践ができる。			学習成果	リトミックの創始者ユークロースの音楽を理解できる。	
	予習復習の内容	四分音符を分母とする拍子(2拍子、3拍子、4拍子)を説明できるようにする。			予習復習の内容	リズム運動、ソルフェージュ、即興演奏に触れる。	
4回	授業内容	複合拍子と小節線及び春(4月・5月)の童謡		19回	授業内容	世界の音楽教育(2) コゲーイ	
	学習成果	複合拍子と小節線(縦線、縦線、終止線)が理解できる。春の童謡を歌い、呼吸法を実践する。			学習成果	ハンガリーの作曲家、哲学者、言語学者のユグーイ音楽教育を理解できる。	
	予習復習の内容	八分音符を分母とする拍子(6拍子、9拍子)を説明できるようにする。			予習復習の内容	伝承音楽、民謡やわらべうたに触れる。	
5回	授業内容	変化記号と夏(6月・7月)の童謡		20回	授業内容	世界の音楽教育(3) オルフ	
	学習成果	変化記号(♯・♭・♮)の名称と意味を理解する。夏の童謡を歌い、発声法を実践する。			学習成果	ミュンヘンの作曲家、教育者として活動したオルフの教育用作品の理解	
	予習復習の内容	楽譜上の変化記号と鍵盤の位置を確認する。			予習復習の内容	「言語・リズム・動き」の3要素が一体化した音楽に触れる。	
6回	授業内容	音程と夏(8月)の童謡での歌唱表現(強弱)	○発表 6回目で歌唱発表を実施する	21回	授業内容	二重唱	
	学習成果	全音と半音の理解ができる。夏の童謡を歌う中で、歌唱表現の理解ができる。			学習成果	互いのパートを聞き合って歌うことができる。	
	予習復習の内容	鍵盤(白鍵・黒鍵)を見ながら、全音と半音の音程関係を理解する。			予習復習の内容	音を聴いて心で受け止める身体の動きと表情で歌うことに触れる。	
7回	授業内容	3度音程(長3度・短3度)と秋(9月・10月)の童謡での歌唱表現の実践ができる。		22回	授業内容	コード奏法の復習(1)	
	学習成果	三和音を構成する3度音程を理解する。秋の童謡を歌う中で、歌唱表現の実践理解する。			学習成果	長尺調のI・IV・Vを用いて伴奏付けができる。	
	予習復習の内容	鍵盤を見ながら、長3度・短3度の音程関係を理解する。			予習復習の内容	F(ファラド)B♭(ファシレ)C(ミソド)のカデンツを復習する。	
8回	授業内容	三和音とコードネームと秋(11月)の童謡での歌唱表現(曲奏に関する記号)		23回	授業内容	コード奏法の復習(2)	○発表 23回目で歌唱発表を実施する
	学習成果	三和音(長三和音)とコードネームを理解できる。秋の童謡で、歌唱表現(歌詞の内容理解と表情豊かに表現)の実践をする。			学習成果	二長調のI・IV・Vを用いて伴奏付けができる。	
	予習復習の内容	英米音名読みの復習。三和音(長三和音)の根音とコードネームの一致を理解する。			予習復習の内容	D(レファラ)G(レソシ)A(ド+ミラ)のカデンツを復習する。	
9回	授業内容	音階・長調と冬(12月)の童謡での歌唱表現(速度と奏法に関する記号)	○小テスト 9回目で音楽理論のテストを実施する	24回	授業内容	子どもの想像を膨らませる教材と音楽表現の関係(1)	
	学習成果	長調の主音と長音階(全音と半音)スラーやヌースト奏法が理解でき、歌詞に合わせてフレージ(息つき)が実践できる。			学習成果	ハーブノートやパルシアンターに音楽と効果音をつけて表現できる。	
	予習復習の内容	歌詞をよく音読し、内容がはっきり伝わるように、発音を大切に歌う。			予習復習の内容	子どもの視覚的、聴覚的イメージを広げる音楽の効果を検討する。	
10回	授業内容	調名・調号と冬(1月・2月)の童謡		25回	授業内容	子どもの想像を膨らませる教材と音楽表現の関係(2)	
	学習成果	調名と調号の関係を理解できる。歌唱の弾き歌いで子供をリードして歌える。			学習成果	劇遊びに音楽と効果音をつけて表現できる。	
	予習復習の内容	歌のイメージを広げ、歌唱の全体像を明確に表現することができる。			予習復習の内容	子どもの視覚的、聴覚的イメージを広げる音楽の効果を検討する。	
11回	授業内容	曲型の表現・ペダルの効果の使い方と春(3月)の童謡		26回	授業内容	子どもが使用する楽器と演奏法(1)	
	学習成果	弾き歌いを通して子どもの想像力を促し、表現を導く役割を担うことができる。			学習成果	カステネット、クラベス、ウッドブロック、マラカスの演奏法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	ダンパーペダル(音を長く持続させ、響きを増やす)効果を理解する。			予習復習の内容	子どもが音色の楽しさやリズムの楽しさを感ぜられるような演奏法を身につける。	
12回	授業内容	鍵盤と大譜表の相関関係の理解と前期歌唱試験に向けての指導	○発表 12回目で歌唱発表を実施する	27回	授業内容	子どもが使用する楽器と演奏法(2)	
	学習成果	ピアノの鍵盤の位置と大譜表の音階の関係を理解して演奏できる。			学習成果	ギロ、トライアングル、ケンプリン小太鼓の演奏法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	楽譜の音階とピアノの鍵盤の位置関係を把握する。			予習復習の内容	子どもが音色の楽しさやリズムの楽しさを感ぜられるような演奏法を実践する。	
13回	授業内容	コード奏法と前期歌唱試験に向けての表現方法の指導		28回	授業内容	アンサンブル①(合唱・合奏)の指導	
	学習成果	ハ長調のI、IV、V、V7を用いて伴奏付けができる。			学習成果	パル、トーンチャイムの演奏法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	C(ドミソ)F(ドファラ)G(シレソ)G7(シファラ)を理解できる。			予習復習の内容	子どもが音色の楽しさやリズムの楽しさを感ぜられるような指導法を考える。	
14回	授業内容	コード奏法と前期歌唱試験に向けての発声法の指導		29回	授業内容	アンサンブル②(合唱・合奏)の指導	○後期試験 29回目で音楽理論のテストを実施する
	学習成果	ト長調のI、IV、Vを用いて伴奏付けができる。			学習成果	合奏における楽器配列、合唱におけるパート配置を理解できて演奏法を指導できる。	
	予習復習の内容	G(ソシレ)C(ソドミ)D(ドファラ)			予習復習の内容	グループで演奏する楽しみに触れる。	
15回	授業内容	前期の音楽理論筆記試験と歌唱試験	○前期試験 15回目で実施する ・音楽理論 ・歌唱テスト	30回	授業内容	子どもと音楽のまとめ	○後期試験 30回目で歌唱テストを実施する
	学習成果	音楽理論を理解して、人間で表情豊かに歌唱できる。			学習成果	保育者に必要とされる音楽の専門的知識と技能を理解できる。	
	予習復習の内容	歌唱試験課題曲を暗譜し、録音して振り返る。			予習復習の内容	子どもが自ら意欲的に楽しめる音楽について考える。	

科目名	子どもと造形あそび				担当者	佐々木 貴 弘						
区 分	選択必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	sasaki.takahiro@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で通知。授業内容等に関する質問等は毎時、授業の前後に教室内で対応する。											
専門的 学習成果	①	乳幼児の造形活動の基礎技術と知識を身に付ける。										
	②	乳幼児の造形表現の発達と特質を理解し、共感を持って援助できる。										
	③	造形活動を、安全かつ安心してできる環境を整えることができる。										
	④	造形表現を通して得る製作実感を共有し、体験的に保育内容について関連領域の知識を考察できる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる造形表現的活動を理解し、保育現場における必要な基礎的知識・技能を身に付ける。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	子どもの発達や成長に即した表現活動への保育実践力や、応用展開力を高める。(専門的学習成果②③④に関連)										
	(3)	子どもや保護者、及び地域社会における造形表現的活動の意義を理解し、保育者としての役割を果たすことができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	幼児期の造形表現活動は、体全体が感覚器官であり、造形表現活動は、乳幼児の感覚や感性を養う上で、発達や成長に大きく関わる。本授業では、基本的な画材・用具の使用法を習得し、自然素材も取り入れ、将来の保育者にとって、生きる力を育む造形あそびを学ぶ場となるよう、製作活動を展開していく。主に平面造形を取り上げ、絵画表現の基本的な活動を行い、乳幼児期の表現の特質を理解し援助できるよう、保育技術や、活動の留意点を学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	40	毎時、技法や活動に関するまとめのレポートを課す。また、各自考案した活動、作品活用、展示法も評価する。								
		作品製作・発表	40	製作技法の習得。それに伴う材料準備、製作手順の理解、活動時の試行錯誤の様子、留意点へ配慮、発表と内容、作品管理・持ち帰り、後片付けまで評価する。								
	平常点	20	製作活動や発表への取り組み、意欲・態度を評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果1,2,3については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	横英子	『保育をひらく造形表現』						萌文書林				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	文部科学省	『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』						フレーベル館				
	厚生労働省	『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』						フレーベル館				
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』						フレーベル館				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①準備物、学習履修上の留意点は、事前学習、準備物等は、その都度指示。受講後は、毎時、活動ごとにまとめのプリントを課す(時間外学習約15時間)。各自、乳幼児あるいは福祉施設利用者を対象とした中心活動を考え教材研究に繋げる。教科書、スケッチブック、画材セットは毎回持参。エプロン(または汚れても良い服装)着用。おしぼり準備。長い髪はまとめる。教材費一人500円(半期分)集金。画材、教科書等は、番号・氏名を記入のこと。 ②まとめのプリントを基に、翌週、グループ内にて、アイデアや工夫点などを発表、共有し、学び合いを行う。また、製作中や発表時に、助言やコメントをする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 幼児と造形(平面造形)について	ワークシートへの取り組み。
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要について説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。オリエンテーションの説明を踏まえて、学習目標を立てる。	
2回	授業内容	画材、用具について(フィンガーペインティング(指絵)、ちぎり絵から考える)	製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	学習成果	基本的な画材・用具の扱い方について、実際に絵画製作をしながら体験的に学び製作することができる。	
3回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考案する。	製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	授業内容	子どもと造形あそび①絵画技法1(デカルコマニー、ドリッピング、にじみ、マープリング他)	
4回	学習成果	造形あそびを通して、実際にいくつかの技法を体験的に学び製作することができる。	製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考案する。	
5回	授業内容	子どもと造形あそび②絵画技法2(フロッタージュ、スパックリング、コラーージュ他)	製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	学習成果	造形あそびを通して、実際にいくつかの技法を体験的に学び製作することができる。	
6回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考案する。	製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	授業内容	子どもと造形あそび③絵画技法3(パチック(はじき絵)、スクラッチ(ひっかき絵)他)、 造形あそびを通して、実際にいくつかの技法を体験的に学び製作することができる。	
7回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考案する。	製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	授業内容	版画①(消しゴムスタンプづくり、スタンプング(各種素材、野菜など)) 簡単な版画を通して、実際にいくつかの技法を体験的に学び製作することができる。	
8回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考案する。	製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	授業内容	版画②(型あそび、ステンシル(型紙版))	
	学習成果	簡単な版画を通して、実際にいくつかの技法を体験的に学ぶ。	
9回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考案する。	製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	授業内容	版画③(紙版画、ローラー遊び)	
	学習成果	簡単な版画を通して、実際にいくつかの技法を体験的に学び製作することができる。	
10回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考案する。	製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	授業内容	絵画技法(応用)(切絵、スタンドグラス、かけ絵他)	
	学習成果	光や影を活用した絵画製作を考え、実際にいくつかの技法を体験的に学び製作することができる。	
11回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考案する。	共同製作(グループ活動)への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	授業内容	壁面構成①(造形活動と環境構成(保育室デザイン)) 将来の職場となる保育室や施設の壁面(掲示板)などを想定し、造形活動を通じた環境構成を考え製作することができる。	
12回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、空間造形や、装飾的な活動への関心を持ち、他の事例や参考作品などの資料収集ができる。	共同製作(グループ活動)への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	授業内容	壁面構成②(個人製作から共同製作へ、レイアウトを考える) 個人製作から、共同製作への展開を考え、その為の具体的な方法を体験的に理解し製作することができる。	
13回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実際に行われている共同製作の作品に対し関心を持ち、鑑賞を通して学びを深めることができる。	共同製作(グループ活動)への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	授業内容	壁面構成③(技法活用と応用表現)	
	学習成果	習得した技法を基に、活用法を考え応用し、表現活動の幅を広げ製作することができる。	
14回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各技法を駆使し、応用した表現活動を考案することができる。	共同製作(グループ活動)への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。
	授業内容	壁面構成④(伝えたいこと、表したいこと、主題と題材について)	
	学習成果	主題と題材について考え、担任として関わりを想定し、テーマ性を重視した共同製作への試みを行うことができる。	
15回	予習復習の内容	乳幼児の造形あそびから、テーマ性を意識した共同製作まで、造形活動の展開を考える。	振り返りシートへの取り組み。 全体総括。
	授業内容	まとめ(作品発表、活動振り返り、総括)	
	学習成果	授業内容の総括を行い、造形表現活動の意義を考え発表することができる。	
予習復習の内容	学習内容を総括し、造形表現への理解を深め、保育現場における領域表現(造形表現)の展開を考察する。		

科目名	子どもと運動あそび				担当者	金野麻衣						
区分	選択必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。オフィスアワーは授業内で連絡する。										
専門的 学習成果	①	乳幼児の運動発達や健康をとりまく現状をふまえ、運動遊びの意味や意義、内容を理解する。										
	②	身体を動かすことの楽しさや面白さをはじめ、達成感や自己肯定感、社会性の発達について体験を通して理解を深める。										
	③	発達段階をふまえ、遊具・用具等を活用し創意工夫しながら取り組むことができる。										
	④	指導・援助する際の配慮や準備の重要性を理解するとともに課題を見出し考察することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	乳幼児の運動発達や健康に関連する専門的知識および現状を理解し、子ども理解するために他者と協働しながら積極的な行動ができる。(専門的学習成果①②)										
	(2)	運動遊びにおける発達や育ちを理解し、教材研究および指導法、援助、環境構成について体験を通して学び続けることができる。(専門的学習成果②③④)										
授業概要		乳幼児の発育発達と基本的生活習慣、運動発達における現状を理解し、運動遊びを通して思考力や想像力を養い、友達と協力することや環境への関わり方などを体得していく。生活や行事、遊びを通した総合的な保育内容の考案と指導方法についてカリキュラムデザインを踏まえて実践的に学ぶことをねらいとしている。また、授業での経験から、創造的な遊びを子どもと共に楽しみ活動を発展させていくことのできる保育実践力、客観的に捉える力を養う。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		実技試験	30	試験を2回実施し、評価を行う。								
		課題	40	記録および課題の内容、提出、体裁、文脈、独創性、態度、意欲で評価を行う。								
汎用的 学習成果	平常点	30	授業への参加態度、関心、意欲を評価する。									
汎用的 学習成果		汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により行う。 (1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	柴田卓・石森真由子		『楽しく学ぶ運動遊びのすすめ』						株式会社みらい			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	文部科学省		『幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説』									
	厚生労働省		『保育所保育指針・保育所保育指針解説書』									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』									
	文部科学省		『幼児期運動指針』									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①この科目では時間外学習(各回60分程度)として、<事前学習>授業内理解のため、テキストあるいは指示した資料を読んでくること。また体調管理に努め、ストレッチなどしておくことが望ましい。<事後学習>授業ごとの記録をまとめ、授業内で示された課題に取り組むこと。提出期限が指定されているものについては、厳守すること。 テキストとともに、授業終了後に掃除を行うため雑巾を準備し毎回持参する。動きやすい服装(フード付き、袖や裾の長いものは不可)と指定されている靴で出席のこと。アクセサリ類の着用も不可。また、髪型や爪にも十分気をつけること。水遊び・プール遊びの授業時には、濡れても良いジャージに加え、水着、帽子、ゴーグルなどの水泳用品の準備が必要。各自で廃材やテープなどの材料を準備することもある。 ②記録に対するフィードバックは授業内で行うため、自主的に学びを発展させるようにすること。実技試験に対するフィードバックは実施後に示す。体験を通した理解や気づきを重視するため、積極的な取り組みを期待する。										

		授業計画						学習成果の評価				
1回	授業内容	乳幼児の運動および発達の現状の理解、遊具を活用する遊び①ハルーン等										
	学習成果	子どもの体力や運動の現状について知る。										
	予習復習の内容	幼児期運動指針を読んでくる。										
2回	授業内容	コーディネーショントレーニングの活用										
	学習成果	自身の身体の使いこなし方の現状や運動で培われるポイントを知る。										
	予習復習の内容	前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。										
3回	授業内容	体操、表現遊び①乳幼児の体操やダンスの理解										
	学習成果	乳幼児における体操・ダンスの特徴、資料の読み取り方を知る。										
	予習復習の内容	前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。										
4回	授業内容	遊具を活用する遊び②身近にあるもの										
	学習成果	身近にあるものをその活用法を知り、遊びの捉え方を広げる。										
	予習復習の内容	前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。										
5回	授業内容	遊具を活用する遊び③ゲーム・競争の理解										
	学習成果	ゲームや競争を含む遊びのポイントを知る。										
	予習復習の内容	前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。										
6回	授業内容	遊具を活用する遊び④新聞紙等										
	学習成果	保育現場で活用されやすい素材を活かした遊びの工夫や他科目との連携を知る。										
	予習復習の内容	前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。										
7回	授業内容	遊具を活用する遊び⑤施設の活用										
	学習成果	施設の活用を通した動線や遊びの工夫、安全教育への理解を深める。										
	予習復習の内容	前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。										
8回	授業内容	遊具を使わない遊び										
	学習成果	コーディネーショントレーニングの活用も含めた活動を知る。										
	予習復習の内容	前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。										
9回	授業内容	体操、表現遊び②表現および指導法の理解										
	学習成果	保育者としての表現法や指導法について理解し、実践する。										
	予習復習の内容	前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。										
10回	授業内容	遊具を活用する遊び⑥ボール等										
	学習成果	動きを伴う遊びの展開や工夫について知り、遊具の特性に気づく。										
	予習復習の内容	前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。										
11回	授業内容	遊具を活用する遊び⑦フープ等										
	学習成果	遊具の活用法や工夫について知り、遊具の特性に気づく。										
	予習復習の内容	前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。										
12回	授業内容	遊具を活用する遊び⑧大型遊具等										
	学習成果	大型遊具の特性と遊びとして活用する際の学びの理解を知る。										
	予習復習の内容	前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。										
13回	授業内容	遊具を活用する遊び⑨手作り遊具等										
	学習成果	保育計画および指導案、教材準備、安全への配慮について理解する。										
	予習復習の内容	指示されたテーマについてグループワークに取り組む。										
14回	授業内容	水遊び・プール遊び										
	学習成果	保育実践を通した教材研究および指導法、安全への配慮を理解する。										
	予習復習の内容	グループワークとして模擬保育に取り組み、学びをまとめる。										
15回	授業内容	水遊び・プール遊び、まとめ										
	学習成果	保育実践を通した教材研究および指導法、安全への配慮を理解する。										
	予習復習の内容	模擬保育およびこれまでの実践を通した学びをまとめる。										

科目名	教育方法				担当者	柴田千賀子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問や要望等については、授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	これからの社会を担う子どもに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、活用に関する基礎的な知識・技能を身につけて、実践に活用できる。										
	②	情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成方法について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	幅広く教養を身につけ保育者及び社会人として、地域社会で活用することができる。										
	(2)	自己の課題を客観的に見出し、解決に向け学び続けることができる。										
授業概要	これからの社会を担う子どもにとって必要とされる資質及び能力について理解する。そして、それらを育成する上で必要となる教育の方法や教育の技術について学ぶ。また、情報機器や教材を活用した効果的な授業の仕組みを理解するとともに、それらを活用した指導方法を理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	これまでの修学内容に基づいて記述式問題（持ち込み不可）を実施し、評価する。								
		レポート	20	授業内容に関わるレポート（A4用紙2枚程度）を課す。体裁・内容・根拠を評価する。								
汎用的 学習成果	保育者に必要とされる教育的基礎教養（思想、歴史、法令、制度、実践論等）を身につけて、自らの実践を理論的に構想・評価・表現する能力を養う。（専門的学習成果①②に関連） 保育者として家庭・地域と連携を取りながら、子どもの最善の利益に資する取り組みをコーディネートすることができる。（専門的学習成果①に関連）											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	佐藤哲也編著		『子どもの心によりそう保育者論 改訂版』						福村出版			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前にテキストや参考資料を読みポイントを把握した上で授業に臨み、講義内容の理解に備えておく。また、筆記試験の準備を行い、理解の定着に努めること。②レポートは授業で返却し解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	教育の方法論的視点	筆記試験（10回分の内容を問う）。第15回授業終了後、試験期間中に実施する。
	学習成果	教育という営みを方法化していくための視点について説明できる。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
2回	授業内容	幼児教育・保育における教育の方法論	
	学習成果	遊びや生活を通じて総合的に指導する保育方法論について説明できる。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
3回	授業内容	子どもの学びとは	
	学習成果	子どもが学びについて、認知論や学習論の視点から説明できる。	
予習復習の内容	参考資料を熟読しておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
4回	授業内容	教育方法の基本的視座① 保育をデザインする視点と方法	
	学習成果	幼児の生活と遊びを方法化するための理論について説明できる。	
予習復習の内容	参考文献の該当箇所を熟読しておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
5回	授業内容	教育方法の基本的視座② 授業をデザインする視点と方法	
	学習成果	小学校以降の学習課程を授業として構成していく理論について説明できる。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
6回	授業内容	教育方法の基本的視座③ 遊びと学習評価の視点と方法	
	学習成果	保育・教育評価について説明することができる。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
7回	授業内容	保育方法論の展開① 教育環境の整備	
	学習成果	保育において環境を通じて教育する理論と方法について説明できる。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
8回	授業内容	保育方法論の展開② 教材・教具を考える	
	学習成果	保育における教材・教具の 카테고리や教育的価値、幼児への提供方法を説明できる。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
9回	授業内容	保育方法論の展開③ 教師の声掛け、発話、雰囲気作り	
	学習成果	人的環境としての保育者の影響力（意図的・無意図的教育）について説明できる。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
10回	授業内容	保育方法論の展開④ 子どもの主体性を育む学びの場作り	
	学習成果	子どもの自主性・主体性を引き出す保育者の援助方法について説明できる。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
11回	授業内容	保育方法論の展開⑤ 子どもの対話的な学び	
	学習成果	「対話的で深い学び」について、その理論と実践方法について説明できる。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
12回	授業内容	保育方法論の展開⑥ 情報通信技術を活用した保育・授業展開	
	学習成果	コンピューター、タブレット、スマホ等を利用した教材作成等について実践できる。	
予習復習の内容	参考資料を読んでおくこと。日頃から情報機器に親しみ生活や学習が効率化するように努める。		
13回	授業内容	保育指導案の理解① 目標・内容、教材・教具、保育展開	
	学習成果	保育指導案を作成することができる。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
14回	授業内容	子育て支援の方法	
	学習成果	子育て支援の現状や今後の課題について説明できる。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		
15回	授業内容	保育・教育方法論の今日的課題	
	学習成果	21世紀型保育の方向性と課題について説明できる。	
予習復習の内容	教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。		

科目名	教育実習事前事後指導Ⅰ				担当者	宮 本 美和子 ・ 小森谷 一 朗						
区 分	必修	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。オフィスアワーは授業内で連絡する。											
専門的 学習成果	①	教育実習の意義・目的・内容を理解し、取り組むことができる。										
	②	教育実習生として遵守すべき義務や責任を理解し、子どもの遊びと心身の発達について理解を深め、幼稚園・認定こども園の教育活動に意欲的に参加することができる。										
	③	自らの実習で得られた知識と経験を振り返り、学習の新たな目標・課題を明確にできる。										
汎用的 学習成果	(1)	乳幼児に関する専門的知識と基礎的な技能を身につけ、実践につなげながら自身の課題を見つけることができる。(専門的学習成果①③)										
	(2)	保育者として自覚し、豊かな感性や想像力、表現力をもって、子どもの理解や支援を意欲的に取り組むことができる。(専門的学習成果②③)										
授業概要	教育実習の意義・目的および実習生として遵守すべき心構えや態度を学ぶ機会とする。実習に臨むための事前の準備をはじめ幼児理解や観察の視点と方法、記録、教材研究、指導計画の作成等を学ぶ。また、全体、グループあるいは個別指導を基に事前・事後指導を実施し、保育者としての自覚や意識を高め、専門的知識の理解と子ども理解を深める。実習後の反省と総括、そして1・2年生が合同で実施する実習報告会から、今後に向けての自己の課題や展望を持てるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	観察実習協力園に向けたレポートの内容、提出状況、体裁、文脈で評価を行う。								
		課題	40	各種提出物の内容、提出状況課題、体裁、文脈、独創性で評価を行う。								
	平常点	50	実習園からの評価および授業、グループワークへの態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により行う。 (1) は専門的学習成果①③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	聖和学園短期大学保育 学科	『教育・保育実習ガイドブック』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	文部科学省	『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』						フレーベル館				
	厚生労働省	『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』						フレーベル館				
	内閣府・文部科学省・ 厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』						フレーベル館				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①この科目では時間外学習（15時間）として、＜事前学習＞幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、理解を深めること。＜事後学習＞実習に必要な教材準備・研究、指導案の作成、学習成果と課題の整理、提出、まとめを行うこと。 ②実習園からの評価については全体およびグループ、個別指導にてフィードバックを実施。提出課題については確認もしくは添削後、全体もしくはグループ、個別指導等にて随時フィードバックを実施。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	教育実習の意義と目的、流れの確認	
	学習成果	幼児教育の現状と、幼稚園、認定こども園等について説明できる。	
2回	予習復習の内容	実習ガイドブックを読み、実習園の違いと実習の流れについて説明できる。	
	授業内容	実習生として遵守すべき義務や責任の自覚について	
3回	学習成果	保育者になるにあたっての準備物や意識を高め、説明できる。	
	予習復習の内容	実習希望先について調べ、第3希望までまとめる。	
4回	授業内容	幼稚園・認定こども園の役割と子どもの生活、観察実習の心得と留意事項	
	学習成果	実習に向けた事前準備の確認と守秘義務について説明できる。	
5回	予習復習の内容	ガイドブックを読み込み、個別に必要なものを準備する。	
	授業内容	幼稚園における保育および子どもの発達についての観察および記録について	
6回	学習成果	観察のポイントや子ども理解に向けた方法や記録について説明できる。	
	予習復習の内容	ガイドブックを読み込み、記録の仕方や観察について理解する。	
7回	授業内容	子ども理解と援助についての協同学習	
	学習成果	グループでの実習に取り組み、報告できる。	
8回	予習復習の内容	観察実習に向けた実習課題について考える。	
	授業内容	実習記録の書き方の留意点	
9回	学習成果	全体もしくはグループで実習での学びや反省の記録方法を説明できる。	
	予習復習の内容	実習時のメモを再度確認し、自分の言葉で伝えられるようにまとめる。	
10回	授業内容	幼稚園における指導計画の内容と理解	
	学習成果	グループもしくは個別で指導計画について理解しまとめることができる。	
11回	予習復習の内容	実習時のメモ等を再度確認し、自分の言葉で伝えられるようにまとめる。	
	授業内容	保育目標の達成にむいた保育の構想	
12回	学習成果	実習報告会を通して、保育目標等と自身の課題について報告できる。	
	予習復習の内容	実習報告書を読み込み、準備を進める。	
13回	授業内容	構想を展開するための教材研究	
	学習成果	実習に向けた事前準備と守秘義務、役割分担について報告できる。	
14回	予習復習の内容	グループ内の役割分担を決め、報告する。	
	授業内容	構想を展開するための指導計画	
15回	学習成果	保育計画や指導案を作成できる。	
	予習復習の内容	聖和幼稚園の指導案を読み込み、理解する。	
16回	授業内容	子どもの発達をふまえた考察の観点の理解	
	学習成果	ロールプレイを通して、客観的視野を広め、課題解決方法を発表できる。	
17回	予習復習の内容	教材研究や環境構成について理解を深める。	
	授業内容	保育活動実践	
18回	学習成果	保育実践を通して環境構成や援助について説明できる。	
	予習復習の内容	事前準備の確認および担当部分のロールプレイを実践しておく。	
19回	授業内容	実習活動の共有化の方法にかかわる理解	
	学習成果	全体もしくはグループで実習での学びを共有し、報告できる。	
20回	予習復習の内容	実習時のメモを再度確認し、自分の言葉で伝えられるようにまとめる。	
	授業内容	体験の振り返りと自己の課題の明確化（今後習得に必要な知識・技能の理解）	
21回	学習成果	グループもしくは個別で実習での学びや反省を確認し、今後の課題を報告できる。	
	予習復習の内容	実習時のメモ等を再度確認し、自分の言葉で伝えられるようにまとめる。	
22回	授業内容	実習評価にかかわるフィードバック	
	学習成果	これまでの実習経験を振り返り、課題を見出し、計画できる。	
23回	予習復習の内容	指定された課題について取り組み、提出する。	
	授業内容	教育実習事前事後指導Ⅱに向けて3・4・5歳児の保育内容について調べ、指定された期日までに提出する。保育教材の準備をする。	

科目名	子ども家庭支援論				担当者	小山 里 織 ・ 重 原 達 也						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	現代社会において、何故、社会的に子育て支援・家族支援体制が必要になったのか、その背景を説明できる。										
	②	現代社会において、実際にどのような社会的子育て支援・家族支援が行われているのかを説明できる。										
	③	専門職としての在り方を実践的に学び、現場での子育て支援・家族支援の取り組みについて説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	子育て家庭の変容を理解し、子どもの健やかな成長を支えるためにどんな支援が必要なのかを理解し、専門職としての保育士の役割について説明できる（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	子育て支援の政策動向や、支援を行っている関係機関について学び、専門職として、子ども・家庭の実際に合わせた支援のコーディネートを組み立てることができる（専門的学習効果②に関連）										
	(3)	様々な事例から専門職としてどう向き合うかを学び、支援者としての基本的な技能や実践力を身につけ、実践に取り組むための方法について説明できる（専門的学習成果③に関連）										
授業概要	今、何故「家族援助」なのか、そして「子育て支援」なのか。家庭の機能の変化に伴い、「家族」とは何かを考え、家族の崩壊、地域における子育て支援の希薄化の中で、保育所等の役割について学ぶ。また、子育て支援をめぐる政策動向についても学び、社会的支援の在り方について考察する。具体的な家庭支援の在り方を事例から学び、支援の基礎的な技能を身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	15回授業の内容を基に試験を行う。								
		平常点	20	授業への取り組み状況の評価。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	松本園子 永田陽子 福川須美 堀口美智子		『家庭支援論』				ななみ書房					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		テキストを活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。特に授業内容に関する文献を読み理解を深めておくこと（予習：週2時間程度）事後学習としては、授業の中で取り扱うコメントペーパーに関する内容は、次回講義開始時にコメントへのフィードバックを行う。（復習：週2時間程度）										

		授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	シラバス		各回授業の取り組みと参加について 都度評価を行う。	
	学習成果	本授業の内容を理解し、説明できる。			
	予習復習 の 内 容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。			
	授業内容	子育てと家族・家庭 子どもが育つとは			
2回	学習成果	子育ては大人の一方的な行為ではなく、子どもは自ら「育つ」であり、それが適切に実現されるように援助するのが子育てであることを説明できる。			
	予習復習 の 内 容	子どもが育つということは、どういうことなのか、子育てとは何かについて説明できるようにする。			
3回	授業内容	子育てと家族・家庭 子どもが育つ場としての「家族」「家庭」			
	学習成果	子どもが育つ場としての家族・家庭の意義について考え理解を深め説明できる。			
	予習復習 の 内 容	子どもが育つ場は「社会」であり、社会全体が負うべきものであるということを理解し、家族への社会的支援の必要について言語化できるようにする。			
	授業内容	子育てと家族・家庭 家族・家庭の動向と現状			
4回	学習成果	家族の動向について、近年大きく変化してきた「家族」の在り方、形態について説明できる。			
	予習復習 の 内 容	学習内容を振り返り、理解を深めていく。			
5回	授業内容	子育てをめぐる問題 子育て環境を取り巻く社会環境の変化			
	学習成果	子育てを取り巻く環境が子ども達の育ちや子育てにどのような影響を及ぼすか説明できる。			
	予習復習 の 内 容	都市化や少子化、情報化、消費化、高学歴の進行、また近年の社会的な格差の拡大がどのような影響を及ぼしているのかについて、整理していく。			
	授業内容	子育てをめぐる問題 子育て意識の変化			
6回	学習成果	子育てを取り巻く社会の構造的な変化の中で、どのような子育て意識の変化が起きたのか説明できる。			
	予習復習 の 内 容	女性が育児をしながら働くことに対して大きな変化が見られたことを理解し、整理していく。			
7回	授業内容	子育てをめぐる問題 子育て「困難」のさまざまな			
	学習成果	子どもや子育て家庭に、なぜ社会的な支援が強く求められているのか、これまでの支援の在り方の課題について説明できる。			
	予習復習 の 内 容	子育て家庭が抱える課題について振り返りを行う。			
	授業内容	子育て家庭を支援する具体的な制度			
8回	学習成果	結婚、妊娠、出産、子育てと家庭の状況の変化に伴い、段階に応じてどのような公的支援があるのか、具体的に説明できる。			
	予習復習 の 内 容	身近な子育て家庭に目を向け、実際にどのような支援が利用されているのかを把握し、9回で事例を報告しあう。			
9回	授業内容	子育て家庭支援の政策動向			
	学習成果	子育てを支援する国の責任にういて認識し、これまでの政策の動向を理解し、子ども・子育て支援制度が施行された理由を説明できる。			
	予習復習 の 内 容	子育て支援に関わる法や政策の名称を教科書を読み、確認する。			
	授業内容	子ども・子育て支援新制度			
10回	学習成果	子ども・子育て支援新制度による幼稚園・保育所・こども園等の施設の分類や法的な位置づけについて説明できる。また、標準時間、短時間認定、1号認定、2号認定、3号認定等、現場に出るにあたっての基本的な知識を説明できる。			
	予習復習 の 内 容	子育て支援に関わる法や政策の名称を教科書を読み、確認する。			
11回	授業内容	子育て家庭支援の在り方			
	学習成果	子育て家庭支援の目的を理解し、家族の危機対応力に沿って、どのような支援が必要なのか説明できる。			
	予習復習 の 内 容	事例を通して、危機対応能力について把握し、どのような支援が望ましいのかを全体でも考察しながら理解を深める。			
	授業内容	相談・援助者の役割と基本的態度			
12回	学習成果	相談・援助に臨むあたり大事にすべきことがわかり、基本的な態度や姿勢について説明できる。			
	予習復習 の 内 容	相談・援助に臨むにあたり大事にすべきことについて理解を深める。			
13回	授業内容	育児モデルとなる伝承の育児法 援助の実際			
	学習成果	あやし唄、わらべ歌を覚え、いくつかできるようになる。またどのような場所で育児の伝承に向け、どのような取り組みがなされているのか報告できる。			
	予習復習 の 内 容	後半に子どもの発達に添ったわらべ歌を実践してみる。			
	授業内容	特別なニーズを持つ家族と援助			
14回	学習成果	特別なニーズへの対応の考え方を理解する。事例を通し考察し、これまで学んできた支援の仕組みや制度、支援者としての態度や姿勢などを確認しながら、現場に出た時、どのような援助ができるか、考え説明することができる。			
	予習復習 の 内 容	事例についてどのような支援が必要なのかを全体でも考察し理解を深める。			
15回	授業内容	世界の子育て これまでの授業の振り返り			
	学習成果	世界の子育ての状況を知ることにより、わが国の状況を客観的に捉え、課題について考え報告することができる。			
	予習復習 の 内 容	学習内容を振り返る。			

科目名	子ども家庭支援の心理学				担当者	飯 島 典 子 ・ 加 藤 和 子						
区 分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		飯島：授業の前後に質問を受け付ける。 加藤：授業の前後に質問を受け付ける。										
専門的 学習成果	①	乳幼児期から老年期を通じた生涯発達に関する知識と発達課題を理解し、説明することができる。										
	②	家族機能、親となること、親子関係の発達の意味を理解するとともに、現代的課題の視点をもつことができる。										
	③	家族における現代的課題を解決する支援について理解し、説明することができる。										
	④	家族の良好な構築を目指す支援のあり方を考察することができる。										
	⑤	子どもの精神保健に関する知識とその課題について理解し、説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会に対する問題意識を形成する。(専門的学習成果②③に関連)										
	(2)	現代社会の問題を解決するための知識と技能を獲得する。(専門的学習成果①②⑤に関連)										
	(3)	子育て家庭の課題からより良い未来を構築しようとする態度を身につける。(専門的学習成果①④に関連)										
授業概要	本講義では、生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、発達課題等について理解する。また、家族機能、親となること、親子関係の発達の意味を理解するとともに、家族における現代的課題を解決する支援について理解する。子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解し、子どもの精神保健とその課題について理解することを目的とする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	30	子どもの精神保健に関する理解について「学習成果の評価」に示す内容の60%以上の得点を合格点とする								
		レポート										
		筆記試験	70	家族支援のニーズと支援のあり方に関する理解を確認するために学期の途中で筆記試験を行い評価する。								
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果②③により評価を行う (2) は専門的学習成果①②⑤により評価を行う (3) は専門的学習成果①④により評価を行う										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	本郷一夫・神谷哲司	『シードブック 子ども家庭支援の心理学』				建帛社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①保育士資格取得に必修。テキストを使用して授業を進めるためテキストの予習・復習を行い、分らない用語などは各自で調べる(予習：週2時間程度)。また、社会福祉、児童福祉、保育の心理学などの教科との関連が高いことから、他教科テキストの確認を行うこと、および新聞を読み社会に関する知識を得ることを時間外学習とする(復習：週2時間程度)。 ②筆記試験については解説によるフィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	生涯発達①乳児期から学童期の発達(飯島)	生涯発達の理解確認シートへの記入。 第3回目を実施。
	学習成果	生涯発達の観点をもとに乳児期から学童期の発達課題と初期経験の重要性を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの熟考と整理	
2回	授業内容	生涯発達②思春期から青年期の発達(飯島)	
	学習成果	生涯発達の観点をもとに思春期から青年期の発達課題を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの熟考と整理	
3回	授業内容	生涯発達③成人期から老年期の発達(飯島)	
	学習成果	生涯発達の観点をもとに成人期から老年期の発達課題を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの熟考と整理	
4回	授業内容	家族機能と家族発達(飯島)	社会問題に対する保育者の社会的役割に関するコメントシートへの記入。 第6回目を実施。
	学習成果	家族の構造と機能、家族の発達および家族支援の原理に関する知識を身につける。	
	予習復習の内容	新聞などを通じて社会問題について考える。	
5回	授業内容	子育ての世代間伝達と親発達(飯島)	
	学習成果	ライフサイクルの観点から親になる課題を考えることができる。	
	予習復習の内容	新聞などを通じて社会問題について考える。	
6回	授業内容	ライフコースとワーク・ライフ・バランス(飯島)	
	学習成果	子育ての社会状況的变化について考えることができる。	
	予習復習の内容	新聞などを通じて社会問題について考える。	
7回	授業内容	多様な子育て家庭への支援(飯島)	筆記試験 支援ニーズと支援のあり方について確認する筆記試験を行う。 第10回目を実施。
	学習成果	支援ニーズと支援の在り方について理解している。	
	予習復習の内容	児童福祉、社会的養護、社会福祉に関する復習を事前にし関連づけ理解を深める。	
8回	授業内容	特別な配慮を必要とする家庭への支援(飯島)	
	学習成果	多様な保育サービスの在り方について理解している。	
	予習復習の内容	児童福祉、社会的養護、社会福祉に関する復習を事前にし関連づけ理解を深める。	
9回	授業内容	障害をもつ子どもの家族支援(飯島)	
	学習成果	障害をもつ子どもの親、家族が抱える課題と支援ニーズについて理解している。	
	予習復習の内容	発達障害の特徴について整理し、内容を関連づけて理解を深める。	
10回	授業内容	災害と子ども(飯島)	
	学習成果	災害時の子どもの精神的健康とその支援について理解する。	
	予習復習の内容	テキストの熟考と整理	
11回	授業内容	子どもの発達と精神保健(加藤)	定期試験：記述式 5回の授業内容理解を筆記試験で評価する。
	学習成果	ライフサイクルにおける乳幼児期の精神保健の重要性について理解している。	
	予習復習の内容	子どもの精神発達に関する理論について整理し、内容を関連づけて理解を深める。	
12回	授業内容	子どもの精神保健と環境の影響(加藤)	
	学習成果	子どもの心の発達における生活・生育環境の重要性を理解している。	
	予習復習の内容	子どもを取り巻く現代社会の特徴について整理し、内容を関連づけて理解する。	
13回	授業内容	発達障害(加藤)	
	学習成果	発達障害における体験世界について理解し、支援について理解している。	
	予習復習の内容	発達障害における不安・緊張・言葉のおくれ・高い感覚性、衝動性について理解を深める。	
14回	授業内容	習癖や不安に関連した障害(加藤)	
	学習成果	精神的なストレスによる様々な障害群と症状、その支援について理解している。	
	予習復習の内容	資料をもとに障害群と症状を整理し、理解する。	
15回	授業内容	児童虐待と精神保健(加藤)	
	学習成果	児童虐待が与える脳や精神保健への影響について理解している。	
	予習復習の内容	児童虐待について整理し、精神発達に与える悪影響について理解を深める。	

科目名	子どもの理解と援助				担当者	山 本 信 (実務家教員)						
	区分	必修	1	単位		授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、または email:yamamoto.makoto@seiwa.ac.jp への連絡 (学籍番号・氏名記載必須) とする。											
専門的 学習成果	①	子どもの生活・遊び、環境との関連から子どもを理解することの意義を説明できる。										
	②	発達および学びのアセスメントに関する原理を理解し、保育者の役割や基本的な態度について述べるができる。										
	③	アセスメント結果から、子どもの課題の背景を捉え、仮説を立てることができる。										
	④	子ども自身、クラス集団、環境、保育体制など多様な支援のあり方について理解し、具体的な支援の方法を挙げるができる。										
	⑤	子ども理解に基づいた保育目標、全体的な計画を立案する視点を身に付け、子どもの姿に合わせた計画の立案について討議できる。										
汎用的 学習成果	(1)	子ども理解に必要な専門的知識・技能について理解し、他者と協働しながら子どもの理解・支援について深く考え、表現することができる。(専門的学習成果①④⑤)										
	(2)	子どもの育ちを支える者としての保育者の役割を理解し、幅広い教養とともに、現代社会に生きる子どもの課題や、自らの力を地域社会の中で活用する方法について考え、討議することができる。(専門的学習成果②③⑤)										
授業概要	子どもの生活および遊びを通じた学びの課程において支援を必要としている子どもの特徴と、その背景を理解するためのアセスメントについて学ぶ。また、これらを踏まえ、子どもの姿を想像しながら、子ども自身およびクラス集団への支援、環境と保育体制を通じた支援、保護者支援など、複数の観点から子どもの特徴に応じた総合的な支援のあり方について学ぶ。そして、子ども理解に基づいた保育目標、支援計画についてグループワークを通じて考察し、理解を深めていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	30	小テスト (3回) : 正答率に応じて評価を行う (各10点)								
		ワーク課題	50	各授業での演習・ワーク課題 (14回) : 授業内容を踏まえ、テーマに沿ったワークシートの評価を行う								
汎用的 学習成果	グループ ワーク	20	グループワーク (3回) : テーマに基づいた発言や議論の参加姿勢や発言内容の評価を行う。									
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・④・⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②・③・⑤にて評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	飯島典子・本郷一夫 編著	『シードブック 子どもの理解と援助』					建帛社					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	文部科学省	『幼稚園教育要領』(解説書含む)										
	厚生労働省	『保育所保育指針』(解説書含む)										
	内閣府・文部科学省・ 厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(解説書含む)										
	本郷一夫・飯島典子 編著	『シードブック 保育の心理学』					建帛社					
	本郷一夫編著	『「気になる」子どもの社会的発達と支援：チェックリストを活用した保育の支援計画の立案』					北大路書房					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>①授業は、テキスト・参考資料・配付資料を中心に進める。また、授業計画に従い、時間外学修を必ず行うこと。</p> <p>＜事前学修 (週30分程度)＞：テキスト・参考文献を読み、専門用語の理解をはじめ、各回の学修内容について予習を行うこと。また、自身の実習等の経験や学修内容と関連付けながら深く考える機会を多く持つこと。</p> <p>＜事後学修 (週30分程度)＞：毎回の授業の内容について復習を行い、理解を深めること。また、新聞・ニュース等で得られた情報と学修内容を結びつけながら、自分の考えを言葉や文字で表現できるようにし、レポートの作成等につなげること。</p> <p>②フィードバックの方法については、以下の通りとする。</p> <p>＜小テスト＞テストの実施後に解答・解説を行う。</p> <p>＜ワーク課題＞提出後2週間以内を目安に、評価のポイントを含めたコメントとともに返却する。</p> <p>＜グループワーク＞グループワークへの参加姿勢や発表内容について、次回の授業において評価のポイントを含め、フィードバックを行う。</p>											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保育における子ども理解の意義	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	保育現場において「子どもを理解すること」について、その意義や専門性も含めて、具体的な言葉で説明することができる。	
2回	予習復習の内容	指針・要領を読み「保育・教育」とは何かについて理解しておくこと。これまでの子どものかかわりの中で、「子どもを理解すること」の意義と具体的な保育者の役割について自分の言葉で説明できるようにしておくこと。	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	授業内容	子どもの発達を理解する方法	
3回	学習成果	発達検査・知能検査の種類と読み取れる情報について理解し、検査の結果と日常における子どもの様子との関連について説明することができる。	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	予習復習の内容	発達検査・知能検査は、何のために行うのか、自分の考えをまとめておくこと。発達検査・知能検査には具体的にどのようなものがあるか、自分で調べたものをリストアップしておくこと。	
4回	授業内容	子ども理解を深める保育記録および省察と評価	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	保育記録の種類や方法について理解し、記録を活用することの意義について、保育の計画・省察と連携・改善の一連の流れを結びつけて説明することができる。実習日誌など、自身の記録を見直し・改善点を挙げるができる。	
5回	予習復習の内容	自身の実習日誌を読み、気づいたことや実習中に指されたことをまとめておくこと。	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	授業内容	環境を通じた遊びと学び	
6回	学習成果	遊びの複数の側面を理解し、遊びが主体的であるために必要な環境や保育者の姿勢について他者と議論し、自分言葉で具体的なイメージや事例とともに述べるができる。	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	予習復習の内容	「主体的・主体的」とは何か、自分の言葉で説明できるようまとめておくこと。「子どもが主体的に遊んでいる場面」を、具体的な場面や状況とともに挙げられるようにしておくこと。	
7回	授業内容	運動と身体感覚	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	手指の動作を中心に、協調運動の発達を認知・記憶や感覚と関連付けて説明することができる。日常の生活や遊びの中の「不器用さ」を捉え、保育の工夫や多様な保育内容の展開について他者と議論することができる。	
8回	予習復習の内容	実習における子どもの姿や、自身の経験の中で「不器用さ」を感じたことのある場面をリストアップしておくこと。「不器用さ」への支援はどのようにされるべきか、自分の考えをまとめておくこと。	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	授業内容	言葉と文字	
9回	学習成果	子どもの言語獲得について、認知発達との関連について理解を深め、子どものつまずきや保育の工夫を踏まえた言葉の発達の具体的な援助方法を考え、表現することができる。	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	予習復習の内容	「保育の心理学」は「言語の発達」を復習しておくこと。言葉の各発達段階において、言葉の発達を支える(他の発達領域も含めた)要因についてまとめておくこと。	
10回	授業内容	数と数量感覚	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	数概念の理解の発達を理解し、子どもが日常経験を通じて数・数量感覚を身につけるための環境構成や保育の工夫・援助について、具体例を示しながら説明することができる。	
11回	予習復習の内容	幼児期の数概念の発達について「幼児と環境」の授業内容を振り返りしておくこと。数概念の発達を促す遊びや活動について調べ、まとめておくこと。	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	授業内容	個性の育ち	
12回	学習成果	子どもへの気質、意欲、自己制御に関する発達の理解を深め、主体的な成長の過程とともに、つまずき経験の重要性も踏まえて、子ども一人一人の個性が他かに育つための援助について説明することができる。	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	予習復習の内容	「個性」「気質」「性格」についての違いを理解するために、それぞれの言葉の定義について調べておくこと。その上で、「個性が豊かに育つ」とはどのようなことなのか、自分なりに説明できるようにしておくこと。	
13回	授業内容	仲間関係とクラス集団の育ち	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	子どもとの肯定的な仲間関係の構築や、楽しみの共有、また、いざごの生じる理由について理解し、仲間との遊びを援助する際の工夫について、理論的に説明することができる。	
14回	予習復習の内容	自分の幼少期に行った、印象に残っている集団での遊びと、その遊びの何が楽しかったかについて書き出しておくこと。また、友達との「楽しみの共有」や「いざご」についても、自身の経験から説明できるようにしておくこと。	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	授業内容	事例検討①：多角的な視点によるアセスメントと支援	
15回	学習成果	一つの事例を、様々な発達領域の視点から多角的かつ理論的に捉え、子どもを理解するための視点・方法や具体的な保育・支援について、他者と議論することができる。	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	予習復習の内容	実習等において、自身が出会った「気になる」子について、子どもの姿や、自身の関わりとその意図について、他者に説明できるようにしておくこと。	
16回	授業内容	特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	「気になる」子どもの背景を捉え、観察やチェックリストを使った「子どもを理解する方法」について理解を深め、複数の方法を用いることの重要性について、自分の言葉で説明することができる。	
17回	予習復習の内容	「特別な配慮を必要とする子ども」への具体的な支援・援助方法について、自分の考えをまとめたとともに、書籍やインターネットを用いて、調べておくこと。	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	授業内容	事例検討②：社会的発達チェックリストを用いたアセスメントと支援	
18回	学習成果	具体的な事例において、「社会的発達チェックリスト」と「子どもの日常の姿」を照らし合わせながら、両者を結びつけ、「気になる」行動の背景について、自分なりの解釈を説明し、他者と議論することができる。	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	予習復習の内容	実習等において、「気になる」子どもに対して、自身が行った、または、保育者が行った具体的な関わりや支援を挙げ、その関わり・支援の意図を、自分なりの解釈をまとめておくこと。	
19回	授業内容	家庭との連携を通じた小友の理解と援助	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	家庭との連携について、具体的な連携の方法をふまえて、子どもの発達を援助していくプロセスについて説明することができる。さらに、多様な家庭環境についても理解を深めた上で、他者と議論することができる。	
20回	予習復習の内容	「子どもの家庭支援の心理学」「子育て支援」「子ども家庭支援論」の学習内容を理解した上で授業に望むこと。また、近年の子育て環境について、報道や書籍等を通して理解を深めておくこと。	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	授業内容	保育者間の連携を通じた発達援助	
21回	学習成果	園内研修会や保育カンファレンスなど、保育者同士の連携による発達援助の実践について、事例を通して具体的に説明することができる。	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	予習復習の内容	実習等において、保育者同士が行っていた「連携」について振り返りしておくこと。また、保育現場で働く上で、今の自分の視点から、有効だと思う「連携」とその理由について書き出しておくこと。	
22回	授業内容	発達と学びの連続性と学修支援	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	就学支援において、子どもを取り巻く多様な関連機関が関わっていることを理解した上で、子ども理解に基づいた協働・発達支援の進め方について説明することができる。	
23回	予習復習の内容	本講義のまとめとして、学修内容の振り返りを行い、子ども理解と発達支援において大切なことをまとめておくこと。	授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	1～15回の学習内容についての理解を踏まえて、	

科目名	保育内容総論				担当者	宮 本 美和子 (実務家教員)						
区 分	必修	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室の訪問及び e-mail (miyamoto.miwako@seiwa.ac.jp)。オフィスアワーは初回授業時に連絡する。											
専門的 学習成果	①	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育・保育の基本を説明できる。										
	②	乳幼児期の発達に即した総合的な指導と保育者の役割を理解し、説明できる。										
	③	保育の計画、実践、評価、改善について理解し、説明できる。										
	④	各領域のねらいと内容を踏まえ、子どもの発達に即した活動のための教材研究ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	指導に関する領域の専門的知識と基礎的な技術を習得し、実践力を養う。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	保育者としての社会的な役割を理解し、子どもの理解と支援ができる。(専門的学習成果①②④)										
授業概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育・保育の基本を理解し、園生活全体を視野に入れて総合的に指導するという考え方を学ぶ。また、実践事例から子どもの理解と援助の基本と応用を学び、保育内容を総合的に捉える視点を身に付ける。子どもの姿とねらい、ねらいと活動の関係を理解し、ねらいに即した保育内容、環境の構成、保育者の援助及び留意点などを検討し、立案をする力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	20	得点を評価する。								
		レポート	30	記述内容を評価する。								
		課題	35	立案した指導案の子どもの姿の想定、環境構成、援助の方法や内容を評価する。								
	平常点	15	授業の参加姿勢、授業の課題への取り組みを評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り専門的な学習成果の評価により評価を行う (1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う (2) は専門的学習成果③④で評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	佐藤哲也編	『子どもの心に寄り添う保育内容総論』					福村出版					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	文部科学省	『幼稚園教育要領解説』										
	厚生労働省	『保育所保育指針解説』										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前学習として、授業前に教科書、配布資料を読み、分からない語句に関しては調べた上で授業に臨む。また、事後学習として授業の学びをミニレポートにまとめる。 ②小テストや提出された課題、質問には、授業内で評価と解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保育内容と保育の基本	・5領域のねらいと保育内容に関する確認の小テストを実施
	学習成果	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園における保育内容と保育の基本を説明できる。	
2回	予習復習の内容	シラバスを読み、授業計画を理解する。	
	授業内容	保育内容の歴史の変遷	
3回	学習成果	保育制度・保育内容の変遷を知り、現在の保育内容へのつながりを説明できる。	
	予習復習の内容	家族の保育所・幼稚園の思い出を調べる。	
4回	授業内容	子どもの発達特性と保育内容	
	学習成果	子どもの発達特性を踏まえた保育内容の基本的な視点を説明できる。	
5回	予習復習の内容	子どもの発達特性を調べる。	
	授業内容	個と集団の発達と保育内容	
6回	学習成果	個と集団の発達を踏まえた保育の展開と基本とその指導について理解する。	
	予習復習の内容	個と集団を大切にすることについて具体例を考えてみる。	
7回	授業内容	保育における観察と記録	
	学習成果	保育における観察と記録の重要性と記入の視点を説明できる。	
8回	予習復習の内容	これまでの実習の記録を見返す。自身の記録の課題を見出す。	
	授業内容	養護と教育が一体的に展開する保育	
9回	学習成果	養護と教育が一体的に展開する保育について理解する。	
	予習復習の内容	事例を読む。養護と教育の関係をまとめる。	
10回	授業内容	保育者の役割と環境構成	
	学習成果	保育者の役割と環境構成の基本を具体的な事例を用いて説明できる。	
11回	予習復習の内容	教師、保育士の役割を調べる。環境構成の具体例を調べる。	
	授業内容	特別な配慮を必要とする子どもの保育	
12回	学習成果	特別な配慮を必要とする子どもの理解と対応の基本を説明できる。	
	予習復習の内容	事例を読み、授業後は各事例の対応方法まとめる。	
13回	授業内容	指導計画 (1) 指導計画作成の意義と役割	
	学習成果	指導計画の意義と役割を理解する。	
14回	予習復習の内容	子どもの姿に即したねらいを設定し、教材研究を行う。	
	授業内容	指導計画 (2) 指導案の作成	
15回	学習成果	具体的な指導場面を想定した指導案を立案することができる。	
	予習復習の内容	導入、展開、まとめの流れと言葉掛けや留意点の検討を行う。	
16回	授業内容	指導計画 (3) 模擬保育	
	学習成果	指導案を基に模擬保育を行い、自身の実践課題を具体的に把握する。	
17回	予習復習の内容	実践前の準備、実践後の反省をまとめる。	
	授業内容	指導計画 (4) 保育の評価と改善の方法、情報機器の活用	
18回	学習成果	保育の振り返りの視点と模擬保育での課題と改善点を説明できる。	
	予習復習の内容	振り返りを基に指導案の修正を行う。	
19回	授業内容	生活や発達の連続性に考慮した保育	
	学習成果	生活や発達の連続性に考慮した保育について説明できる。	
20回	予習復習の内容	子育て環境の変化と課題を調べる。生活や発達の連続性に考慮した保育に必要なことをまとめる。	
	授業内容	多文化共生の保育	
21回	学習成果	保育における多文化の存在、考え方を説明できる。	
	予習復習の内容	多文化に触れる意味を考え、保育者としての対応をまとめる。	
22回	授業内容	家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育	
	学習成果	家庭、地域、小学校の連携の重要性や連携の具体例を説明できる。	
23回	予習復習の内容	連携に必要なことについて考え、まとめる。	

科目名	保育内容指導法「人間関係」				担当者	君 島 智 子						
区 分	必修	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワーで受け付ける。オフィスアワーは初回授業で連絡する。										
専門的 学習成果	①	領域「人間関係」のねらい及び内容と全体構造を説明することができる。										
	②	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、子どもが発達の過程で経験し身につけていく内容と指導上の留意点を説明できる。										
	③	教材研究（情報機器及び教材の活用を含む）や環境の重要性を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけている。										
	④	模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。										
汎用的 学習成果	(1)	領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、乳幼児の人との関わりが発達について保育者の果たす役割を自覚し子どもの理解や支援ができる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、人と関わる力を育む専門的知識と基礎的な技能を習得し、実践につなげることができる。（専門的学習成果③④に関連）										
授業概要	人間は人との関わりなしには存在し得ない。本講義では、領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、子どもの人と関わる力を養うために必要な経験と資質能力を育む指導上の留意点を理解する。また、具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践する方法を身につけ、模擬保育やロールプレイをもとに、保育を改善する視点を身につける。教員の精神保健福祉士としての精神保健センターでの実務経験をもとに具体的理解を深めることができるよう講義を展開する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	85	「学習成果の評価」に示す内容について、60％以上の得点を合格点とする。								
		レポート	10	授業内容の理解についてレポートを課し（3回各1％）、内容を評価する。模擬保育やロールプレイ実施後に記入する振り返りシートの内容を評価する（7回各1％）。								
		他	5	模擬保育、ロールプレイ、グループワークへの取り組みを評価する（5回各1％）。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価で評価する。 (1) は専門的学習成果①②で評価する。 (2) は専門的学習成果③④で評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	無藤隆監修	『領域 人間関係』				萌文書林						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	文部科学省	『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）										
	厚生労働省	『保育所保育指針』（平成29年3月告示）										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）										
		（解説書、関連図書含む）										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①日常生活の中で子どもを取り巻く環境や人間関係の育ちについて、また自分の人間関係について意識し、考えること。特に授業内容に関連する部分については、テキスト該当部分の読了に加え事前に関係する文献を読み、理解を深めておくこと（予習：週2時間程度）。 ②毎回授業終了後にミニツレポートの提出を促し、次の授業でフィードバックを行うことから、テキストをもとに授業時間外学習を行って授業に臨むこと（復習：週2時間程度）。											

授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	「幼児期の終わりにまでに育ってほしい姿」と領域「人間関係」
	学習成果	「幼児期の終わりにまでに育ってほしい姿」と領域「人間関係」のねらいや内容について理解し、つながりと意味について説明できる。
	予習復習の内容	「幼児期の終わりにまでに育ってほしい姿」を理解する。領域「人間関係」ねらい、内容について説明できるようにしておく。
2回	授業内容	幼児教育の構造を踏まえた領域「人間関係」の保育構想
	学習成果	幼児教育の目的と領域を理解し、他領域の関連性を踏まえて領域「人間関係」の特質と保育構想について説明できる。
	予習復習の内容	幼児教育の目的と5領域の関連、領域「人間関係」の特質について説明できるようにしておく。
3回	授業内容	事例検討①人間関係を育む保育実践の留意点（保護者、保育者との関わり）
	学習成果	事例検討を通して、人と関わる力を育む保護者、保育者の役割について理解し、説明できる。
	予習復習の内容	愛着の形成について理解し、乳児期における保護者、保育者の役割について説明できるようにしておく。
4回	授業内容	事例検討②人間関係を育む保育実践の留意点（自我の形成と保育者の関わり）
	学習成果	子どもの自己主張を支える保育者の関わりと、自立に向けた役割について説明できる。
	予習復習の内容	自我の形成と自己主張について理解し、保育者の役割について説明できるようにしておく。
5回	授業内容	ロールプレイ①人間関係を育む保育実践の留意点（仲間との関わり）
	学習成果	ロールプレイを通していざごにおける保育者の関わりと役割について理解し、説明できる。
	予習復習の内容	発達におけるいざごの意味を理解し、保育者の役割について説明できるようにしておく。
6回	授業内容	ロールプレイ②人間関係を育む保育実践の留意点（園の決まりやルール）
	学習成果	集団における葛藤を通して、道徳性・規範性を育む保育者の役割について説明できる。
	予習復習の内容	「道徳性・規範意識の芽生え」について説明できるようにしておく。
7回	授業内容	模擬保育実施に向けた保育構想と指導案の理解
	学習成果	保育内容をもとに発達を踏まえた保育を構想する重要性と、指導案の構成を理解し、説明できる。
	予習復習の内容	保育実践が指針・要領をもとにした保育構想、指導案作成、保育実践、検証で構成されていることを説明できるようにしておく。
8回	授業内容	ポートフォリオや映像等を活用した評価方法の理解と指導上の留意点
	学習成果	ポートフォリオやビデオカンファレンスについて理解し、指導上の留意点を踏まえて評価に活用する方法について説明できる。
	予習復習の内容	ポートフォリオやビデオカンファレンスを評価に活用する方法について説明できるようにしておく。
9回	授業内容	模擬保育実施に向けた保育構想の計画（グループワーク）指導案の作成と情報機器の活用及び教材の研究
	学習成果	保育を構想し、指導案の作成、情報機器の活用及び教材研究を実践することができる。
	予習復習の内容	劇遊び実践に向けて保育を構想し、指導案の作成、教材研究に取り組む。
10回	授業内容	模擬保育実践：友達と関わり集団で遊びを楽しむ
	学習成果	保育内容（人間関係）の観点からみた劇あそびの意義を理解し、模擬保育を指導案に沿って実践できる。
	予習復習の内容	保育内容（人間関係）の観点からみた劇あそびの意義を理解し、説明できるようにしておく。
11回	授業内容	模擬保育実践の振り返り①（情報機器及び教材の活用方法や環境構成に関する課題の検討）
	学習成果	構想した保育実践を振り返り、教材の活用方法や環境構成に関する課題を見出す。
	予習復習の内容	教材の活用方法や環境構成を理解し、課題を整理しておく。
12回	授業内容	模擬保育実践の振り返り②（保育構想の再構築と指導案の作成）
	学習成果	保育実践の振り返りを通して、人間関係を育む保育構想を再検討し指導案を作成できる。
	予習復習の内容	保育実践の振り返りをもとに構想を再検討し、指導案を作成できるようにしておく。
13回	授業内容	領域「人間関係」の特性をふまえた教材や情報機器の効果的な活用法
	学習成果	領域「人間関係」の特性を理解し、保育実践における効果的な教材や情報機器の活用につなげることができる。
	予習復習の内容	領域「人間関係」の特性を理解する。効果的な教材や情報機器を知り、活用につなげることができるようにする。
14回	授業内容	事例検討：特別な支援が必要な子どもへの保育実践
	学習成果	人との関わりが難しい子どもの事例を通して、生活や遊びにおける具体的な指導場面を想定し、実践につなげることができる。
	予習復習の内容	発達や学びの過程を理解する。具体的な指導場面を想定し実践で活用できるようにしておく。
15回	授業内容	領域「人間関係」の現代的課題と小学校教育への接続
	学習成果	現代社会の特徴と子どもの人間関係、保護者のストレスを理解し、幼保小接続の重要性を説明できる。
	予習復習の内容	人間関係の発達における現代社会の課題を理解する。幼保小接続の重要性を説明できるようにしておく。

科目名	保育内容指導演「言葉」				担当者	山本 信 (実務家教員)					
区分	必修	1	単位	授業回数 15 授業時間数 30	回 時間	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、または emailyamamoto.makoto@seiwa.ac.jp への連絡 (学籍番号・氏名記載必須) とする。										
専門的 学習成果	①	領域「言葉」のねらいと内容を他の領域と関連づけながら説明することができる。									
	②	言葉とコミュニケーションおよび思考の発達過程と乳幼児期に必要な経験について理解し、保育構想に活用することができる。									
	③	生活や遊びを通じた乳幼児の育ちを援助するための技能および教材の活用方法について学び、他者と協働しながら実践的な指導案を作成できる。									
	④	保育の評価方法と改善 (カリキュラムマネジメント) について理解した上で、保育の計画や指導案を作成できる。									
	⑤	領域「言葉」に関する現代的課題や保育実践の動向を踏まえ、保育の質の向上に必要な保育者の専門性について説明することができる。									
汎用的 学習成果	(1)	領域の指導に関する専門的知識・技能を修得し、生活や遊びの中で、様々な教材や、豊かな感性や想像力・表現力をもって、乳幼児の育ちを支えるための実践について考え、表現することができる。(専門的学習成果①②③④)									
	(2)	現代社会における子どもを取り巻く状況について理解し、地域社会の中で子どもに必要な経験について、他者と協働しながら議論し、主体的・積極的に学びを探究することができる。(専門的学習成果②④⑤)									
授業概要	乳幼児の言葉に対する感性と話す・聞く・伝える・考える力を育成する意義について理解する。また、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」の「ねらい」・「内容」・「内容の取り扱い」について、その背景となる発達の理論と現代的課題とともに学ぶ。さらに、領域「言葉」の指導方法と援助のあり方、カリキュラムマネジメントについて実践的に学び、領域の指導法について理解を深める。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準							
	専門的 学習成果	定期試験									
		小テスト	20	小テスト (4回) : 正答率に応じて評価を行う (各5点)							
		グループワーク	15	グループワーク (3回) : テーマに基づいた発言や議論への参加姿勢の評価を行う (各5点)							
		ワークシート	15	ワークシート (3回) : 授業内容を踏まえ、テーマに沿ったワークシートの評価を行う (各5点)							
		模擬授業	10	模擬授業 (1回) : テーマに基づいた発表内容 (5点) およびプレゼンテーション (5点) の評価を行う。							
確認試験	40	これまでの学習内容に基づき、学習習熟度に関するテストを実施し、評価を行う。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・④にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②・④・⑤にて評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名								
	秋田喜代美・野口隆子 編著	『保育内容 言葉』	光生館								
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名								
	文部科学省	『幼稚園教育要領』(解説書含む)									
	厚生労働省	『保育所保育指針』(解説書含む)									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(解説書含む)									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>①授業は、テキスト・参考資料・配付資料を中心に進める。また、授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。 <事前学習 (週30分程度) > : テキスト・参考文献を読み、専門用語の理解をはじめ、各回の学習内容について予習を行うこと。また、自身の実習等の経験や学習内容と関連付けながら深く考える機会を多く持つこと。 <事後学習 (週30分程度) > : 毎回の授業の内容について復習を行い、理解を深めること。また、新聞・ニュース等で得られた情報と学習内容を結びつけながら、自分の考えを言葉や文字で表現できるようにし、レポートの作成等につなげること。 ②フィードバックの方法については、以下の通りとする。 <レポート> 提出後2週間以内を目安に、評価のポイントを含めたコメントとともに返却する。レポート作成の際には、引用・参考文献は必ず記述するものとする。また、提出されたレポートに関して、必要に応じて、内容の理解についての確認を個別に行う場合もあるため、自分の言葉で確実に理解した上で記述すること。 <小テスト> テストの実施後に解答・解説を行う。 <グループワーク・模擬授業> グループワークへの参加姿勢や模擬授業の発表内容について、次回の授業において評価のポイントを含め、フィードバックを行う。 <ワークシート> 提出後2週間以内を目安に、評価のポイントを含めたコメントとともに返却する。</p>										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容 乳幼児の言葉の発達と領域「言葉」、他の領域との関連 学習成果 「領域」という考え方を理解し、乳幼児言葉の発達と5領域との関連について説明できる。 予習復習の内容 領域「言葉」のねらいおよび内容について理解しておくこと。5領域と乳幼児の言葉の発達との関連についてまとめておくこと。		<ワークシート> 1,2回の授業内容を踏まえ、第2回の授業終了時に提出 <小テスト> 3回目、4回目の授業にて実施 ○1歳以上3歳未満児の「ねらい」と「内容」
2回	授業内容 領域「言葉」のねらい・内容・内容の取り扱いおよび小学校教育との学びの連続性 学習成果 領域「言葉」のねらい・内容・内容の取り扱いについて理解し、乳幼児期の経験や学びが小学校教育へどのようにつながっていくかについて説明することができる。		予習復習の内容 領域「言葉」のねらい・内容・内容の取り扱いについてまとめ、保育現場および小学校教育との具体的なつながりにして説明できるようにしておくこと。
3回	授業内容 乳幼児の言葉の発達 学習成果 乳幼児の言葉の発達に必要な物的・人的環境について具体的な事例を用いて説明することができる。 予習復習の内容 非言語的コミュニケーションも含め、乳幼児の言葉の発達について理解しておくこと。指差しの持つ意味について理解し、二項関係から三項関係への移行と言葉の発達について説明できるようにしておくこと。		<グループワーク> ・乳幼児から児童期の言葉の発達過程についてワークシートにまとめ、4回目の授業終了時に提出 ・5回目の授業で、グループワークの内容について共有 <小テスト> 6回目、7回目の授業にて実施 ○乳幼児の言葉の発達 ○幼児期から児童期の言葉の発達
4回	授業内容 幼児期の言葉の発達 学習成果 幼児期の言葉の発達に必要な物的・人的環境について具体的な事例を用いて説明することができる。 予習復習の内容 仲間関係の中での言葉の育ちや、思考の道具としての言葉の機能について理解しておくこと。		
5回	授業内容 幼児期から児童期の言葉 学習成果 児童期の言葉の発達に必要な物的・人的環境について、また、保・幼・こ・小の接続や、言葉に関する家庭との連携について説明することができる。		
6回	予習復習の内容 入園児、進級時、就学時等の接続期における言葉の役割や、言葉の発達を促す環境について理解しておくこと。 授業内容 保育者の専門性と言葉・保育環境と言葉 学習成果 子ども言葉の発達を支える保育者を含めた環境の役割について、専門的な視点から説明することができる。		<ワークシート> 「遊びと生活の中の言葉」についてまとめ、7回目の授業終了後に提出。
7回	予習復習の内容 言葉の発達を支える保育者の専門性や環境構成について、具体的な事例を挙げながら自らの言葉で説明できるよう理解を深めておくこと。 授業内容 遊びと生活のなかの言葉 学習成果 保育の様々な場面における言葉が、身体的・情緒的に子どもの中に刻み込まれていくものであることを理解した上で、乳幼児の言葉の獲得や発達について説明できる。		
8回	予習復習の内容 保育の様々な場面子どもたちが使っている言葉について、自身の経験や実習を振り返りまとめておくこと。 授業内容 指導案・指導法の理解 学習成果 一日の保育の中に含まれている領域「言葉」に関するねらい・内容・内容の取扱いについて、具体的な場面を示しながら説明することができる。 予習復習の内容 配布した指導案の中で、領域「言葉」に関連する箇所を抜き出し、保育所保育所保育指針と照らし合わせて理解しておくこと。		<グループワーク> テーマ：一日の保育の中での領域「言葉」 配布した指導案をもとに、領域「言葉」の指導法についてグループワーク(ICTを用いた情報共有を含む)を通して深めていく。
9回	授業内容 保育計画と評価 (カリキュラムマネジメント) (情報機器の操作を含む) 学習成果 保育におけるカリキュラムマネジメントについて、自らの言葉で説明することができる。計画と評価における情報機器の有用性について説明することができる。 予習復習の内容 カリキュラムマネジメントについて調べ、理解しておくこと。保育現場におけるカリキュラムマネジメントの具体的な流れについて、実践を想定しながら説明できるようにすること。		
10回	授業内容 乳幼児の言葉を育む保育：教材研究 学習成果 子ども興味・関心をもち、子どもが主体的に活動に取り組むための教材や環境構成について他者と協働しながら計画することができる。 予習復習の内容 絵本等の児童文化財や遊びについて理解し、様々な教材や活動における、乳幼児の言葉の育ちについて理解しておくこと。		<グループワーク> 模擬授業に向けた、活動計画の立案と指導案の作成。 模擬授業 (グループワークを通じた指導案の発表) 指導案の内容と、発表の内容を総合して評価を行う。
11回	授業内容 乳幼児の言葉を育む保育の計画：指導案作成 学習成果 子ども興味・関心をさらに広げ、深めるための活動や環境構成について理解し、具体的な活動としての指導案・活動計画案を作成することができる。 予習復習の内容 指導案の基本的な構成について確認し、様々な活動や場面が、乳幼児の言葉の育ちとどのように関連しているのかについて理解を深めておくこと。		
12回	授業内容 乳幼児の言葉を育む保育の実践：模擬授業 学習成果 作成した指導案について、実践を想定し、他者と協働しながら説明することができる。模擬授業 (発表・他グループとの情報共有) を通じて、自ら作成した指導案の改善点を挙げるができる。 予習復習の内容 グループで作成した指導案の詳細について、実践を想定しながら理解を深めておくこと。発表を通して伝えられたこと、伝わりにくかったことをまとめ、指導案を改善すること。		
13回	授業内容 言葉の問題と援助 学習成果 領域「言葉」についての特別な配慮や支援について理解し、個別の指導計画の必要性について説明することができる。 予習復習の内容 生活環境や (障害を含む) 特性の違いにより生じる、領域「言葉」に関連した支援について理解し、具体的な事例をふまえて説明できるようにしておくこと。		<ワークシート> ○個別の指導・支援計画について ○保育の記録の必要性 ワークシートは14回の授業終了後時に提出。
14回	授業内容 保育の記録と改善 学習成果 保育における記録の意義や、記録の方法について理解し、実際の子どもの姿 (映像) を観て記録を取ることができる。 予習復習の内容 保育において記録をする意義、記録をする上での留意事項について理解しておくこと。自分で取った記録や他者が取った記録を読み、適宜修正を行ったながら、記録に必要な技術について理解を深めておくこと。		
15回	授業内容 保育・教育の現代的課題と領域「言葉」、振り返りとまとめ 学習成果 現代社会における保育・教育の課題を理解し、保育者として「言葉」の発達をどのように支えていくか、自分の考えも踏まえて説明することができる。 予習復習の内容 子どもを取り巻く現代社会の状況について、新聞等から情報を得ておくこと。本講義のまとめとして、学習内容の振り返りを行い、自らの学習成果に対して具体的な評価を実施すること。		確認試験 これまでの学習内容についての理解を計る ○1～15回の授業内容

科目名	保育内容指導法「表現（造形）」				担当者	佐々木 貴 弘						
区 分	必修	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	sasaki.takahiro@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で通知。授業内容等に関する質問等は毎時、授業の前後に教室内で対応する。											
専門的 学習成果	①	領域「表現」の意義と、保育者としての表現活動への指導法や関わり方を理解する。										
	②	表現活動を中心活動とした、教材研究、指導案作成、活動内容や場の設定ができる。										
	③	表現活動における学び、気づきを促す保育者の役割、指導援助を考える事ができる。										
	④	振り返りを通して、保育実践、地域実践への展開法、評価、発達理解について考えることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育現場における必要な基礎的知識・技能を身に付けた上で、教材研究を通して指導法について考察する。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	子どもの発達や成長に即した表現活動への保育実践力を高め、指導案作成を経て、模擬保育を行い保育実践力を高める。（専門的学習成果②③④に関連）										
	(3)	子どもや保護者、及び地域社会における造形表現的活動の意義を理解し、保育者としての役割を果たすことができる。（専門的学習成果③④に関連）										
授業概要	子どもの造形表現活動に関わる保育者としての基礎的な表現技術、基本姿勢を理解する。表現活動への「受容・共感・対応していくことの重要性」を踏まえ関わり方や指導法を身に付ける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	ワークシートを活用し進める。また、各自考案した製作活動、参考作品、提示の仕方、説明法も評価する。								
		教材研究・発表	30	保育教材研究への取り組み。それに伴う教材準備、製作手順の理解、試作試行の様子、指導上の留意点へ配慮、模擬保育の内容、後片付けまで評価する。								
	平常点	40	保育教材研究への取り組み、試行錯誤の様子、協働・意欲・態度を評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果③④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	横英子	『保育をひらく造形表現』						萌文書林				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	文部科学省	『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』										
	厚生労働省	『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前学習、準備物等は、その都度指示。基本的にワークシートを使用し進める。（時間外学習約15時間）。各自、乳幼児あるいは福祉施設利用者を対象とした中心活動を考え教材研究に繋げる。教科書、スケッチブック、画材セットは毎回持参。エプロン（または汚れても良い服装）着用。おしぼり準備。長い髪はまとめる。教材費一人500円（半期分） 集金。画材、教科書等は、番号・氏名を記入のこと。 ②ワークシートを基に、翌週、グループ内にて、アイデアや工夫点などを発表、共有し、学び合いを行う。また、製作中や発表時に、助言やコメントをする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	子どもの表現の特徴・特質を理解する。幼児の表現活動の分析（情報機器の活用）	ワークシートへの取り組み。子どもの造形表現について知る。造形活動についての構造的な理解。
	学習成果	本授業の内容を理解し、描画の発達を踏まえ、概要について説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。オリエンテーションの説明を踏まえて、学習目標を立てる。	
2回	授業内容	「表現と鑑賞（表す、観る）」。感じたこと考えたこと表す。表現活動の構造的な理解。	
	学習成果	表現活動について構造的な理解ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、表現活動の構造的な理解をし、「表現と鑑賞」を踏まえた活動を考えることができる。	
3回	授業内容	「主題と題材」（身近なものを題材とし、伝えたいことを考え、伝える方法や手段を考える）	
	学習成果	造形あそびから主題表現への展開を通して、造形表現を通して「伝える、内容、手段」について考え理解を深める。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、表現活動における造形あそびから主題表現への展開を考えを深める。	
4回	授業内容	教材研究（対象年齢、各種素材、活動内容、児童文化財等の活用法、情報機器及び教材の活用、試作品製作など）	ワークシートへの取り組み。教材研究への姿勢。試作品、見本作品などの製作。図示、説明について考え、具体的に表現することができる。
	学習成果	具体的な題材、代表的な児童文化財の製作研究を行い活用法を考えることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各種保育教材、児童文化財の活用法への理解を深める。	
5回	授業内容	指導計画① 表現活動における保育の流れ（導入、中心活動、まとめ）活動の留意点	
	学習成果	保育現場における、製作活動の基本的な流れを理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各種保育教材、児童文化財への理解を深める。	
6回	授業内容	指導計画② 造形活動の言語化（説明法）、見える化（参考作品、画像、工程図、実演）	
	学習成果	製作活動における、説明法、参考作品提示法を検討し、決定することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、伝えることを考え、視覚教材を検討し選出する。	
7回	授業内容	指導案立案① 題材の選定。対象年齢の確定。役割分担、計画（グループワーク）	
	学習成果	グループ学習の中で、題材、対象年齢、役割等を決定し指導計画を行うことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、題材を踏まえ材料準備や、略案等を考える。	
8回	授業内容	指導案立案② 内容練り上げ、流れ確認（グループワーク）	
	学習成果	題材、略案等を踏まえ、集約し、内容を練り上げ指導案に向けて一本化できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、教材研究、指導案作成を行う。	
9回	授業内容	教材準備（人数と個数、活動形態、材料用具確認）（グループワーク）	指導案が立案できる。指導計画に基づき、保育を展開することができる。他者の保育を見ることで、学び合いを行うことができる。
	学習成果	グループ学習の中で、協働して、模擬保育に向けて準備物等の確認をする。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、協働して、模擬保育に必要な材料準備、また、指導案作成を行う。	
10回	授業内容	模擬保育 実践（グループワーク）	
	学習成果	グループ内で、模擬保育後の所感を確認し振り返りを行うことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、模擬保育について、自分の役割を中心に省察する。	
11回	授業内容	模擬保育振り返り① 情報機器を活用した分析と省察。「修正版指導案」作成（グループワーク）	
	学習成果	グループ内で、動画等で模擬保育の課題を再確認し、改善点を修正できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、改善点を基に、修正版指導案の作成に向かう。	
12回	授業内容	模擬保育振り返り② 「対象年齢別指導案（3歳未満、以上児）」作成（グループワーク）	
	学習成果	グループ内外で行われた模擬保育を基に、対象年齢別指導案を作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、対象年齢、発達段階を踏まえ、事前準備、材料加工などを再考する。	
13回	授業内容	実習に向けて（活動形態、用具・設備、掲示、展示、発表法、事前打ち合わせ確認事項等）	実習に向けた準備、打ち合わせ内容などを再確認し、見通しを持って活動することができる。作品活用、展示、管理法などを考えることができる。共同製作に関する事例から、学内で習得した技法を応用し、活動を展開することができる。
	学習成果	学外実習に向けて、造形活動に関して、指導計画、作品の扱い、打ち合わせ事項などを再確認する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各々の実習に向けた事前準備に繋げる。	
14回	授業内容	個々の製作から共同製作に向けた活動例（作品活用、壁面、掲示展示発表例）	
	学習成果	中心活動で行った個々の活動を共同製作に繋げる事例などを知る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、改善点を基に、修正版指導案の作成に向かう。	
15回	授業内容	まとめ。感性、表現力、創造性について考察。家庭や地域連携、幼小接続に向けた活動。	総括（まとめのレポート）提出。
	学習成果	造形活動の意義、活動を通して高まる感性などを再確認し総括する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、造形表現指導法を通し体験的に学んだ事を基に、自身の保育現場での活動に繋げていく。	

科目名	子どもの健康と安全					担当者	トウロウイラン ハク ニキ 東海林 初 枝					
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は、授業前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解し、説明することができる。										
	②	保育における健康及び安全管理について具体的に理解し、説明することができる。										
	③	子どもの体調不良等に対して適切に対応するための方法について説明できる。										
	④	保育における感染症対策について具体的に理解し、実践することができる。										
	⑤	健康及び安全管理の実施体制について具体的に理解し、適切な保健活動ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる健康及び安全管理を踏まえた保育環境や援助について理解し、基礎的な技能を身につける。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	子どもの健康保持と体調不良に対する対応などの保育実践力を確実にする。(専門的学習成果③④に関連)										
	(3)	子どもの健康と安全管理に関わる、職員間、他組織、地域等と協働する力を身につける。(専門的学習成果⑤に関連)										
授業概要	子どもの心身の成長発達を踏まえ、健やかな子どもの成長を支え安全な環境を提供するための保健活動のあり方と、安全管理について学ぶ。また子どもの疾病や障害のある子どもへの適切な対応についても具体的に学ぶ。感染症対策や救急処置について、保育者として必要な対応を習得する。さらに施設での事故防止及び健康安全管理への取り組み等の学習を通して、地域保健活動のあり方を理解し、他組織、地域等と協働する力を身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	①5%、②10%、③10%、④10% 学習成果の達成度を評価する。								
		筆記試験	60	各30%を2回実施。60%以上の得点を合格点とする。								
	平常点	10	授業態度、グループワークへの参加状況を評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	大西文子	『子どもの健康と安全』					中山書店					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	文部科学省	『幼稚園教育要領解説』					フレーベル館					
	厚生労働省	『保育所保育指針解説』					フレーベル館					
	内閣府・文科省・厚労省	『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説』					フレーベル館					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。授業内容理解のため、事前学習として、教科書や事前に指示した資料をよく読んで理解しておくこと。特に授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと(予習:週0.5時間程)。また、事後学習は、単元ごとにレポート提出及び小テストを実施しその内容を評価の対象とするので、復習をしっかりとすること。授業で学んだことを「子どもの保健Ⅰ」、「乳児保育」のテキスト内容と照らし合わせ再確認の作業を行うこと(復習:週0.5時間程度)。 ②小テスト及びレポートに対するフィードバックは実施後に解説を行う。 授業は、前期は実習中を除く8回、後期7回実施する。参考書は毎回持参すること。グループ活動では、各自積極的に授業に臨むこと。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保健活動の内容と保健計画及び保健活動の記録と評価を理解する。	レポート提出① 課題 「保育における保健活動の重要性を理解し、日常の健康観察のあり方を考察する」
	学習成果	年間保健活動の実際と、保健活動の重要性を理解する。	
	予習復習の内容	保育における保健活動の重要性を理解する。保育所保育指針、及び幼稚園教育要領等の関連部分を精読する。	
2回	授業内容	保育における健康観察。グループダイアログを実施し、実習施設で実施してきた自身の観察を見直し、実践力を高める。	レポート提出② 課題 「身体発育曲線を描き考察する」
	学習成果	保健的観点を踏まえた保育環境の整備と援助ができるようになり、健康観察実践力を高めることができる。	
	予習復習の内容	健康観察の実際を復習し、まとめてくる。実際に行ってきた健康観察を見直し、常に子どもの状態を把握できるようにする。	
3回	授業内容	健康診断について理解し、身体発育の実際を学ぶ。子どもの生活習慣と心身の健康について学ぶ。	レポート提出③ 課題 「保育施設での死亡事例をあげ、子どもの生命を守る保育者としてのあり方を考察する。」
	学習成果	子どもの成長発達を踏まえた生活習慣を理解し、適切な生活習慣の形成と発育測定ができるようになる。	
	予習復習の内容	1日の生活リズムと生活習慣のあり方を理解する。保育所保育指針・幼稚園教育要領等から保育者として大切な事項を整理し理解する。	
4回	授業内容	保育における健康及び安全管理①保育施設での死亡事故をあげ、グループワークする。	レポート提出④ 課題 「ヒヤリハット事例について考察する」
	学習成果	保育者の子どもの生命維持に対する使命を確認する。	
	予習復習の内容	「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(28年3月)を学ぶ。	
5回	授業内容	保育における健康及び安全管理②危機管理についてグループワークする。	筆記試験① 8回後半で実施する。 ・アレルギー ・症状に対するケア
	学習成果	危機管理、災害対策について具体的に理解する。	
	予習復習の内容	実習園の危機管理の実際についてまとめてくる。	
6回	授業内容	体調不良に対する対応①アレルギー エピペンの使い方	筆記試験② 15回後半で実施する。 ・救急蘇生法 ・応急処置 ・感染症の予防 ・感染症発生時の対応 ・消毒の実際
	学習成果	アレルギー疾患に対する適切なケアを理解し実践することができる。	
	予習復習の内容	「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(23年3月)の理解	
7回	授業内容	体調不良に対する対応②発熱 腹痛 下痢等	レポート提出④ 課題 「ヒヤリハット事例について考察する」
	学習成果	症状に対する適切なケアを理解し対応することができる。	
	予習復習の内容	実習で経験した症例について、ケアの実際を省察する。	
8回	授業内容	体調不良に対する対応③嘔吐 嘔吐等	レポート提出④ 課題 「ヒヤリハット事例について考察する」
	学習成果	症状に対する適切なケアを理解し対応することができる。	
	予習復習の内容	実習で経験した症例について、ケアの実際を省察する。	
9回	授業内容	保育における健康及び安全管理③実習中のヒヤリハット事例についてグループワークする。	レポート提出④ 課題 「ヒヤリハット事例について考察する」
	学習成果	衛生管理、事故防止の実際について具体的に理解し実践できる。	
	予習復習の内容	実習中のヒヤリハット事例をまとめる。「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(28年3月)を学ぶ。	
10回	授業内容	救急処置の実際 VTR「子どもの保健・実習」視聴。子どもの救急蘇生法を学ぶ。	筆記試験② 15回後半で実施する。 ・救急蘇生法 ・応急処置 ・感染症の予防 ・感染症発生時の対応 ・消毒の実際
	学習成果	子どもの救急蘇生法を理解し、対応することができる。	
	予習復習の内容	子どもと成人の方法の違いを整理しておく。また身近なところにあるAEDの設置場所を確認しておく。	
11回	授業内容	子どもの事故と応急処置①応急手当(打撲・傷・鼻出血等)	レポート提出④ 課題 「ヒヤリハット事例について考察する」
	学習成果	応急処置の実際を理解し、対応することができる。	
	予習復習の内容	正しい応急手当の方法を整理しておく。	
12回	授業内容	子どもの事故と応急処置②応急手当と包帯・三角巾の使い方	レポート提出④ 課題 「ヒヤリハット事例について考察する」
	学習成果	応急処置の実際を理解し包帯・三角巾を使うことができる。	
	予習復習の内容	正しい応急手当の方法を整理しておく。	
13回	授業内容	感染症の予防と対策①衛生管理	レポート提出④ 課題 「ヒヤリハット事例について考察する」
	学習成果	施設内外の衛生管理の実際を理解し、実践できるようになる。	
	予習復習の内容	「保育所における感染症対策ガイドライン」(30年3月)について復習する。	
14回	授業内容	感染症の予防と対策②集団発生の予防と対応	レポート提出④ 課題 「ヒヤリハット事例について考察する」
	学習成果	集団発生の予防と発生時の対応が確実にできるようになる。	
	予習復習の内容	「保育所における感染症対策ガイドライン」(30年3月)を理解し、保育の場で行う感染予防が日常的に実践できるようにする。	
15回	授業内容	健康及び安全管理の実施体制 職員間・専門機関等との連携	レポート提出④ 課題 「ヒヤリハット事例について考察する」
	学習成果	個別的配慮の必要な子どもへの対応を地域保健の観点から支援できるようになる。	
	予習復習の内容	保育所保育指針第4章を予習復習する。	

科目名	社会的養護Ⅱ				担当者	川上 芳夫						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
授業時間数	メールで受け付ける アドレス e96w99@bma.biglobe.ne.jp				30	時間						
専門的学習成果	①	社会的養護について、定義、具体的内容、現状、課題、これからのあり方について説明できる。										
	②	施設養護、里親制度の特性および実際について理解し、説明することができる。										
	③	社会的養護における子どもの現状を理解し、社会的養護のもとで暮らす子どもに対する適切な対応を説明できる。										
	④	社会的養護に関わる専門的技術の内容や方法、ソーシャルワークに関わる知識・技術とその応用を説明できる。										
	⑤	事例検討において、課題と支援方法等について端的に意見を述べることができる。										
	⑥	児童福祉施設における保育士の資質や倫理について述べるができる。										
汎用的学習成果	(1)	保育者に必要とされる専門的知識と基礎的な技能を習得し、実践につなげることができる。(専門的学習成果①②③④⑥に関連)										
	(2)	社会的養護の今日的課題やこれからのあり方を理解し、保育士として、児童福祉施設等の保育実践に生かすことができる。(専門的学習成果①②③⑤⑥に関連)										
	(3)	保育者に必要とされる子どもの発達、社会的養護児童の特徴を理解し、保育実践力を高める。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	社会的養護とは何か、要保護児童の実態、家庭養護と施設養護の違い、社会的養護の課題とこれからのあり方等について学ぶ。また、保育士として必要な愛着理論、子どもの発達、社会的養護児童の特徴、児童福祉施設に入所している児童の特徴についても学び、保育士として保育の実践に生かせるようにする。さらに、家族支援や児童福祉施設、教育機関などとの連携に重要な社会的援助技術の方法、保育士が身につけるべき倫理や自らのメンタルヘルスの方法についても学び、保育士が燃え尽きないように自己コントロールの方法についても学ぶ。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験	50	全15回分の講義内容について筆記試験を行い、評価する。								
		平常点	50	授業の態度、関心、意欲を評価するとともに、原則として毎回提出する課題への取組状況、提出課題への取組を評価する。								
汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④⑥で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③⑤⑥で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③④で評価を行う。											
テキスト等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	小木曾宏・宮本秀樹・鈴木崇之	『よくわかる社会的養護Ⅱ』				ミネルヴァ書房						
参考書参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点	①テキストを準備のうえ授業を受けること。授業は、テキスト、配付する参考資料等により進める。											
②課題に対するフィードバックの方法等	事前学習として、授業内容理解のため、テキストを読み予習をしておくこと。 ②小テスト及び提出課題に対するフィードバックは、実施した次の授業で解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	社会的養護の基本的枠組み		報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	社会的養護の基本的枠組みを理解し、社会的養護とは何か説明できる。		
	予習復習の内容	教科書 P2～17をよく読んでおく。		
2回	授業内容	日本の社会的養護の課題		
	学習成果	日本の社会的養護の課題と今後の方向性について説明できる。		
	予習復習の内容	今日の社会的養護の体系、社会的養護における子どもたちの現状について理解する。		
3回	授業内容	アセスメントと個別支援計画作成		報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	自立支援計画の実際について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	教科書 P136～151をよく読んでおく。		
4回	授業内容	記録および自己評価、第三者評価		
	学習成果	記録の書き方、スーパービジョンの意義についてを理解し、報告できる。		
	予習復習の内容	教科書 P152～161をよく読んでおく。		
5回	授業内容	保育士の専門性に関わる知識・技術とその応用		
	学習成果	社会的養護における専門職としての保育士の役割について説明できる。		
	予習復習の内容	教科書 P164～177をよく読んでおく。		
6回	授業内容	日常生活支援		報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	社会的養護における日常生活支援の実際について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	教科書 P40～61をよく読んでおく。		
7回	授業内容	治療的支援、自立支援		
	学習成果	社会的養護における治療的支援について理解し、自立支援の基本について説明できる。		
	予習復習の内容	教科書 P62～91をよく読んでおく。		
8回	授業内容	社会的養護における家庭支援		報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	社会的養護における家庭支援の実際について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	教科書 P196～205をよく読んでおく。		
9回	授業内容	施設養護の特性及び実際1		
	学習成果	一時保護所、乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設の役割を説明できる。		
	予習復習の内容	教科書 P94～113をよく読んでおく。		
10回	授業内容	施設養護の特性及び実際2		報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	母子生活支援施設、児童心理治療施設の役割を説明できる。		
	予習復習の内容	教科書 P94～113をよく読んでおく。		
11回	授業内容	施設養護の特性及び実際3		
	学習成果	障害児者の施設援助や地域生活援助を学び、ノーマライゼーションを説明できる。		
	予習復習の内容	教科書 P94～113をよく読んでおく。		
12回	授業内容	里親制度の特性及び実際		報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	里親制度の現状と課題について説明できる。		
	予習復習の内容	教科書 P114～133をよく読んでおく。		
13回	授業内容	養子縁組とファミリーホーム		
	学習成果	ファミリーホームの現状と課題について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	教科書 P114～133をよく読んでおく。		
14回	授業内容	ソーシャルワークに関わる知識・技術とその応用		
	学習成果	ソーシャルワークに関わる基礎知識を理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	教科書 P178～193をよく読んでおく。		
15回	授業内容	社会的養護の課題と展望		○定期試験時に筆記試験を実施する。
	学習成果	社会的養護の諸課題を理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	教科書 P206～231をよく読んでおく。		

科目名	子育て支援				担当者	加藤和子						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に質問を受け付ける。											
専門的 学習成果	①	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解し、説明できる。										
	②	保育相談支援の基本となる「子ども・子育て支援新制度」や地域の社会資源の活用や関係機関等の連携・協力について説明できる。										
	③	保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解し、実践につなげることができる。										
	④	障害を持つ子どもの保護者や、経済問題を抱える保護者、孤立する保護者など、支援の対象となる保護者を理解し、実践でいかなることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	子育てをめぐる環境の厳しさを理解し、保育士の行う子育て支援における社会的役割を自覚して保護者の理解や支援ができる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	子育て支援に必要とされる専門的知識と基礎的な技法を実際の展開をもとに習得し、実践につなげることができる。（専門的学習成果③に関連）										
	(3)	保育所等及び地域における子育て支援の実態を理解し、保育士として子育て支援の役割を探究し、他者と協働して地域社会でいかなることができる。（専門的学習成果②③④に関連）										
授業概要	子育て支援は、子どもの豊かな育ちを守り、実現するために欠かすことのできない保育士の専門性を背景とした実践活動である。子育て支援という対人援助を中心とした技術においては、その前提として保護者の子育てを通じた自己実現に向けた深い理解と洞察、専門職としての倫理が必要とされる。本講義では、実践に向けた理解を促進することを目標とし、事例を通してその概要を学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格点とする。								
		小テスト	20	各10%を2回実施。60%以上の得点を合格点とする。								
		他	20	ワークへの取り組みを評価する。各回5%を4回実施。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価で評価する。 (1) は専門的学習成果①②で評価する。 (2) は専門的学習成果③で評価する。 (3) は専門的学習成果②③④で評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	小田豊監修	『日常の保育を基盤とした子育て支援』				萌文書林						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	大日向雅美	『子どもを愛せなくなる母親の心がわかる本』				講談社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①日常生活の中で新聞・テレビなどから積極的に子育てに関する情報を得ること。特に授業内容に関連する部分については、テキスト該当部分の読了に加え事前に関係する文献を読み、理解を深めておくこと（予習：週2時間程度）。 ②毎回授業終了後にミニツレポートの提出を促し、次の授業で全体に向けてフィードバックを行うことから、テキストをもとに授業時間外学習を行って授業に臨むこと（復習：週2時間程度）。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	子育て支援における保育士の専門性と専門職の倫理	小テスト（第5回授業後半で実施する） ・現代社会における子育て環境 ・保育士の行う子育て支援の専門性 ・子育て支援における保育士の役割 ・ソーシャルサポート ・保育相談支援における相談技術
	学習成果	家族や家庭の持つ機能、子育てについて生涯発達視点から理解する。専門職の倫理について説明できる。	
予習復習の内容	生涯発達視点から子育て支援について理解する。守秘義務と専門職倫理について説明できるようにしておく。		
2回	授業内容	「子ども・子育て支援新制度」と子育て支援	
学習成果	現代社会における子育て環境について理解し、子育て支援の意義について説明できる。		
予習復習の内容	「子ども・子育て支援新制度」について説明できるようにしておく。		
3回	授業内容	保育士の行う子育て支援の意義と役割	
学習成果	現代社会における保育ニーズの多様化と保育士の行う保育相談支援の必要性を説明できる。		
予習復習の内容	子育てが困難とされる現代社会の背景を理解し、保育士の役割を説明できるようにする。		
4回	授業内容	ソーシャルサポートとしての保育士による子育て支援	
学習成果	家族の発達、ひとり親家庭、ファミリーサポート、次世代育成の必要性について説明できる。		
予習復習の内容	家族の形態や価値観の多様化について理解し、ファミリーサポートについて説明できるようにしておく。		
5回	授業内容	保育士の行う子育て支援：相談技術	
学習成果	ケースワークの展開、記録の手法、評価について説明できる。		
予習復習の内容	ケースワークのプロセスと記録の手法について説明できるようにしておく。		
6回	授業内容	保育士の行う子育て支援：職員間の連携・協働	
学習成果	子育て支援における職員間の連携・協働について理解し、重要性と留意点について説明できる。		
予習復習の内容	カンファレンスの内容と重要性について説明できるようにしておく。		
7回	授業内容	地域資源の活用と専門機関との連携	
学習成果	専門機関の種類や地域資源について理解し、連携の重要性と留意点について説明できる。		
予習復習の内容	専門機関の種類と職種について説明できるようにしておく。		
8回	授業内容	保育所における支援	
学習成果	保育所における保護者支援の留意点・支援計画・評価・カンファレンスについて説明できる。		
予習復習の内容	支援計画と評価、カンファレンスについて理解し、説明できるようにしておく。		
9回	授業内容	地域子育て支援事業における支援	
学習成果	地域子育て支援事業における支援の留意点・計画・評価について説明できる。		
予習復習の内容	地域の子育て支援における留意点やプログラムについて説明できるようにしておく。		
10回	授業内容	児童養護施設における支援	
学習成果	児童養護施設における保護者支援の留意点・支援計画・評価・カンファレンスについて説明できる。		
予習復習の内容	支援計画と評価、カンファレンスについて理解し、説明できるようにしておく。		
11回	授業内容	事例検討：保育所	グループワークへの参加態度を評価する。 各回5%4回実施
学習成果	保育所の事例検討を通して、支援内容と方法、技術について具体的に説明できる。		
予習復習の内容	事例を通して保育所における支援について理解し、説明できるようにしておく。		
12回	授業内容	事例検討：地域子育て支援センター	
学習成果	地域子育て支援センターの事例検討を通して、支援内容と方法、技術について具体的に説明できる。		
予習復習の内容	事例を通して地域子育て支援センターにおける支援について理解し、説明できるようにしておく。		
13回	授業内容	事例検討：障害児施設等	
学習成果	児童発達支援センターの事例検討を通して、支援内容と方法、技術について具体的に説明できる。		
予習復習の内容	事例を通して児童発達支援センターにおける支援について理解し、説明できるようにしておく。		
14回	授業内容	事例検討：児童養護施設	
学習成果	児童養護施設事例検討を通して、支援内容と方法、技術について具体的に説明できる。		
予習復習の内容	事例を通して児童養護施設における支援について理解し、説明できるようにしておく。		
15回	授業内容	子育て支援における課題と保育士の果たす役割	
学習成果	子育ての社会化の必要性に関する理解を踏まえ、子育て支援における課題と保育士の役割について自らの考えを説明できる。		
予習復習の内容	子育ての社会化が必要とされている背景を理解する。課題と保育士の役割について説明できるようにしておく。		
			定期試験：記述式 15回の授業内容理解を筆記試験で評価する。

科目名	保育実習Ⅰ（保育所）				担当者	佐々木貴弘・中島 恵・岩淵 禎子							
区 分	選択	2	単位	授業回数 おおむね 10日	回	授業 形態	実習	学年	2年	開講期	通年	授業時間数 90	時間
教員との連絡方法 質問等の受付方法	短大のメールアドレス、および巡回訪問での直接のやりとりで実施する。												
専門的 学習成果	①	保育所の役割や機能を理解し、記述することができる。											
	②	観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深め、考察できる。											
	③	既習の学習を踏まえ、子ども及び保護者への支援について総合的に説明できる。											
	④	保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解し、計画の部分的な立案を実践する。											
	⑤	保育士の業務内容や職業倫理について理解し、行動する。											
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる知識や技術を習得し、自覚をしながら子どもの理解や支援ができる。（専門的学習成果①②③）											
	(2)	保育者として必要なコミュニケーション能力を有し、主体的、積極的行動実践ができる。（専門的学習成果②③⑤）											
	(3)	自己の課題を見出し、省察し、反省を踏まえて学び続けることができる。（専門的学習成果④）											
授業概要	保育所実習を通して、保育所の役割と機能について学び既習の学習を踏まえながら、さらに子ども理解を深める。保育の実際 に接し、子どもとの関わりを通して乳幼児の発達や健康・安全への配慮、環境等の工夫と保育所等における保育の意義について の理解を深める。また、保育課程と指導計画、記録について理解し保育の実際を学ぶ。実践を通して、保育士間の連携、保 護者支援の在り方、地域との連携、保育士の役割と倫理について学ぶ。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	10	事前事後指導における、各種提出物（事前学習、提出書類、自己評価、報告書など）に て総合的に評価する。									
		実習評価	80	保育所実習Ⅰにおける、巡回指導報告、並びに、実習先からの外部評価にて総合的に評 価する。									
		実習日誌等総 合評価	10	事前事後指導などへの取り組み、実習時の実習日誌内容などを総合的に評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③⑤により評価を行う。 (3) は専門的学習成果④により評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名							
		『教育・保育実習ガイドブック』				聖和学園短期大学保育学科							
		『保育実習の手引き』				宮城県保育実習連絡協議会編							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名							
	厚生労働省	『保育所保育指針解説』				フレーベル館							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方 法等	①この科目では時間外学習として、保育所保育指針の内容をよく理解しておくこと。また、ガイ ダンス内で示される指導案の作成等の課題に取り組むこと。 ②提出された課題は適宜フィードバックを実施する。それを基に教材研究など自主的に学びを発展 させるようにすること。												

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	事前オリエンテーション	
	学習成果	保育所の概要の理解と、実習中の諸注意を把握し日誌に記述できる。	
2回	予習復習 の 内 容	保育所の概要を調べる。	
	授業内容	子ども理解（子どもの発達の特徴を知る）0歳児	
3回	学習成果	0歳児の特徴を捉えた関わりと日誌の記載ができる。	
	予習復習 の 内 容	0歳児の特徴の理解	
4回	授業内容	子ども理解（子どもの発達の特徴を知る）1歳児	
	学習成果	1歳児の特徴を捉えた関わりと日誌の記載ができる。	
5回	予習復習 の 内 容	1歳児の特徴の理解	
	授業内容	子ども理解（子どもの発達の特徴を知る）2歳児	
6回	学習成果	2歳児の特徴を捉えた関わりと日誌の記載ができる。	
	予習復習 の 内 容	2歳児の特徴の理解	
7回	授業内容	子ども理解（子どもの発達の特徴を知る）3歳児	
	学習成果	3歳児の特徴を捉えた関わりと日誌の記載ができる。	
8回	予習復習 の 内 容	3歳児の特徴の理解	
	授業内容	子ども理解（子どもの発達の特徴を知る）4歳児	
9回	学習成果	4歳児の特徴を捉えた関わりと日誌の記載ができる。	
	予習復習 の 内 容	4歳児の特徴の理解	
10回	授業内容	子ども理解（子どもの発達の特徴を知る）5歳児	
	学習成果	5歳児の特徴を捉えた関わりと日誌の記載ができる。	
11回	予習復習 の 内 容	5歳児の特徴の理解	
	授業内容	クラスの理解	
12回	学習成果	一人ひとりの子どもが集まった集団としてのクラスについて理解する。	
	予習復習 の 内 容	保育者のクラス運営の観察	
13回	授業内容	子どもへのかかわりの理解（援助の実際）	
	学習成果	配属クラスでの実際の子どもとの関りと考察を日誌に記載する。	
14回	予習復習 の 内 容	保育士の動き（関わり）の観察や質問	
	授業内容	指導計画についての学習	
15回	学習成果	全体の計画内容について理解し、説明できる。	
	予習復習 の 内 容	保育課程の理解	
16回	授業内容	指導計画の部分的な立案	
	学習成果	生活の一部分（絵本の読み聞かせなど）の指導案立案ができる。	
17回	予習復習 の 内 容	保育課程の理解	
	授業内容	子どもへのかかわりの実際	
18回	学習成果	日誌での省察・振り返り、ねらいに基づく記述ができる。	
	予習復習 の 内 容	ねらいの理解	
19回	授業内容	保育士の動き（関わり）を見据えた、実習生としての働き	
	学習成果	状況に応じた仕事をみつけて動くことができる。	
20回	予習復習 の 内 容	保育士の職務内容の理解	
	授業内容	保育の環境の整備	
21回	学習成果	保育に必要な素材等の整備ができる。	
	予習復習 の 内 容	食事、排泄、睡眠、清潔に必要な環境整備の理解	
22回	授業内容	保育所実習Ⅰの振り返り	
	学習成果	自己の課題を明確にした振り返りを日誌に記述し、反省会で自分の言葉で述べる ことができる。	
23回	予習復習 の 内 容	自己の実習の課題の理解	

科目名	保育実習Ⅰ（施設）					担当者	佐藤 万利子 ・ 山本 信 ・ 金野 麻衣					
区 分	選択	2	単位	授業回数	おおむね 10日	回	授業 形態	実習	学年	2年	開講期	通年
				授業時間数	90	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		短大のメールアドレス、および巡回訪問での直接のやりとりで実施する。										
専門的 学習成果	①	福祉施設の役割や機能を理解し、記述することができる。										
	②	観察や子どもと、利用者の関わりを通して子ども、利用者への理解を深め、考察できる。										
	③	既習の学習を踏まえ、子ども及び利用者への支援について総合的に理解する。										
	④	保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解し、計画の部分的な立案を実践する。										
	⑤	施設保育士の業務内容や職業倫理について理解し、行動する。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる知識や技術を習得し、自覚をしながら子どもの理解や支援ができる。（専門的学習成果①②③）										
	(2)	保育者として必要なコミュニケーション能力を有し、主体的、積極的行動実践ができる。（専門的学習成果②③⑤）										
	(3)	自己の課題を見出し、省察し、反省を踏まえて学び続けることができる。（専門的学習成果④）										
授業概要	施設実習を通して、福祉施設の役割と機能について学び既習の学習を踏まえながら、さらに子ども、利用者理解を深める。支援の実際に関し、子ども、利用者との関わりを通して障害の理解や健康・安全への配慮、環境等の工夫と福祉施設における保育士の役割について理解を深める。また、支援と指導計画、記録について理解し施設保育士の実際を学ぶ。実践を通して、職員間の連携、保護者支援の在り方、地域との連携、保育士の倫理について学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		レポート	10	事前事後指導における、各種提出物（事前学習、提出書類、自己評価、報告書など）にて総合的に評価する。								
		実習評価	80	実習における、巡回指導報告、並びに、実習先からの外部評価にて総合的に評価する。								
実習日誌等総合評価	10	事前事後指導などへの取り組み、実習時の実習日誌内容などを総合的に評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果（1）（2）（3）については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習成果①②③により評価を行う。 （2）は専門的学習成果②③⑤により評価を行う。 （3）は専門的学習成果④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
			『教育・保育実習ガイドブック』					聖和学園短期大学保育学科				
			『保育実習の手引き』					宮城県保育実習連絡協議会編				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
	厚生労働省		『保育所保育指針解説』					フレーベル館				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①この科目では時間外学習として、『保育所保育指針』『保育実習の手引き』の内容をよく理解しておくこと。また、ガイダンス内で示される指導案の作成等の課題に取り組むこと。 ②提出された課題は適宜フィードバックを実施する。それを基に教材研究など自主的に学びを進展させるようにすること。										

		授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	観察実習と利用者理解		1クール（1.2日目） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○利用者理解	
	学習成果	課題に基づき、子ども、利用者の姿を観察し利用者理解につなげることができる。			
	予習復習の内容	課題を振り返り、自分が取り組むべきことを明確にしておくこと。実習先の概要や一日の流れについて理解した上で実習初日を迎えること。			
2回	授業内容	参加実習および指導案の作成		2クール（3～5日目） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成	
	学習成果	参加実習を行う中で、実習担当者と討議し、見通しと予測を持って指導案を実施することができる。また、実施後の課題を具体的に挙げ、日々の保育と関連づけながら以降の実習に参加できる。			
	予習復習の内容	指導案の作成・実施にあたり、実習担当者と事前に十分な話し合いを行えるよう準備を進めること。			
3回	授業内容	部分実習を通じた指導案の実践および自らの保育の改善		3クール（6～9日目） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成・実施 ○保育の改善 教員による実習訪問指導	
	学習成果	子ども、利用者との関わりにおいて改善の視点を持ち、計画・実践・評価・改善のサイクルを実施することができる。			
	予習復習の内容	日々の活動の振り返りと、次の実践への計画を同時に進めることになるため、見通しを持って計画的に学びを整理しておくこと。			
4回	授業内容	実習のまとめおよび自らの課題への取り組みと改善		4クール（10日目） 実習先からの評価 ○実習全体を通じた評価 ○保育の改善	
	学習成果	実習全体を通じた自らの学習課題について具体的に挙げることもできるとともに、他者と共有・討議することができる。			
	予習復習の内容	実習全体を通して「できたこと・できなかったこと」についてまとめておくこと。また、それらを他者と共有できるように、具体的な言葉で表現できるようにしておくこと。			
5回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
6回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
7回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
8回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
9回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
10回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
11回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
12回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
13回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
14回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
15回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				

科目名	保育実習指導 I B (2年)				担当者	佐藤 万利子 ・ 山本 信 ・ 金野 麻衣						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に受け付ける。											
専門的 学習成果	①	保育実習の意義・目的を理解し、説明できる。										
	②	実習の内容を理解し、自らの課題を明確にできる。										
	③	実習施設における人権と、守秘義務等について理解し、実践できる。										
	④	観察、記録の方法や内容について具体的に理解し、実践につなげることができる。										
	⑤	実習の事後指導を通して、新たな課題や学習目標を明確にし、実践につなげることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる専門的知識と基礎的な技能の習得を踏まえ、保育実習の意義・目的を理解し、自らの課題を明確にして実践につなげることができる。(専門的学習成果①②④に関連)										
	(2)	人権と守秘義務等の専門職倫理について理解し、保育者の社会的役割を自覚して支援につなげることができる。(学習成果③に関連)										
	(3)	実践を振り返り自己の課題を客観的に見出し、解決に向け学び続けることができる。(学習成果⑤に関連)										
授業概要	実習の意義や目的を明確にするとともに、保育実習を行う上で必要な知識、観察や記録の方法および姿勢を獲得する。また、保育実習へ向けた目的意識と意欲を高める。観察実習・見学を振り返ることを通して、保育実習へ向けた授業などを通じて学びを深め、課題を明確にする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	事前事後指導における、各種提出物（事前学習課題、実習課題、自己評価、レポート等）で総合的に評価する。								
		実習評価	30	実習（保育所・施設実習）における、実習施設による評価、自己評価、専任教員の評価で総合的に評価する。								
	平常点	40	事前事後指導、事前事後学習への取り組みなどを総合的に評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価で評価する。 (1) は専門的学習成果①②④で評価する。 (2) は専門的学習成果③で評価する。 (3) は専門的学習成果⑤で評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	聖和学園短期大学保育学科	『教育・保育実習ガイドブック』										
	宮城県保育実習連絡協議会編	『保育実習の手引き』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	厚生労働省	『保育所保育指針』（平成29年3月告示）										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）										
		(解説書、関連図書含む)										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前に保育所保育指針の内容をよく理解しておくこと。また、関係する文献を調べるなどして、保育所保育、障害児保育、子育て支援について理解を深める事。保育実習 I（施設）については、実習施設の法的根拠、機能、役割、子ども、利用者について理解し、実習課題と目標を明確にできるようにしておく。(予習：週2時間程度)。 ②実習後は学習内容を整理し、疑問点を文献資料等で調べ理解する。また、自己評価を通して新たな課題、学習目標を明確にしておく(復習：週2時間程度)。											

授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	保育実習・保育実習指導について（復習）
	学習成果	保育士資格取得に係る保育実習と保育実習指導の内容（実習日数、科目単位数）を理解し、全体像を説明できる。
2回	予習復習の内容	指定保育士養成施設指定基準を読み、理解しておく。
	授業内容	保育実習 I（保育所実習）・保育実習 I（施設実習）の意義と目的
	学習成果	保育実習 I（保育所実習）・保育実習 I（施設実習）の意義と目的を理解し、説明できる。
3回	予習復習の内容	保育実習 I（保育所実習）・（施設実習）の意義と実習の流れ、目的、概要を理解しておく。
	授業内容	実習生としての心構え
	学習成果	実習生としての心構え、マナー、服装、言葉遣い、体調管理、お礼状の書き方等について理解し、実践できる。
4回	予習復習の内容	実習において基本となる社会人としての心構え、マナー等を調べて日常生活で実践する。
	授業内容	実習の事前準備
	学習成果	実習生調書、細菌検査証明書、誓約書等、実習に必要な手続き書類の作成、準備ができる。
5回	予習復習の内容	実習に必要な事務手続きを確認し、準備できるようにしておく。
	授業内容	事前訪問（実習打ち合わせ）について
	学習成果	事前訪問の手順と留意点、準備、確認事項の検討、訪問後の活動を理解し、実践できる。
6回	予習復習の内容	訪問日の検討から始まる実習打ち合わせについて、事前に整理理解しておく。
	授業内容	保育実習 I（保育所実習）の目的、内容、実際
	学習成果	保育所実習の目的、内容、子どもの発達、1日の流れ、実習の段階を理解し、説明することができる。
7回	予習復習の内容	実習ガイドブック、保育所保育指針、全国保育士会倫理綱領を読み、実習の目的、段階について説明できるようにしておく。
	授業内容	保育実習 I（保育所実習）の課題の明確化
	学習成果	これまで学んできた知識、技術と事前学習、事前打ち合わせの知識を踏まえ、実習課題・目標を設定できる。
8回	予習復習の内容	保育所について今まで学んだ知識と技術を整理し、実習課題と目標を設定できるようにしておく。
	授業内容	実習記録について
	学習成果	保育における記録の意義と目的を理解し、記録の技法を身につけ実践できる。
9回	予習復習の内容	専門行為としての記録の意義と目的、記録の基本について理解し、実践できるようにしておく。
	授業内容	実習における指導案の作成
	学習成果	実習における指導案作成の意味を理解し、保育の構想力・実践力の向上につなげることができる。
10回	予習復習の内容	指導案が保育課程の目標を具体化する指導計画であることを理解し、作成できるようにしておく。
	授業内容	保育実習 I（保育所実習）の振り返りと課題の明確化：ゼミ
	学習成果	保育実習 I（保育所実習）の学びを共有し、自己評価を通して課題を明確化し、実践にいかすことができる。
11回	予習復習の内容	グループで学びを共有し深める。自己評価を通して課題を明確にしておく。
	授業内容	保育実習 I（保育所実習）の振り返りと課題の明確化：実習報告会
	学習成果	実習報告書の作成を通して実習の総括を行い、学びを後輩に伝えることができる。
12回	予習復習の内容	実習報告書の作成を通して実習を振り返り、ポイントを押さえて後輩にわかりやすく伝えることができるようにしておく。
	授業内容	保育実習 I（施設実習）の目的、内容、実際
	学習成果	施設実習の目的、実習施設の種別、法的根拠、役割と機能、子ども・利用者の理解、1日の流れ、実習の段階を理解し、説明することができる。
13回	予習復習の内容	実習ガイドブック、児童福祉法、障害者総合支援法、運営指針等を読み、実習の目的、実習施設の役割等について説明できるようにしておく。
	授業内容	保育実習 I（施設実習）の課題の明確化
	学習成果	これまで学んできた知識、技術と事前学習、事前打ち合わせの知識を踏まえ、実習課題・目標を設定できる。
14回	予習復習の内容	これまで学んできた知識と技術を整理し、実習課題と目標を設定できるようにしておく。
	授業内容	保育実習 I（施設実習）の振り返りと課題の明確化：ゼミ
	学習成果	保育実習 I（施設実習）の学びを共有し、自己評価を通して課題を明確化し、実践にいかすことができる。
15回	予習復習の内容	グループで学びを共有し深める。自己評価を通して課題を明確にしておく。
	授業内容	保育実習 I（施設実習）の振り返りと課題の明確化：実習報告会
	学習成果	実習報告書の作成を通して実習の総括を行い、学びを後輩に伝えることができる。
予習復習の内容	実習報告書の作成を通して実習を振り返り、ポイントを押さえて後輩にわかりやすく伝えることができるようにしておく。	

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）				担当者	中 島 恵 ・ 宮 本 美和子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	ゼミ担任のオフィスアワー及びe-mailに連絡する。オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。											
専門的 学習成果	①	履修カルテやこれまでの学習の振り返りを通じて自らの課題を見つけ、解決していく力を身に付け、実践することができる。										
	②	これまで学んだ保育に関する学習を総合化し、保育実践力を身に付け、他者と共同しながら実践発表ができる。										
	③	コミュニケーション力や対人関係の人間の総合力を高め、グループ活動や保育実践ができる。										
	④	事例研究を通して保育に関する知識と理解を深め保育者としての資質向上を図ることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者として必要とされる幅広い教養を身に付け、自ら課題を見出すことができ、学びに向かい探求することができる。（専門的学習成果①④）										
	(2)	保育者として他者と協調、協働し地域社会の中で主体的、積極的行動がとれる。（専門的学習成果②③）										
授業概要	実習など、これまでの学業を通して得られた自らの課題に向き合い、その解決に取り組む授業とする。保育の場における今日の課題を取り上げ、グループ討議・事例研究・ロールプレイング・フィールドワーク等多様な演習を通して学びを深めていく。具体的には、保育実践力・保護者理解とその連携・協力の重要性を学ぶ。さらには実習中に興味関心を持った事例について事例研究を行い、発表と討議の機会を持ちレポートにまとめることで、保育者となることの意欲を高めるとともに保育者の置かれている現状や果たすべき役割について学ぶ。また、1年生前期から実施している履修カルテを継続して作成し、その内容の点検を通して自らの資質能力を確認し、課題の明確化を図る。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	50	エピソード記録からのテーマに沿ったレポート内容及び引用文献の利用により評価する。								
		発表	40	協働性や保育実践の発表の内容により評価する。								
	平常点	10	グループ活動やロールプレイへの取り組み、意欲、態度により評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・④にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②・③にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『幼稚園教育要領』				フレーベル館						
		『幼稚園教育要領解説』										
		『保育所保育指針』										
		『保育所保育指針解説』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『保育実践研究抄録集』聖和学園短期大学保育学科				聖和学園短期大学保育学科						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①子どもを取り巻く環境の変化に伴い、一人ひとりの発達段階と個々の状況に応じた教育・保育を構想・計画し、多様な能力の発達を支援できる保育者の育成を求められるため、新聞等を通じて様々な社会の出来事に関心を持つこと。特に事例研究では、文献等を読み込み乳幼児理解・教科に関する基礎知識を学ぶ。（予習2時間程度）事後学習としては、保育実践研究のレポートについてその都度フィードバックをするので、さらに文献を選択し、読み理解を深める（復習：週2時間程度）。 ②事例研究のロールプレイでは、学生同士の対話的なその後の発言から自己の課題を明確にし保育実践力につなげていく。実践研究レポートについては、ゼミ担任からその都度添削を受け、研究の手法を身につけながら完成させる。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーションと履修カルテの作成	
	学習成果	教職実践演習の内容を理解し、履修カルテを作成することができる。	
2回	予習復習の内容	2年前期からの履修カルテを見直し、自己の課題について理解する。	
	授業内容	これまでの学習の振り返り	
3回	学習成果	履修カルテやこれまでの学習の振り返りを行い、自己の課題を示すことができる。	
	予習復習の内容	1年前期からの履修カルテを見直し、自己の課題および保育者としての課題について理解する。	
4回	授業内容	事例研究「実習中のエピソードをもとにグループ討論」(1) 保育者の役割・子どもに対する責任	
	学習成果	エピソード記録から考察した、保育者の役割や子どもに対する責任などについて説明できる。	
5回	予習復習の内容	エピソード記録内容の記載を充実させておく。（日誌などを参照）	
	授業内容	事例研究「実習中のエピソードをもとにグループ討論」(2) 幼児理解やクラス経営	
6回	学習成果	エピソード記録から考察した、幼児理解やクラス運営について説明ができる。	
	予習復習の内容	エピソード記録内容の記載を充実させておく。（日誌などを参照）	
7回	授業内容	事例研究「実習中のエピソードをもとにグループ討論」(3) 教科・保育内容等の指導力	
	学習成果	エピソード記録から考察した、教科・保育内容の指導力について説明ができる。	
8回	予習復習の内容	エピソード記録内容の記載を充実させ、図書館で文献を選んでおく。	
	授業内容	事例研究発表とまとめ プレゼンテーション	
9回	学習成果	エピソード記録の内容を考察し、自分自身のテーマを取捨選択することができる。	
	予習復習の内容	エピソード記録内容の記載を充実させ、図書館で文献を選び、考察をする。	
10回	授業内容	実習中の保護者とのコミュニケーション	
	学習成果	実習中の保護者とのコミュニケーションについてまとめ、発表ができる。	
11回	予習復習の内容	実習中の保護者とのコミュニケーションについてまとめ記述しておく。	
	授業内容	ロールプレイングを通じた保護者理解	
12回	学習成果	事例に基づいたロールプレイを実施し、保護者の状況や気持ちの理解ができる。	
	予習復習の内容	ロールプレイを実施した後のレポートをまとめる。	
13回	授業内容	ロールプレイングを通じた保育者の役割理解	
	学習成果	事例に基づいたロールプレイを実施し、保育者の状況や気持ちの理解ができる。	
14回	予習復習の内容	ロールプレイを実施した後のレポートをまとめる。	
	授業内容	保育者の現状と役割 現職保育者の講話・ディスカッション	
15回	学習成果	保育者の現状と役割を理解し、自分自身の課題を明確にできる。	
	予習復習の内容	講話の内容をまとめ、自分自身の課題を含めてレポートを作成する。	
16回	授業内容	保育実践 フィールドワークを通して小学校教育との接続を理解する	
	学習成果	グループのメンバーと協働し、テーマに沿った指導計画立案と役割を遂行できる。	
17回	予習復習の内容	子どもの発達と興味に合わせた活動計画を立案する。	
	授業内容	保育実践研究作成 (1) 保育実践研究作成の意義と目的	
18回	学習成果	保育実践研究の意義と目的を理解し、レポート作成の作業ができる。	
	予習復習の内容	図書館で文献を選ぶ。	
19回	授業内容	保育実践研究作成 (2) 保育実践研究作成の実際 研究の手法を学ぶ	
	学習成果	保育実践研究を、文献と照らし合わせながら考察を深めることができる。	
20回	予習復習の内容	図書館で文献を選ぶ。	
	授業内容	保育実践研究報告	
21回	学習成果	保育者のおかれている現状の理解や果たすべき役割について、保育実践報告としてまとめることができる。	
	予習復習の内容	実践研究レポートの作成。	
22回	授業内容	資質能力の確認、まとめ 履修カルテの振り返りを通して学習成果の点検を行う	
	学習成果	履修カルテの振り返りを通して、保育者としての資質について課題を理解する。	
23回	予習復習の内容	実践研究レポートの作成。（抄録）	

科目名	ICT 演習				担当者	飯 島 典 子 ・ 小森谷 一 朗						
区 分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問や要望等については授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	ICT とは何かを説明できる。										
	②	保育所や幼稚園で ICT がどのように活用されているか説明できる。										
	③	保育所や幼稚園での ICT 利用法を考え、ICT の基礎的な技術を身につけて実践に活用できる。										
	④	幼児教育における ICT の効果やデメリットについて考え、授業や教材へ活用できる。										
汎用的 学習成果	(1)	パソコンの操作等に関する知識だけではなく、情報そのものを使いこなすことができる。(専門的学習成果①②③)										
	(2)	社会で求められる情報活用の基礎力を身につけ、積極的に活用することができる。(専門的学習成果②③④)										
	(3)	代表的な ICT 機器 (パソコン、スマホ、タブレット等) の基本操作ができ、連携して活用する能力を身につけ、保育実務等に活用できる。(専門的学習成果③④)										
授業概要	社会全般の情報化が急速に進み、パソコンだけではなくその他の情報機器が使いやすく進歩していく中で、パソコンの操作等に関する知識だけではなく、情報そのものを使いこなすことが不可欠になってきている。その中で必須となる基礎的な ICT 利活用力を身につけることを学ぶ。Office ソフトを使用するの保護者へのお知らせや日誌等のプリント作成だけではなく、ICT を利用した行事記録の作成、教材作成、授業への応用ができることを学ぶ。Office の Word、Excel、PowerPoint については日常的に使いこなしていることが前提で、授業では応用レベルの機能をいかに活用するかを学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	40	筆記試験・実技試験を2回実施し、評価を行う。								
		課題	30	指示、内容、提出、独創性で評価する。								
	平常点	30	授業および課題・グループワークへの態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果③④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名			出版社名							
	授業ごとに資料を配布する。											
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名			出版社名							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業で作成した課題等は USB フラッシュメモリに保存するので、各自準備しておくこと。ICT に関する一般的な知識だけではなく、各自の実習先の保育所や幼稚園において ICT の利用や活用にあたる事例があったかどうか説明できるようにしておく。事後学習として、授業内で理解できなかったことについては次回までに調べて解決しておくこと。小テスト (筆記・実技) に向けた授業の復習をすること。 ②小テストは実施後に正解を示し、解説を行う。課題はグループ発表形式で実施するので、発表内容と合わせてフィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス。パソコンを使用し ICT についての情報収集。	小テスト①筆記：3回目に実施。ICT に関する基礎知識。	
	学習成果	ICT、ネット検索、eメール、デジタルデータを理解し説明できる。		
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。		
2回	授業内容	Word お知らせ文書の作成		
	学習成果	デジタルデータ (写真、スクリーンショット等) の活用ができる。		
	予習復習の内容	事前に指示される写真データを準備しておく。		
3回	授業内容	Excel 関数機能。		
	学習成果	複雑な計算方法を活用し、データの加工、集計結果を適切に表現する方法を理解する。		
	予習復習の内容	使用するデータを事前に入力し、準備する。		
4回	授業内容	Word・Excel データの共有		
	学習成果	Word 文書に Excel データ (表やグラフ) を活用できる。差し込み印刷ができる。		
	予習復習の内容	使用する Word 文書を指示に従い、事前に完成させておく。		
5回	授業内容	デジタルシアターの作成① Microsoft PowerPoint		小テスト②実技：5回目に実施。Word・Excel・デジタルデータの相互活用。
	学習成果	使用素材 (デジタルデータの取り込み、タブレットで絵を描く) を準備できる。		
	予習復習の内容	グループ毎に、絵本の内容や対象年齢、どのようなデータを使用するか話し合っておく。		
6回	授業内容	デジタルシアターの作成② Microsoft PowerPoint		
	学習成果	使用素材 (音楽データ) の編集ができる。		
	予習復習の内容	使用する音源 (ピアノ、歌等) をスマートフォンを使用し準備しておく。		
7回	授業内容	デジタルシアターの完成。 Microsoft PowerPoint		
	学習成果	デジタルシアターの音楽再生のタイミングや画面の切り替えを設定出来る。		
	予習復習の内容	操作を繰り返し練習しておく。使用素材の著作権等について確認を行う。		
8回	授業内容	デジタルシアター作品の発表 Microsoft PowerPoint		
	学習成果	デジタルシアター作品発表と鑑賞、評価、グループ毎の成果を確認できる。		
	予習復習の内容	鑑賞する側の集中力が高まるような発表を目指し、グループ毎に入念なりハールサルを実施しておく。		
9回	授業内容			
	学習成果			
10回	授業内容			
	学習成果			
11回	授業内容			
	学習成果			
12回	授業内容			
	学習成果			
13回	授業内容			
	学習成果			
14回	授業内容			
	学習成果			
15回	授業内容			
	学習成果			

科目名	全体的な計画の作成と理解				担当者	コモリマ イチロウ 小森谷 一 朗						
区 分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワー及びemailにて受け付ける。オフィスアワー及びemail addressは初回の授業時に連絡する。											
専門的 学習成果	①	教育・保育における計画の意義と役割について理解し、説明することができる。										
	②	乳幼児の発達過程について理解し、発達過程に即した計画の重要性について説明することができる。										
	③	子どもの実際の姿を捉え、保育の連続性や子どもの発達の連続性について理解し、見通しをもった保育を構想することができる。										
	④	保育の構想に基づき、ねらいと意図をもった保育計画の作成に取り組むことができる。										
	⑤	保育計画について、他者と協同的に改善に向けたカンファレンスを行うことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における保育の必要性の高まりを理解し、実践において必要とされる専門的知識や理論の基礎について説明することができる。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	他者と協同的に学び合い、実践することができるとともに、協動的な関係性の構築に向けて、自ら協力的に体制づくりに参加することができる。(専門的学習成果⑤)										
授業概要	教育課程・全体的な計画についてその意義や役割について理解する。また、具体的な教育課程・全体的な計画を基にした長期・短期の指導計画の役割や全体的な計画との関連性について理解する。加えて、指導計画を立てる際に必要な保育の連続性や子どもの発達についての理解も深める。これらを基にして、保育におけるねらいや計画とその構想、立案の方法について知り、学びを深める。構想した保育の計画・作成・立案に取り組み、他者と協同しながら改善に向けたカンファレンスを実践し、保育計画のブラッシュアップを図る。幼稚園教諭、小学校教諭としての実務経験をともに実際の教育・保育目標及び保育内容や計画を紹介しながら授業を展開し、学生が自ら指導計画の立案ができることを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		リアクシ ンペー パー	32	授業内容を踏まえたリアクションペーパーの内容を評価する。(＠4点×8回)								
		ワークシ ート	8	授業内で取り組むワークシートの内容を評価する。(＠4点×2回)								
		指導計 画	30	作成した指導計画を評価する。								
	汎用的 学習成果	指導案	30	作成した指導案を評価する。								
汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は、専門的学習成果①・②・③・④にて評価を行う。 (2)は、専門的学習評価⑤にて評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名		出版社名								
	文部科学省	『幼稚園教育要領』		フレーベル館								
	厚生労働省	『保育所保育指針』		フレーベル館								
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』		フレーベル館								
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
	飯島典子・本郷一夫 編著	『子どもの理解と援助』		建帛社								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。指導計画の構想や立案、作成、報告等が中心となるため、授業外での学習は必須となる。指導計画作成に伴う事前調査等についても各自の課題として取り組むこと。また、各自の学習進度の応じた取組となるため学生の主体的な取組に期待する。 【事前学習（予習）】 事前に指示した内容、事前配布資料などを読み、分からない言葉は調べておくこと。また、指導計画に関連する内容については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと。 【事後学習（復習）】 毎回の学習内容を振り返りを行い、要点や疑問点、課題などについてまとめておくこと。 ②フィードバックについては以下の通りとする。 【指導計画】【指導案】実施後に授業の中で模範となる例を示し、解説する。 【リアクションペーパー】【ワークシート】実施後に記述のポイントとなる点を授業の中で解説する。											

		授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	教育課程・全体的な計画と指導計画		【リアクションペーパー①】	
	学習成果	教育課程・全体的な計画や指導計画について理解するとともに、それらの関係性についての理解を深め、説明することができる。			
	予習復習の内容	予習：シラバスを読み、分からない言葉は調べ、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。			
2回	授業内容	子どもにとっての遊び		【リアクションペーパー②】	
	学習成果	子どもにとっての遊びとはどのような意味があるのかについて理解を深め、遊びの分類や夢中度について説明することができる。			
	予習復習の内容	予習：シラバスを読み、分からない言葉は調べ、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。			
3回	授業内容	保育構想		【リアクションペーパー③】 【ワークシート①】	
	学習成果	環境を通した保育の重要性について理解し、保育を自分なりに構想することができる。			
	予習復習の内容	予習：シラバスを読み、分からない言葉は調べ、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。			
4回	授業内容	指導計画とストラテジー		【リアクションペーパー④】	
	学習成果	保育構想を基に、そこに織り込まれる保育者の意図を考えながら、保育ストラテジーの立案に取り組むことができる。			
	予習復習の内容	予習：事前に関係する文献を読み理解を深めておく。 復習：指導計画については、各自の学習進度の応じて取り組む。			
5回	授業内容	指導計画と教材研究		【リアクションペーパー⑤】	
	学習成果	指導計画において適切なねらいとそれに基づく内容を定めることができるとともに、子どもの姿に即した指導計画の作成に取り組むことができる。			
	予習復習の内容	予習：事前に関係する文献を読み理解を深めておく。 復習：指導計画については、各自の学習進度の応じて取り組む。			
6回	授業内容	指導計画と環境構成		【リアクションペーパー⑥】 【指導案】	
	学習成果	子どもの姿を捉え、教材研究を基にした指導案の立案に取り組むことができる。			
	予習復習の内容	予習：事前に関係する文献を読み理解を深めておく。 復習：指導計画については、各自の学習進度の応じて取り組む。			
7回	授業内容	指導計画の交流・改善		【リアクションペーパー⑦】 【ワークシート②】	
	学習成果	指導計画を報告し、改善のためのカンファレンスに取り組むとともに、他者に対して改善のためのアイデアを提案することができる。			
	予習復習の内容	予習：事前に関係する文献を読み理解を深めておく。 復習：指導計画については、各自の学習進度の応じて取り組む。			
8回	授業内容	ドキュメンテーション		【リアクションペーパー⑧】 【指導計画】	
	学習成果	ドキュメンテーションの意義や役割について理解を深め、作成に取り組むことができる。			
	予習復習の内容	予習：事前に関係する文献を読み理解を深めておく。 復習：指導計画については、各自の学習進度の応じて取り組む。			
9回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
10回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
11回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
12回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
13回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
14回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
15回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				

科目名	保育内容 A				担当者	イワナ 岩淵	セツコ 榎子	コンノ 金野	マイ 麻衣	ヤマモト 山本	マコト 信	
区分	選択必修	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	後期
授業時間数	30											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	konno.mai@seiwa.ac.jp, iwabuchi.setsuko@seiwa.ac.jp, yamamoto.makoto@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	領域の総合化を具体的に理解した上で、子どもの遊びが主体的なプロセスの中で工夫されるために必要な環境を構成するための準備ができる。										
	②	年齢・発達に応じた遊びの在り方と適切な援助方法を理解し、計画することができる。										
	③	心動かされる体験やさまざまな刺激から、豊かな感性や想像力、表現力が養われるような遊びを構築するための準備ができる。										
	④	模擬保育の実践と振り返りにより自ら創造した保育を説明するとともに、課題を見出し再計画することができる。										
	⑤	グループワークによる模擬保育の実践、ドキュメンテーション作成を通して、保育者に必要とされる協働性を高め、実践的な保育計画を立案することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	グループワークによる保育計画の立案及び模擬保育の実践を通して、保育者として必要なコミュニケーション能力を高め、主体的、積極的に行動できる。(専門的学習成果②④⑤に関連)										
	(2)	子どもの主体的な遊びへとつながる行事活動を中心とした保育計画を立案することにより、保育者の社会的役割を自覚し、保育の実践につながるができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	自ら創造した保育を説明することにより、自己の課題を客観的に見出し、解決に向け学び続けることができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	生活や行事、遊びを通した総合的な保育内容の考案と指導方法についてカリキュラムデザインを踏まえて実践的に学ぶ。子どもの遊びを通して思考力や想像力を養い、他者と協働することや環境への関わり方などについても体得している。具体的には、外部施設への遠足行事を中心として事前指導を含む保育計画を立案し、指導法の検討を行う。実際に外部施設の下見を行い、ICT機器を活用して企画書、しおり、おたより、ドキュメンテーションを作成し、グループごとに模擬保育を行う。行事と遊びを通した保育内容の理解をまとめとして行い、子どもの資質能力を育むための活動を発展させていくことのできる保育実践力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	35	行事と遊びを通した保育内容の理解ができているかについて3回の発表時の資料(5%×3回=15%)及び最終データ報告書(20%)により、評価を行う。								
		発表	45	保育計画の中間プレゼン、模擬保育とプレゼン、ドキュメンテーションのプレゼンの3回の内容により評価を行う。(15%×3回=45%)								
		活動への参与	20	授業への取り組み・意欲・態度により評価を行う。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は、専門的学習成果②④⑤にて評価を行う。 (2)は、専門的学習成果①②③にて評価を行う。 (3)は、専門的学習成果④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名		出版社名								
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
	文部科学省	『幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説』										
	厚生労働省	『保育所保育指針・保育所保育指針解説書』										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①時間外学習として、計60時間程度が必要になる。グループごとに計画を立て、取り組むこと。幼稚園教育要領及び保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の保育内容5領域の復習、遊びの題材に関する情報収集 (ICT機器の活用含む)、教材研究を行うこと。受講に当たっては自主的に学びを発展させるようにすること。なお、外部施設への移動等の費用は各自負担となる。 ②プレゼンテーション及び模擬保育実施後に、担当者による講評を行う。											

授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、保育内容領域とカリキュラム中の行事について、グループ分け
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。
	予習復習の内容	参考文献から5領域について復習しておく。ICT機器等を活用して遠足行事についての情報や次回までに必要な内容を調べておく。
2回	授業内容	外部施設への遠足行事を中心とした保育計画(事前指導ふくむ)の概要をまとめ、グループ内の役割分担を決定する。A:保育計画(事前おたより、行事後の模擬保育)、B:企画担当(家庭用・園用しおり、企画書、反省報告書)、C:保育計画(事前指導、ドキュメンテーション)
	学習成果	グループワークに積極的に参加し、具体的な保育計画の立案に関わることができる。
	予習復習の内容	各自の担当部分について、調べた内容を中間プレゼンに向けて整理する。
3回	授業内容	それぞれの担当の保育計画の立案。ありきたりではない模擬保育実践を目指す。
	学習成果	保育計画の立案から、事後の指導と記録まで見直しをもって計画を立てることができる。
	予習復習の内容	次回のプレゼンテーションに向けた準備を行う。
4回	授業内容	中間プレゼンテーション(各グループ15分×3)保育計画等の見直しと下見に向けた打ち合わせ
	学習成果	ICT機器を利用して、保育計画の中間プレゼンテーションを行うことができる。
	予習復習の内容	他グループの発表からの学びを取り入れ、保育計画の見直しをする。
5回	授業内容	外部施設の下見①保育者が行事の下見に行く場合に確認しなければならない点を踏まえて行う。
	学習成果	行事の下見において確認すべき内容は何か把握し、リストの作成と確認ができる。
	予習復習の内容	下見において確認すべき内容をストップしておく。
6回	授業内容	外部施設の下見②自動車とふれあい、子どもたちに何を体験させたいのかを考える。
	学習成果	子どもたちに体験させたい内容を具体的に述べる事ができる。
	予習復習の内容	豊かな体験となるように必要な事項をまとめておく。
7回	授業内容	外部施設の下見③立案した保育計画を検証しながら下見を行う。
	学習成果	立案した保育計画の見直しすべき点、課題を発見することができる。
	予習復習の内容	発見した課題を記録しておく。
8回	授業内容	下見の結果を踏まえ、保育計画中の各担当の内容の見直しと確認
	学習成果	グループ内で協力して保育計画及び企画書の見直しを行うことができる。
	予習復習の内容	グループごとに見直した結果を共有し、模擬保育実践とプレゼンに向けて方向性を決定する。
9回	授業内容	事後指導の模擬保育実践の準備、おたより・しおり・企画書のプレゼンの準備
	学習成果	模擬保育実践の準備に主体的に関わり、おたより・しおり・企画書プレゼン準備についても自分の意見を述べる事ができる。
	予習復習の内容	模擬保育のロールプレイに向けて必要な材料を揃える。企画書・おたより・しおり等のプレゼンに向けた準備を行う。
10回	授業内容	模擬保育のロールプレイ、おたより・しおり・企画書・反省報告書等のプレゼンの準備
	学習成果	模擬保育のロールプレイに積極的に参加することができる。
	予習復習の内容	ロールプレイにより見えた課題を実践まで解決する。おたより・しおり・企画書・反省報告書等を完成させる。
11回	授業内容	グループ①模擬保育実践、作成したおたより・しおり・企画書等のプレゼン、グループ②③は模擬保育に子ども役で参加する
	学習成果	模擬保育実践において、グループで考えた行事後の保育を実践できる。
	予習復習の内容	自グループの発表に向けた準備と、他グループの発表を振り返りまとめる。
12回	授業内容	グループ②模擬保育実践、作成したおたより・しおり・企画書等のプレゼン、グループ①③は模擬保育に子ども役で参加する。
	学習成果	模擬保育実践において、グループで考えた行事後の保育を実践できる。
	予習復習の内容	自グループの発表に向けた準備と、他グループの発表を振り返りまとめる。
13回	授業内容	グループ③模擬保育実践、作成したおたより・しおり・企画書等のプレゼン、グループ①②は模擬保育に子ども役で参加する。
	学習成果	模擬保育実践において、グループで考えた行事後の保育を実践できる。
	予習復習の内容	自グループの発表に向けた準備と、他グループの発表を振り返りまとめる。
14回	授業内容	自グループの模擬保育実践のドキュメンテーション作成、発表準備。
	学習成果	模擬保育実践をドキュメンテーションにまとめる作業に積極的に関わることができる。
	予習復習の内容	ドキュメンテーションを完成させ、データにまとめる。
15回	授業内容	まとめ 模擬保育のドキュメンテーション発表、データおよび作成物提出。行事と遊びを通した保育内容の理解
	学習成果	行事と遊びを通した保育内容を理解し、言葉で説明できる。
	予習復習の内容	これまでの学習内容の振り返りを行い、自らの学習成果に対して具体的な評価を行う。

科目名	保育内容 B				担当者	中島 恵 ・ 佐藤 万利子 ・ 小森谷 一朗						
区 分	選択必修	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	2 年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスマワーは初回の授業時に連絡する。 e-mail:nakajima.megumi@seiwa.ac.jp, sato.mariko@seiwa.ac.jp, komoriya.ichiro@seiwa.ac.jp										
専門的 学習成果	①	自らが遊びこむことを通して、「遊び」の意味を理解し、説明できる。										
	②	「遊び」こむ実体験の中から、保育内容の5領域の意義を理解し、説明できる。										
	③	「遊び」における表現と伝えあいを、保育5領域の総合化を通して理解し、実践できる。										
	④	幼児の発達・成長を考えながら「遊び」を発展させていく力を獲得できる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる保育内容の5領域を理解し、保育現場における必要な基礎的知識・技能を身につけ、活用することができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	子どもの発達や成長を促す造形表現力、音楽表現力、身体表現力を習得し、実践できる。(専門的学習効果③④に関連)										
	(3)	保育者として必要なコミュニケーション能力を有し、子どもの意欲的な活動を支援することができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	津守真は、幼児の遊びの世界の、人間の精神の発達における意味を認識することの大切さを述べている。この授業では、表現し、伝え合い、展開していく「遊び」を自らが遊びこむ体験を通して、その意味を理解する。「遊び」が保育内容の5領域によって形作られていることを体験的に理解し、特に表現の多様性、様々な要素によって伝えあい、発展していくことを学ぶ。言葉遊び、素話、劇遊び、音楽劇等、表現と伝えあいによる広がりを通して「あそび」を発展させていく力を獲得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	各表現活動を振り返り、保育の全領域にまたがる総合的な活動の理解を観点に評価を行う。各10%を3回実施する。								
		発表	50	劇遊び上演に向けての練習、話し合い、発表までの過程の取り組み方と発表の内容により評価を行う。各25%を2回実施する。								
	平常点	20	表現活動や発表への取り組み、意欲、態度を評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③④で評価を行う。 (3) は専門的学習効果④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	文部科学省		『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）									
	厚生労働省		『保育所保育指針』（平成29年3月告示）									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習していただくこと。(予習：週2時間程度)事後学習としては、レポートを実施し、その内容を評価の対象とするので、復習をしっかりとすること。(復習：週2時間程度) ②練習過程と発表に対するフィードバックは実施後に、映像機器を活用して振り返り、講評を行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1 回	授業内容	保育内容 B の授業内容、目的と計画		○レポート 素話と5領域の関わりを認識し理解を深める。
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。		
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。オリエンテーションの内容を踏まえて学習計画を立てる。		
	授業内容	言葉による表現①素話を学ぶ		
2 回	学習成果	素話の概要を知り、講演を聞く。素話の実践活動は、子どもの聴く力、想像力、考える力、集中力が育つことを理解する。		
	予習復習の内容	素話の題材を選び、原稿を声を出して読みながら内容をイメージする。		
3 回	授業内容	言葉による表現②素話を語る		
	学習成果	素話に表情を付け声の抑揚を変えながら語り、聞き手に物語のイメージを伝えることができる。		
	予習復習の内容	幼児のための素話（昔話）8話の内容を楽しみながら理解を深める。		
	授業内容	音楽劇（子供と一緒に音・音楽・物語りで楽しむ）について①題材の選択		
4 回	学習成果	複数の音楽劇上演映像、テープを脚本を見ながら視聴することで理解し、演目の選択ができる。		
	予習復習の内容	保育者が子どもと共に楽しみながら5領域を育むために音楽劇のねらいを考える。		
5 回	授業内容	音楽劇について②配役・担当の配置		
	学習成果	上演する音楽劇の配役（登場人物・ナレーター・司会）音楽、担当（音楽・衣装・大道具）を決定できる。		
	予習復習の内容	決定した上演演目の脚本を読み込み、物語のイメージを広げる。		
	授業内容	幼稚園劇遊びに向けて（1）		
6 回	学習成果	3グループ（3歳児・4歳児・5歳児）の発達に合わせた脚本の劇遊びを選択することができる。		
	予習復習の内容	発達段階に合わせて劇遊び脚本の「ねらいと内容」を考え、育みたい資質・能力を「幼稚園教育要領」の領域で確認する。		
7 回	授業内容	幼稚園劇遊びに向けて（2）		
	学習成果	劇遊びの構成・演出・振付を、子どもが表現を楽しめるよう「ねらい」に照らし合わせて考え組み立てることができる。		
	予習復習の内容	決定した3グループ（3・4・5歳児）向けの上演演目の脚本を読み込み、物語のイメージを広げる。		
	授業内容	幼稚園での劇遊びによる表現（3）		
8 回	学習成果	劇遊びの中で、子ども自身も登場人物になって楽しめる活動を考え計画できる。		
	予習復習の内容	劇遊びから劇ごっこ（子ども参加型の劇遊び）への保育の展開を考える。		
9 回	授業内容	幼稚園での劇遊びの実践（4）【3クラス（3・4・5歳児）に分かれて演じる】		○発表 習得した知識や技能を活かして、聖和幼稚園で劇遊びを実践する。
	学習成果	学習した造形表現力、音楽表現力、身体表現力を発揮して劇遊びを実践できる。		
	予習復習の内容	脚本・演出を確認して衣装、小道具の準備等、グループで仲間との協働作業をする。		
	授業内容	音楽劇③劇の演出を考える		○レポート 劇遊びの実践から遊びと5領域の関りの理解を深める。
10回	学習成果	劇遊びの経験から得た課題を基に、音楽劇の表現力を高めるための工夫を考え計画できる。		
	予習復習の内容	幼稚園で実践した劇遊びを振り返り、課題を抽出する。		
	授業内容	音楽劇④歌と表現での劇世界を考える		
11回	学習成果	各担当（登場人物、音楽、ナレーター）で演出や表現方法を話し合い独自の音楽劇を創作することができる。		
	予習復習の内容	脚本・演出を確認、考察して、グループで仲間との協働作業をする。		
12回	授業内容	音楽劇⑤演じることを楽しむ		
	学習成果	子どもと共に、歌って踊って役になりきって楽しめるように演じることができる。		
	予習復習の内容	衣装、小道具の製作準備等を仲間と協働作業をする。		
	授業内容	音楽劇の上演に向けて		
13回	学習成果	練習をビデオで撮影して客観的に見ることで、演技や表現を振り返り、修正できる。		
	予習復習の内容	音楽劇を通して、子どもが音楽や表現することの楽しさを味わえるよう考える。		
14回	授業内容	まとめ		○レポート 素話、劇遊び、音楽劇が全領域に関わり、子どもの成長を育むことの理解を深める。
	学習成果	「遊び」は保育の全領域にまたがる総合的な活動で、子どもの発達や成長を育むことを理解し、実践できる。		
	予習復習の内容	素話、劇遊び、音楽劇の5領域との関係をまとめる。		
	授業内容	音楽劇上演		○発表 習得した知識や技能を活かして、イズミティ「母と子のロビーコンサート」で音楽劇を実践する。
15回	学習成果	学習した造形表現力、音楽表現力、身体表現力を発揮して音楽劇を実践できる。		
	予習復習の内容	心身ともにコンディションを整えて、音楽劇の発表に臨む。		

科目名	保育内容 C				担当者	佐々木 貴弘 ・ 宮本 美和子 ・ 君島 智子						
区 分	選択必修	2	単位	授業回数	15	回	授業	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間	形態					
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワー及び e-mail:miyamoto.miwako@seiwa.ac.jp,sasaki.takahiro@seiwa.ac.jp, kimijima.tomoko@seiwa.ac.jp オフィスアワーは初回の授業時に連絡する										
専門的 学習成果	①	伝承遊びと子どもの発達段階との関係を理解し保育を計画することができる。										
	②	遊びの伝承性について理解し、その為に必要な環境について実践から理解し説明することができる。										
	③	遊びにおける表現と伝えあいを5領域の総合化を通して理解し説明することができる。										
	④	適切な援助方法や学びの連続性を理解し保育を展開できる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる専門的知識と基礎的な技能を習得し、実践につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	保育者の社会的役割を自覚し、豊かな感性や想像力、表現力をもって、子どもの理解や支援ができる。(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	幅広く教養を身につけ保育者及び社会人として、地域社会で活用することができる。(専門的学習成果③に関連)										
	(4)	保育者及び社会人として、必要なコミュニケーション能力を有し、自ら主体的、積極的行動がとれる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	子どもの成長は、さまざまな保育の営みや取り組みによって大きく影響される。ここでは、昔から感性を培う上で重要とされてきた遊びの文化を取り上げ、子どもと伝承遊びに着目し、遊びのもつ表現方法、伝え合いの意味、それらで深化する人間関係の変化について、受講者それぞれの感性による気づきを通して発見的に学んでいく。また、グループ活動を中心に、実際に伝承遊びを体験し、その活動内容から学び得た事を基に、互いに学び合い、伝え合い、遊び込む経験を通して、伝承遊びと子どもの成長、及び学びの連続性について、理論的および実践的な面から総合的に理解を深める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	40	伝承遊びについての理解できているかを観点に評価する。								
		発表	40	伝承遊びによる実践内容が子どもの成長に沿うものであったか、また実践の中での子ども達の理解度から評価する。								
汎用的 学習成果	平常点	20	授業への取り組み・意欲・態度を評価する。									
汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習評価の評価により評価を行う。 (1) 汎用的学習評価①で評価を行う。 (2) 汎用的学習評価②で評価を行う。 (3) 汎用的学習評価③で評価を行う。 (4) 汎用的学習評価④で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	聖和学園短期大学保育学科		『保育指導法実践研究報告書』						郵辨社			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	鈴木敏朗・本間雅夫		『わらべうたによる音楽教育』						自由現代社			
	小川清実		『子どもに伝えたい伝承遊び 起源・魅力とその遊び方』						萌文書林			
	厚生労働省		『保育所保育指針』（平成29年3月告示）						厚生労働省			
	厚生労働省		『保育所保育指針解説』						フレーベル館			
	文部科学省		『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）						文部科学省			
	文部科学省		『幼稚園教育要領解説』						フレーベル館			
内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）						内閣府・文部科学省・厚生労働省				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。配布資料による事前学習、事後学習を行うこと。(週2時間程度) 授業の中で作成する指導案、授業後のレポートなどはしっかりとまとめ、期限を守って提出すること。 ②レポート、指導案に対するフィードバックは提出後に解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保育内容 C の授業内容目的と計画	
	学習成果	子どもと伝承遊びとの関係について意識的に考える。	
	予習復習の内容	実習での子どもの様子、自分の子ども時代と遊びとを振り返ると共に伝承遊びについて調べる。	
2回	授業内容	言葉による表現① 素話を学ぶ。	
	学習成果	素話の概要を知り、講演を聞く。素話の実践活動は、子どもの聴く力、想像力、考える力、集中力が育つことを理解する。	
	予習復習の内容	素話の題材を選び、原稿を声を出して読みながら内容をイメージする。	
3回	授業内容	言葉による表現② 素話を語る。	
	学習成果	素話に表情を付け声の抑揚を変えながら語り、聞き手に物語のイメージを伝えることができる。	
	予習復習の内容	幼児のための素話(昔話)の内容を楽しみながら実践を通して理解を深める。	
4回	授業内容	わらべうた遊びの実践① 子どもとの信頼関係を結ぶわらべうたを体験する。	
	学習成果	わらべうたを実践できる。活動の特性と集団生活の中での取り入れ方を理解する。	
	予習復習の内容	授業内容を基にわらべうた遊びを理解し、実践する。	
5回	授業内容	わらべうた遊びの実践② うたや動作で仲間とつながるわらべうたを体験する。	
	学習成果	わらべうたを実践できる。関連の活動を実践し、レポートにまとめる。	
	予習復習の内容	授業内容を基にわらべうた遊びを理解し、実践する。関連活動の振り返りをする。	
6回	授業内容	伝承遊び(玩具・楽器等)の実践① 伝承玩具、楽器等の体験。	
	学習成果	取り上げた題材を実際に体験し、子どもを対象とした活動を考える事が出来る。	
	予習復習の内容	子どもの発達に合わせた活動についてあらかじめ調べておく。	
7回	授業内容	伝承遊び(玩具・楽器等)の実践② 伝承遊びの実践に向けての活動案を作成する。	
	学習成果	伝承遊びを体験し、共に活動し、伝え合う中でさらに遊びの伝承性について理解する。	
	予習復習の内容	保育現場を想定した実践にむけて、イメージを上げ、伝え方を考える。	
8回	授業内容	伝承物の模倣製作① 伝統文化について考え、地域や季節行事等で見える伝承物(お面、灯笼、神輿等)について知る。	
	学習成果	伝承物を題材にした模倣作品の製作を通して子どもと地域行事の関わりを考える。	
	予習復習の内容	造形的な特徴を捉える。また、子ども向けにアレンジした製作目標を考えておく。	
9回	授業内容	伝承物の模倣製作②	
	学習成果	実製作をすることで、構造的な理解に繋がり、特徴や仕組みを知る。	
	予習復習の内容	保育現場で行う季節の行事等と関連付け、展示方法や活用法を考える。	
10回	授業内容	伝承物の模倣製作③ 実製作と鑑賞	
	学習成果	製作した作品を身に付け、変装や変身あそびを行い、子どもの表現活動への応用する事が出来る。	
	予習復習の内容	製作物を基に活用法を考え、あそびや表現活動に発展させる。	
11回	授業内容	保育実技研修～保育現場で受け継がれるあそびうたを中心に～	
	学習成果	保育現場で受け継がれる「手遊び、あそびうた、集団遊び」を、外部講師から学ぶ。	
	予習復習の内容	学び得たものを自分のレパートリーに加えられるよう反復し身に付ける。	
12回	授業内容	書道による表現。和筆や墨を使用し「書の世界(墨絵含む)」を通して和の心を考える。	
	学習成果	書き初めや墨絵(絵葉書等)を行い、日本の心や文化について考えることができる。	
	予習復習の内容	書き初め等について、調べ学習をしてその意味を再確認する。	
13回	授業内容	伝承遊びの振り返り ドキュメンテーション制作の発表を行う。	
	学習成果	伝承遊びについてドキュメンテーションを発表し、それについて説明することが出来る。	
	予習復習の内容	自ら作成したドキュメントを基に授業を振り返り、学び合いを通して考えを深める。	
14回	授業内容	伝統料理を取り上げ、調理実習を通して、食育の在り方や伝え方などを学ぶ。	
	学習成果	地域性(特産物、伝統食材、伝統料理等)を知り、それを取り上げた食育について考える。	
	予習復習の内容	自分の故郷等で受け継がれている伝統料理について調べる。	
15回	授業内容	14回の授業を振り返りまとめを行う。	
	学習成果	伝承遊びを通して、子どもの学びの連続性についても理論的および実践的な面から総合的に理解する。	
	予習復習の内容	将来の就職先における実践に向けて、本授業における学びを振り返りレポートにまとめる。	

科目名	ピアノⅡ				担当者	佐藤万利子・岩瀬拱子・他							
区分	選択	1	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年	
				授業時間数	60 <th>時間</th>								時間
教員との連絡方法 質問等の受付方法		sato.mariko@seiwa.ac.jp, iwabuchi.setsuko@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	習得した基礎的なピアノのテクニックをさらに向上させ、豊かな表現力をもってピアノ演奏ができる。											
	②	初見視奏、コード奏法など保育現場で応用できるピアノ独奏及び伴奏技能を高め、実践できる。											
	③	基本的な音楽理論を理解し、簡単な曲を初見で演奏できる。											
	④	子どもを前にして、楽しく弾き歌いを実践できる。											
汎用的 学習成果	(1)	基礎的なピアノのテクニックをさらに向上させることによって、保育現場で必要とされるピアノ演奏技能を習得し、実践できる。(専門的学習成果①③に関連)											
	(2)	初見視奏やコード奏法、楽曲のアレンジなどの応用力を高め、豊かな表現力をもってピアノを演奏できる。(専門的学習成果①②に関連)											
	(3)	挨拶の歌、季節の歌や行事の歌など様々な場面で用いられる子どもの歌の弾き歌いを数多く行い、保育現場での実践につなげることができる。(専門的学習成果②④に関連)											
	(4)	レッスンを試験で弾くことにより人前で演奏する時の態度・マナーを身につけ、地域社会で活用することができる。(専門的学習成果①④に関連)											
授業概要	ピアノⅠで習得した基礎的なテクニックをさらに向上させて、保育現場で役立つような応用力を養う。前期は幼稚園教育実習や保育所保育実習に備えて、あいさつの歌や季節感のある子どもの歌の弾き歌いを中心にレッスンをを行い、子どもの前で楽しく弾き歌いができるようにする。また、マーチ、ランニング、スキップ、ワルツなどの音楽も経験する。いつでも弾き歌いできるレパトリーを広げ、感性豊かな保育者としての基礎を形成し、保育実践の場で活用できるようにする。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験	50	前期末及び後期末に演奏試験を行い、全担当教員により評価する。									
		レポート											
		平常点	50	レッスンへの取り組み・意欲・態度により各担当教員が評価を行う。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) (4) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②により評価を行う。 (3) は専門的学習成果②④により評価を行う。 (4) は専門的学習成果①④により評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名					
	小林美実監修・井戸和秀編	『こどものうた100』						チャイルド社					
	小林美実編	『続こどものうた200』						チャイルド社					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名					
	全国大学音楽教育学会編	『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み』						音楽之友社					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①音楽に関わる基本的な技能の上達は、毎日の反復練習と各自の熱意が大切です。予習復習を含めて毎日ピアノに触れて練習を行います。練習の継続が基礎的なテクニックの習得につながります。音楽を楽しみ、より高い音楽的能力を身につけるよう練習に励みましょう。 ②課題動画提出後に、担当教員によるレッスン指導内容とアドバイスのフィードバックを行う。												

回数	授業計画		学習成果の評価		授業計画		学習成果の評価	
	授業内容	学習成果	授業内容	学習成果	授業内容	学習成果	授業内容	学習成果
1回	オリエンテーション、基礎の復習	ピアノⅠで習得したピアノの基礎的なテクニックが身につけているか。	○レッスンの記録に授業内容を的確にまとめて書いているか。		後期のオリエンテーション。		○レッスンの記録に授業内容を的確にまとめて書いているか。	
2回	ピアノの基礎テクニックを復習し、各自の課題を練習する。	ピアノの基礎テクニックを復習し、各自の課題を練習する。		○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて練習できているか。	○各回において、課題を演奏する動画を撮影してGoogle Classroomへ提出する。		○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。	
	春の歌：小鳥の歌、おべんとう、みんなのうた：そらだつたらいのにな	課題の歌をリズムに注意して弾き歌いできる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		○各回において、課題を演奏する動画を撮影してGoogle Classroomへ提出する。				
3回	春の歌：おかあさん、あめふりまのこ、みんなのうた：世界中の子どもたちが	課題の歌をテンポ、強弱、曲想に気を付けて弾き歌いできる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
	夏のおかあさん、あめふりまのこ、みんなのうた：バスこっこ、パレード	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
4回	夏のおかあさん、あめふりまのこ、みんなのうた：バスこっこ、パレード	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
	夏のおかあさん、あめふりまのこ、みんなのうた：バスこっこ、パレード	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
5回	夏のおかあさん、あめふりまのこ、みんなのうた：バスこっこ、パレード	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
	夏のおかあさん、あめふりまのこ、みんなのうた：バスこっこ、パレード	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
6回	秋の歌：大きな栗の木の下で、みんなのうた：アイスクリーム	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
	秋の歌：大きな栗の木の下で、みんなのうた：アイスクリーム	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
7回	秋の歌：小さな秋みつけた、みんなのうた：鳥の島	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
	秋の歌：小さな秋みつけた、みんなのうた：鳥の島	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
8回	秋の歌：たきび、みんなのうた：動物園へいこう	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
	秋の歌：たきび、みんなのうた：動物園へいこう	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
9回	冬の歌：きこ、おとんぼ	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
	冬の歌：きこ、おとんぼ	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
10回	冬の歌：きこ、おとんぼ	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
	冬の歌：きこ、おとんぼ	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
11回	冬の歌：きこ、おとんぼ	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
	冬の歌：きこ、おとんぼ	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
12回	冬の歌：きこ、おとんぼ	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
	冬の歌：きこ、おとんぼ	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
13回	冬の歌：きこ、おとんぼ	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
	冬の歌：きこ、おとんぼ	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
14回	冬の歌：きこ、おとんぼ	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
	冬の歌：きこ、おとんぼ	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
15回	冬の歌：きこ、おとんぼ	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						
	冬の歌：きこ、おとんぼ	課題の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。						

科目名	子どもと自然				担当者	柴田卓						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業後または、メール (shibatasu@koryama-kgc.ac.jp) にて行う。											
専門的 学習成果	①	北欧諸国の保育と自然保育の仕組みについて説明できる。										
	②	日本の子どもを取り巻く現状を理解し、自然保育や野外教育の意義について説明できる。										
	③	自然の魅力を活かした保育技術を計画することができる。										
	④	自然保育・野外教育を指導・展開するための方法について説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	海外の保育事情や自然保育を理解し、保育者の専門性を探求することができる。(専門的学習成果①②)										
	(2)	地域の自然環境を理解し、発育発達に応じた保育を計画・展開・評価することができる。(専門的学習成果③④)										
授業概要	はじめに、北欧諸国の保育実践を紹介しながら、日本と異なる文化・価値観・保育カリキュラム等について理解を深める。また、日本の子どもを取り巻く環境(物的環境・生活環境など)から課題を抽出し、子どもと自然について議論する。また、日本における野外保育・自然保育の実践から、5領域との関連について横断的に理解する。さらに、学外の自然環境を活用して保育内容の計画・実施・教材研究を行い、野外教育と自然保育の展開方法を習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		課題	50	レポート・課題(各2回)								
		ポートフォリオ	50	提出2回 毎回学習後に各自振り返りを実施し、学習内容を記載する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果③④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	柴田卓 石森真由子 編著	『楽しく学ぶ運動遊びのすすめ』						みらい				
	西浦和樹翻訳	『北欧スウェーデン発 科学する心を育てるアウトドア活動事例集』						北大路書房				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	谷雅泰 青木真理編著	『転換期と向き合うデンマークの教育』						ひとなる書房				
	文部科学省	『幼稚園教育要領』						フレーベル館				
	厚生労働省	『保育所保育指針』						フレーベル館				
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』						フレーベル館				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①時間外学習(60時間)として、授業で学習した内容を上記テキストのポートフォリオにまとめること。 ②課題に対するフィードバックの方法等 ③疑問点等は翌週の授業でフィードバックできるよう各自で考察し整理しておくこと。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 授業内容の説明 子ども時代の遊びを振り返る	ポートフォリオ
	学習成果	子どもにとっての遊びの意義を説明できる。	
	予習復習の内容	予習: イニシアチブゲームとは何か調べる。	
2回	授業内容	外遊び1 自然遊びの実践と方法の理解(イニシアチブゲーム)	ポートフォリオ
	学習成果	イニシアチブゲームにおける指導者の関わり方について説明できる。	
	予習復習の内容	復習: グループにおける自身の役割など、学びの物語の視点から捉えてみる。	
3回	授業内容	外遊び2 自然遊びの実践と方法の理解(自然物を活用した遊び)	ポートフォリオ
	学習成果	自然物を活用した遊びの可能性を表現できる。	
	予習復習の内容	復習: 実施した遊びの発展的連続性についてポートフォリオに記入する。	
4回	授業内容	外遊び3 自然遊びの実践と方法の理解(スウェーデンの事例から)	ポートフォリオ
	学習成果	スウェーデンのアウトドアを活用した数学・理科などの活動を体験し報告することができる。	
	予習復習の内容	復習: 運動遊びの横断的な可能性について復習する。	
5回	授業内容	外遊び4 自然遊びの実践と方法の理解(日本の伝承遊び)	ポートフォリオ
	学習成果	日本の伝承あそびにおける意義を捉え直し、説明できる。	
	予習復習の内容	予習: デンマークについて調べる。	
6回	授業内容	ディスカッション1 「デンマークの社会と子育て」	ポートフォリオ
	学習成果	幸福感・民主主義・子ども観について報告できる。	
	予習復習の内容	復習: 自分なりの感想をまとめる。	
7回	授業内容	ディスカッション2 「ドイツ・デンマーク・日本の森のようちえん」	ポートフォリオ 課題提出(レポート)「北欧の自然保育に関して」
	学習成果	森のようちえん・自然保育について、説明できる。	
	予習復習の内容	予習: フィンランド・スウェーデンについて調べる。	
8回	授業内容	ディスカッション4 「外遊びを楽しむための関わりとリスクマネジメント」	ポートフォリオ
	学習成果	リスクの理解と保育者とのかわりについて説明できる。	
	予習復習の内容	復習: 自分なりの感想をまとめる。	
9回	授業内容	「園外保育の計画」	ポートフォリオ 課題提出「計画表」
	学習成果	園外保育を計画する上で重要となる視点を理解し、計画できる。	
	予習復習の内容	復習: 自分なりの感想をまとめる。	
10回	授業内容	フィールドワーク① 「自然遊びの創作と教材研究」	ポートフォリオ
	学習成果	自然遊びの教材を作成できる。	
	予習復習の内容	復習: 自分なりの感想をまとめる。	
11回	授業内容	フィールドワーク② 「創作した外遊びの発表・実践」	ポートフォリオ
	学習成果	創作した遊びを実践し、子どもの視点について報告できる。	
	予習復習の内容	復習: 自分なりの感想をまとめる。	
12回	授業内容	フィールドワーク③ 「創作した外遊びの発表・実践」	ポートフォリオ
	学習成果	創作した遊びを実践し、保育者の視点について報告できる。	
	予習復習の内容	復習: 自分なりの感想をまとめる。	
13回	授業内容	フィールドワーク④ 「振り返りとお便り作り」	ポートフォリオ
	学習成果	園外保育等で保護者に何を伝えるか等、お便りの作り方を知り、作成できる。	
	予習復習の内容	予習: 雪遊びの種類と準備物を調べる。	
14回	授業内容	外遊び5 雪遊びの実践と方法の理解	ポートフォリオ提出 課題提出「お便り」
	学習成果	雪遊びの導入展開まとめの方法について説明できる。	
	予習復習の内容	復習: 自分なりの感想をまとめる。	
15回	授業内容	ふりかえりとまとめ	課題提出(レポート)「子ども自然に関して」
	学習成果	「子どもと自然」に関して、自身の学習成果を客観的に捉え、まとめ報告できる。	
	予習復習の内容	なし	

科目名	保育実習Ⅱ					担当者	佐々木 貴弘 ・ 中島 恵 ・ 岩淵 祺子					
区分	選択	2	単位	授業回数	おおむね 10日	回	授業 形態	実習	学年	2年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法	担当者（佐々木・中島・岩淵）の研究室への訪問またはメール（授業内で指示する）。											
専門的 学習成果	①	保育所実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ中で、これまで得た知識や技能を関連づけることができる。										
	②	実習や既習の教科の内容を、子どもの姿を予測し仮説を立てながら保育実践に応用することができる。										
	③	観察、記録および自己評価等を踏まえた保育の改善について、具体的な事例を通して学び、一般化することができる。										
	④	保育士の専門性と職業倫理について理解を深め、保育者として必要な具体的な配慮や態度・姿勢について論じることができる。										
	⑤	実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にした上で、他者と討議することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における保育士の専門性について理解し、子どもの理解・支援に主体的に取り組む中で、自己の課題を客観的に見出し、具体的な改善点を挙げることができる。（専門的学習成果②③④⑤）										
	(2)	他者との協働や議論を通して、保育者として必要なコミュニケーション能力や学びに向かい探求を続ける姿勢を養い、地域社会における保育者の役割について論じることができる。（専門的学習成果①④⑤）										
授業概要	保育所における総合実習と位置づけ、保育実習Ⅰで学んだことを基に、実践的な応用能力をさらに深めることを目的とする。さらに、指導計画の立案とその実践方法について体験し、理解を深めていく。また、乳児保育・延長保育・障害児保育など多様な保育ニーズに基づく具体的な保育所の対応と実践を体験するとともに、保護者との連携の方法や家庭と保育所との関係についても具体的な場面を通して学び、保育所の役割と課題について、自分の考えの表現や他者との討議を通して学びを深めていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		実習状況・訪問指導	20	巡回指導を含め、実習に取り組む姿勢や、子どもとのかかわる姿等、総合的に評価する。								
		実習先からの評価	40	実習Ⅱの評価表に基づき、実習態度・実習内容・実習記録について評価する。								
		実習日誌	40	日誌の内容・提出状況・次の保育に生かすことができたかについて評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果②・③・④・⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①・④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名		出版社名								
	聖和学園短期大学	『教育・保育実習ガイドブック』										
	宮城県保育実習連絡協議会	『保育実習の手引き』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
	厚生労働省	『保育所保育指針』（解説書含む）										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（解説書含む）										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①実習に臨むにあたり必要な教材の準備や、保育所保育指針の確認等の事前学習を行うこと。 ②実習の取り組みについては、訪問巡回指導などを通じて、適宜フィードバックを行う。											

		授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	参加実習と指導案の作成		1クール（1,2日目） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成	
	学習成果	保育実習Ⅰでの学びや課題に基づき、子どもの姿から仮説を立て、具体的なイメージと予測をもとに、それらを指導案と関連づけることができる。			
	予習復習の内容	実習Ⅰにおける課題を振り返り、自分が取り組むべきことを明確にしておくこと。実習先の概要や一日の流れについて理解した上で実習初日を迎えること。			
2回	授業内容	部分実習を通じた指導案の実践および全日実習に向けた指導案の作成		2クール（3～5日目） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成・実施	
	学習成果	指導案の作成から実践に向かう中で、実習担当者や討議し、見通しと予測を持って指導案を実施することができる。また、実施後の課題を具体的に挙げ、日々の保育と関連づけながら以降の実習に参加できる。			
	予習復習の内容	指導案の作成・実施にあたり、実習担当者や事前に十分な話し合いを行えるよう準備を進めること。実施後も、自らの改善点や課題を整理し、実習担当者や継続的にやりとりを行えるようにしておくこと。			
3回	授業内容	部分実習、全日実習を通じた指導案の実践および自らの保育の改善		3クール（6～9日目） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成・実施 ○保育の改善 教員による実習訪問指導	
	学習成果	保育の改善の視点を持ち、計画・実践・評価・改善のサイクルを実施することができる。			
	予習復習の内容	日々の活動の振り返りと、次の実践への計画を同時に進めることとなるため、見通しを持って計画的に学びを整理しておくこと。			
4回	授業内容	実習のまとめおよび自らの課題への取り組みと改善		4クール（10日目） 実習先からの評価 ○実習全体を通じた評価 ○保育の改善	
	学習成果	実習全体を通じた自らの学習課題について具体的に挙げることもと、他者と共有・討議することができる。			
	予習復習の内容	実習全体を通して「できたこと・できなかったこと」についてまとめておくこと。また、それらを他者と共有できるように、具体的な言葉で表現できるようにしておくこと。			
5回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
6回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
7回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
8回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
9回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
10回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
11回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
12回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
13回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
14回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
15回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				

科目名	保育実習Ⅲ					担当者	佐藤万利子・山本信					
区分	選択	2	単位	授業回数	おおむね 10日	回	授業 形態	実習	学年	2年	開講期	後期
授業時間数	90					時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	ゼミ担任の研究室への訪問											
専門的 学習成果	①	施設実習の意義と目的を理解し、支援について総合的に学ぶ中で、これまで得た知識や技能を関連づけることができる。										
	②	実習や既習の教科の内容や関連性を踏まえて理解し、実践に応用することができる。										
	③	観察、記録および自己評価等を踏まえて、具体的な事例を通して学び、実践につなげることができる。										
	④	保育士の専門性と職業倫理について理解を深め、保育者として必要な具体的な配慮や態度・姿勢について論じることができる。										
	⑤	実習の総括と自己評価を行い、実習の中で課題や認識を明確にした上で、解決に向けて学び続けることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育士に必要とされる専門的知識と技能について理解し保育実践につなげて積極的、主体的に子どもの支援ができ、自己の課題を客観的に見出し、具体的な改善点を挙げるができる。(専門的学習成果①②③⑤)										
	(2)	保育者として必要なコミュニケーション能力や他者と協働する力を持ち地域社会でいかし、保育者の社会的役割について論じることができる。(専門的学習成果④⑤)										
授業概要	保育実習Ⅲは、「保育実習ⅡまたはⅢのいずれかを選択必修」とされている科目である。主として児童福祉施設または障害児支援施設で、保育実習Ⅰで学んだことを踏まえ、さらに深い理解を図るための実習としている。児童福祉施設または障害児支援施設等それぞれの役割、違い、保育士のかかわり方について実践知を得る。さらにこれまで学んだ保育者として総合力をつけることを目的とする。実習の中で実践を体験するとともに、保育者の役割について他者との討議を通して学びを深めていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		実習状況・訪問指導	30	巡回指導を含め、実習に取り組む姿勢や、子どもとのかかわる姿等、総合的に評価する。								
		実習先からの評価	30	実習Ⅲの評価表に基づき、実習態度・実習内容・実習記録について評価する。								
実習日誌	40	日誌の内容・提出状況・次の保育に生かすことができたかについて評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	聖和学園短期大学	『教育・保育実習ガイドブック』										
	宮城県保育実習連絡協議会	『保育実習の手引き』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	厚生労働省	『保育所保育指針』（解説書含む）										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（解説書含む）										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①実習に臨むにあたり保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅰを踏まえて課題を意識し、必要な教材準備等を事前に行うこと。 ②実習の取り組みについては、訪問巡回指導などを通じて、適宜フィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	参加実習と指導案の作成		1クール（1.2日） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成
	学習成果	子どもの姿から仮説を立て、具体的なイメージと予測をもとに、それらを指導案と関連づけることができる。		
	予習復習の内容	実習Ⅰにおける課題を振り返り、自分が取り組むべきことを明確にしておくこと。実習先の概要や一日の流れについて理解した上で実習初日を迎えること。		
2回	授業内容	部分実習を通した指導案の実践および全日実習に向けた指導案の作成		2クール（3～5日） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成・実施
	学習成果	指導案の作成から実践に向かう中で、実習担当者との討議し、見直しと予測を持って指導案を実施することができる。		
	予習復習の内容	指導案の作成・実施にあたり、実習担当者と事前に十分な話し合いを行えるよう準備を進めること。		
3回	授業内容	部分実習、全日実習を通した指導案の実践および自らの保育の改善		3クール（6～9日） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成・実施 ○保育の改善 教員による実習訪問指導
	学習成果	計画・実践・評価・改善のサイクルを実施することができる。		
	予習復習の内容	日々の活動の振り返りと、次の実践への計画を同時に進めることになるため、見直しを持って計画的に学びを整理しておくこと。		
4回	授業内容	実習のまとめおよび自らの課題への取り組みと改善		4クール（10日） 実習先からの評価 ○実習全体を通した評価 ○保育の改善
	学習成果	実習全体を通した自らの学習課題について具体的に挙げるできるとともに、他者と共有・討議することができる。		
	予習復習の内容	実習全体を通して自らを振り返り、課題を抽出しておくこと。また、それらを他者と共有できるよう、具体的な言葉で表現できるようにしておくこと。		
5回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
6回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
7回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
8回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
9回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
10回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
11回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
12回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
13回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
14回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
15回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			

科目名	保育実習指導Ⅱ					担当者	佐々木 貴弘 ・ 中島 恵 ・ 岩淵 祺子					
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		担当者（佐々木・中島・岩淵）の研究室への訪問またはメール（授業内で指示する）。										
専門的 学習成果	①	総合的に保育を考え、これまで得た知識や経験と関連づけながら、保育実習の意義と目的について論じることができる。										
	②	実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について、実習への見通しを持ちながら、また、実習後の振り返りを行いながら具体的に説明することができる。										
	③	保育の記録や自己評価を踏まえ、保育の改善について実践を通して考え、他者と討議することができる。										
	④	保育士の専門性と職業倫理について理解を深め、保育者として必要な具体的な配慮や態度・姿勢について論じることができる。										
	⑤	実習の総括と自己評価から、新たな課題や学習目標を明確にし、自らの言葉で表現・説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における保育士の専門性について理解し、保育実践を通して自己の課題を客観的に見出し、具体的な改善点を挙げる事ができる。（専門的学習成果①②③⑤）										
	(2)	他者との協働や議論を通して、保育者として必要なコミュニケーション能力や学びに向かい探求を続ける姿勢を養い、自らの力を地域社会で生かすための具体的な方法について述べる事ができる。（専門的学習成果①④⑤）										
<p>保育実習指導Ⅱは、保育実習Ⅰからの連続性および発展性の観点から位置づけられる。保育実習Ⅰでの学びや自己の学習課題をもとに、保育実習Ⅱに向けた実習目標を設定し、総合的に保育を捉える意識を持ちながら、保育実習の意義と目的について改めて理解を深める。さらに、指導案の立案および子どもの成長や発達にとって意味のある保育や援助の方法について学ぶ。また、実習の総括と自己評価を通して、学びの表現（プレゼンテーション）や他者との討議を重ねながら、新たな課題や学習目標を明確にしていく。</p>												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		事前学習	20	実習課題の設定等、実習に向けた準備について総合的に評価する。								
		事後学習	20	実習状況を踏まえた自己評価・新たな学習課題の設定等について総合的に評価する。								
		実習報告会	30	実習報告会に向けた取り組み（計画・実践・評価・改善）について総合的に評価する。								
	授業への取り組み	30	授業全般における意欲・態度や授業に取り組む姿勢により評価する。									
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①・④・⑤にて評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	聖和学園短期大学		『教育・保育実習ガイドブック』									
	宮城県保育実習連絡協議会		『保育実習の手引き』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	厚生労働省		『保育所保育指針』（解説書含む）									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（解説書含む）									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		<p>①本科目は、保育実践力についての総合的な理解を目的としているため、実習後、実習報告会および交流会の準備・実践が履修上の要件となっている。実習に向けての準備や、実習後における新たな目標設定を効果的に行うために、授業計画に従い週1時間程度の時間外学習を必ず行うこと。 ②フィードバックに関しては、担当教員より、授業内での発言や記述について個別のやりとりを通して、適宜行っていく。</p>										

授業計画			学習成果の評価									
1回	授業内容	保育実習Ⅱの意義と目的										
	学習成果	保育実習Ⅰでの学びや課題を踏まえて、保育実習Ⅱの意義と目的について説明することができる。										
2回	予習復習の内容	保育実習Ⅰの反省や課題についてまとめておくこと。保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、自らの課題と照らし合わせておくこと。										
	授業内容	保育士の専門性と倫理の理解										
3回	学習成果	保育士の専門性と倫理について、これまでの実習や教科での学びも踏まえて自らの言葉で説明することができる。										
	予習復習の内容	保育士の専門性と倫理について調べておくとともに、自分の考えを含めて、討議できるようにしておくこと。										
4回	授業内容	子どもの状態に応じた適切なかわりの理解										
	学習成果	保育現場における具体的な子どもの姿を想定し、自らの知識・技能を活かしてどのように子どもと関わるかについて述べる事ができる。										
5回	予習復習の内容	保育実習Ⅰにおいて、子どもとの関わりで戸惑いや迷った場面を他者と共有できるようにし、次に同じような場面でのようにかかわるか具体的に説明できるようにしておくこと。										
	授業内容	環境と生活を通して行う保育の総合的理解										
6回	学習成果	環境と生活を通して行う保育について、具体的な視点や環境構成等について説明することができる。										
	予習復習の内容	子どもとの直接的な関わりだけでなく、間接的な援助の方法について具体的にイメージしておくこと。										
7回	授業内容	保育の全体計画に基づく具体的な計画の理解										
	学習成果	全体的な計画の中に、日々の具体的な計画がどのように位置づけられ、計画の一つ一つが相互に関連しているかについて述べる事ができる。										
8回	予習復習の内容	保育の計画（全体的な計画・長期計画・短期計画等）について、確認しておくこと。それぞれの計画が持つ意義や目的について理解しておくこと。										
	授業内容	指導計画の立案・作成の理解										
9回	学習成果	実習Ⅱに向けて、具体的な場面や活動を想定し、実習Ⅰの反省点を踏まえた指導計画を立案・作成することができる。										
	予習復習の内容	実習Ⅰで実施した指導案を見直し、反省点や改善点について具体的に挙げられるようにしておくこと。										
10回	授業内容	記録の意義と実習日誌の記入方法の理解										
	学習成果	記録をすることの意義について理解し、実習日誌の記入・記録にあたっての具体的な方法や留意点について説明することができる。										
11回	予習復習の内容	保育実習Ⅰの記録の反省点・改善点をまとめ、よりよい記録をするために必要な課題について説明することができる。										
	授業内容	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善										
12回	学習成果	保育における観察・記録を通して、自らの保育を評価・改善していくプロセスについて、具体的に述べる事ができる。										
	予習復習の内容	保育実習Ⅰの自己評価や記録を踏まえて、自らの保育や子どもと向き合う姿勢について振り返り、保育実習Ⅱに向けた課題を挙げられるようにしておくこと。										
13回	授業内容	保育実習Ⅱの課題の作成										
	学習成果	これまでの実習や教科における学習を踏まえて、自らの課題について他者に伝わる表現を用いて記述することができる。										
14回	予習復習の内容	保育実習Ⅰやこれまでの教科で学んだことを踏まえて、保育実習Ⅱで意識して取り組んでいきたいことについて深く考えておくこと。また、設定した課題に、具体的にどのように取り組んでいくかについて説明できるようにしておくこと。										
	授業内容	保育実習Ⅱの留意事項										
15回	学習成果	保育実習Ⅱに臨むにあたっての具体的な留意事項について説明することができる。										
	予習復習の内容	保育所実習Ⅱに対してどのような姿勢で取り組むか、どのような準備が必要かについてまとめておくこと。										
16回	授業内容	実習の総括と自己評価										
	学習成果	実習Ⅱにおける学びについて、客観的に自己を評価し、他者に伝えることができる。										
17回	予習復習の内容	保育実習Ⅱを通して学んだことや反省点について、他者と共有できる形でまとめておくこと。自己評価を踏まえて、今後取り組んでいく課題を挙げられるようにしておくこと。										
	授業内容	地域子育て支援の計画と実践										
18回	学習成果	実習を通して得た学びを踏まえて、他者と協働しながら、地域子育て支援計画・実践することができる。										
	予習復習の内容	子どもが活動や遊びに取り組む具体的な姿をイメージしながら、地域子育て支援の具体的な内容について案を考え、具体的な進め方について見通しを持てるようにしておくこと。										
19回	授業内容	実習の振り返りと模擬授業を通じた保育の改善：実習報告会										
	学習成果	保育実習を通して得た知識や経験を振り返り、具体的な言葉や自らの姿によって、他者に説明することができる。										
20回	予習復習の内容	保育所実習を通して得られた学びの中で、自分が伝えたいことを選び、具体的な伝え方について考えておくこと。										
	授業内容	実習の振り返りと模擬授業を通じた保育の改善：教材研究										
21回	学習成果	保育所実習を通して得られた学びを、どのような形で伝えることができるかについて、他者と協働しながら討議し、教材研究等を通じ、表現することができる。										
	予習復習の内容	保育所実習を通して得られた学びを、どのように模擬保育として具体的に形にしていけるかについて他者と話し合いができるようまとめておくこと。										
22回	授業内容	課題および学習目標の明確化										
	学習成果	実習やこれまでの学習成果を踏まえ、保育者として自分が取り組むべき新たな課題を設定し、具体的な言葉で論じることができる。										
23回	予習復習の内容	これまでの自分の経験や学習について振り返り、自己評価も含めて、自らの課題と今後の目標について説明できるようにしておくこと。										
	授業内容	事後学習										
24回	学習成果	これまでの学習をもとに、自らの課題を、明確な根拠や目標を持って設定しているかについて評価を行う。										
	予習復習の内容	事後学習										
25回	学習成果	これまでの学習をもとに、自らの課題を、明確な根拠や目標を持って設定しているかについて評価を行う。										
	予習復習の内容	事後学習										

科目名	保育実習指導Ⅲ				担当者	佐藤万利子・山本信						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	sato.mariko@seiwa.ac.jp, yamamoto.makoto@seiwa.ac.jp, kimijima.tomoko@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	保育実習の意義・目的を理解し、その内容を説明することができる。										
	②	実習の内容を理解し、自らの実習課題を明確にすることができる。										
	③	実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解し、それらを考慮した行動がとれる。										
	④	実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について理解し、実践できる。										
	⑤	実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確に表現することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育実習の意義・目的を理解し、実習中の自らの課題を明確にし、継続的に取り組むことができる。(専門的学習成果①②④⑤に関連)										
	(2)	児童福祉施設の種別ごとの特徴を理解し、それらの施設の社会的役割やニーズを理解したうえで、保育者として子どもの理解や支援につなげることができる。(専門的学習成果②③に関連)										
授業概要	保育士資格取得に向けた保育実習Ⅲを行うにあたって必要とされる知識・技術を獲得する。これまでの保育実習Ⅰ及び保育実習Ⅱにおける学びを踏まえ、自身の保育実習Ⅲの期間中継続的に取り組む課題を明確にする。実習施設の種別ごとに、施設の概要や役割を理解する。さらに、他教科における学びとの統合化を図るとともに、実践に必要な知識と技術について学び、保育についての認識を深める。実習後は振り返りと自己評価及び実習報告会を行い、自己の新たな課題や学習目標を明確にする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		事前事後指導 状況	30	事前事後指導への取り組み・意欲・態度、提出物の状況により評価を行う。								
		実習評価	30	実習施設の評価により行う。								
実習日誌等総 合評価	40	実習日誌、指導案等の内容により評価を行う。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②④⑤により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	聖和学園短期大学保育 学科	『教育・保育実習ガイドブック』										
	宮城県保育実習連絡協 議会編	『保育実習の手引き』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	厚生労働省	『保育所保育指針解説書』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①この科目の時間外学習として、児童福祉施設の種別ごとの特徴やそこで生活する子どもの支援ニーズについて、これまでの専門教科の学習内容を復習すること。また、指導案の作成、支援のための教材研究なども時間外学習に含む。 ②実習後は学習内容を整理し、疑問点を文献資料等で調べ理解する。また、自己評価を通して新たな課題、学習目標を明確にしておく(復習:週2時間程度)。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保育実習Ⅲの意義と目的	
	学習成果	保育実習Ⅲの意義と目的を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習 の内容	「教育・保育実習ガイドブック」の目的を読み、理解する。	
2回	授業内容	児童福祉法の理解	
	学習成果	養護系の施設について、児童福祉法及び配布資料によって理解を深め、概要を説明することができる。	
	予習復習 の内容	配布資料を整理し、授業内容をまとめておく。	
3回	授業内容	障害者総合支援法の理解	
	学習成果	障害系の施設について、障害者総合支援法及び配布資料によって理解を深め、概要を説明することができる。	
	予習復習 の内容	配布資料を整理し、授業内容をまとめておく。	
4回	授業内容	保育所保育の実践	
	学習成果	保育所保育の実践について、実習経験等に基づいてまとめることができる。	
	予習復習 の内容	これまでの保育所保育の資料をまとめておく。	
5回	授業内容	施設保育の実践	
	学習成果	施設保育について、施設の状況や一日の流れを理解し概要をまとめることができる。	
	予習復習 の内容	施設保育についての授業内容を振り返る。	
6回	授業内容	施設の形態と子どもの生活および職員の働き方	
	学習成果	施設の形態と、そこの子どもの生活及び職員の働き方について理解を深め、ワークシートにまとめることができる。	
	予習復習 の内容	自分が実習を行う施設の形態について理解を深めておく。	
7回	授業内容	実習生の立場と実習内容	
	学習成果	実習施設における実習生の立場と実習内容について、ガイドブックより理解を深め、説明することができる。	
	予習復習 の内容	ガイドブックを活用し、実習生の立場と実習内容について復習しておく。	
8回	授業内容	保育実習Ⅲの実習日誌の意義と記録方法	
	学習成果	実習日誌の記録方法を振り返り、日誌の意義について説明できる。	
	予習復習 の内容	ガイドブックの「日誌の書き方」を復習しておく。	
9回	授業内容	保育実習Ⅲの方法の理解	
	学習成果	施設での具体的な養護内容、保育士の支援方法や援助技術を理解し、説明することができる。	
	予習復習 の内容	養護内容や支援方法、援助技術について理解を深めておく。	
10回	授業内容	保育実習Ⅲの実習目標と課題の明確化	
	学習成果	保育実習Ⅲにおける自己の実習課題を明確にし、文章に表現できる。	
	予習復習 の内容	実習課題をさらに整理し、実習日誌に記入する。	
11回	授業内容	保育士倫理の理解	
	学習成果	守秘義務の遵守、プライバシーの保護の重要性を理解し、説明することができる。	
	予習復習 の内容	守秘義務の遵守、プライバシーの保護の重要性について理解を深めておく。	
12回	授業内容	人権尊重と保育内容・援助の理解	
	学習成果	子どもの人権の尊重と保育内容・援助について理解を深め、説明することができる。	
	予習復習 の内容	人権尊重と保育内容・援助について復習しておく。	
13回	授業内容	保育実習Ⅲの心構えと留意事項	
	学習成果	ガイドブックにより、保育実習Ⅲに対する心構えと留意事項を理解し、説明することができる。	
	予習復習 の内容	保育実習Ⅲの心構えと留意事項について復習しておく。	
14回	授業内容	保育実習Ⅲの振り返り	
	学習成果	保育実習Ⅲの振り返りを行い、自己課題を発見できる。	
	予習復習 の内容	保育実習Ⅲの振り返りと発見した課題をワークシートに記入しておく。	
15回	授業内容	課題及び学習の明確化	
	学習成果	振り返りにより見えた課題について、どのような学習をすればよいか考察することができる。	
	予習復習 の内容	考察内容を記録しておく。	

科目名	教育相談				担当者	君 島 智 子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
授業との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	教育相談の意義と理論を理解し、説明することができる。										
	②	教育相談を進める際に必要となる基礎的知識を身につけ、実践で使うことができる。										
	③	教育相談の組織的な取り組みや連携の必要性について説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要な、子ども理解や相談援助に関わる知識と技能を習得する。(専門的学習成果①②)										
	(2)	保護者や関係機関、地域との連携のあり方について理解し、保育実践力を高める。(専門的学習成果①③)										
授業概要	幼児教育において、子どもをどう理解し、子どもの成長・発達をどう支援していくかを考えることは保育者にとって重要なことである。本授業では、幼児期における子ども理解のあり方について考え、さらに保育における教育相談（保育カウンセリング）において求められる保育者の姿勢や具体的方法について、事例をもとに学んでいく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	50	子ども理解とその支援のあり方について、学習内容を踏まえた考察ができていないか評価する。評価の際の観点は、根拠、論理展開、独創性、体裁である。								
		中間ミニレポート	30	教育相談技術（カウンセリングの技法）の理解について評価する。								
		コメントペーパー	20	毎回の授業内容の理解、態度、関心・意欲について評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①③にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	文部科学省	『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』						ぎょうせい				
	富田久枝・杉原一昭 (編)	『保育カウンセリングへの招待』						北大路書房				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	文部科学省	『幼稚園教育要領』										
	厚生労働省	『保育所保育指針』										
	内閣府・文部科学省・ 厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①主にレジュメを使用して授業を進める。事前学習として、配付されたレジュメを読み、授業内容を大方つかんできること。(予習：週15分程度)事後学習として、レジュメとテキストを使用しながら、毎回の授業内容を(他者に説明できるように)自分なりにまとめる。その際出てきた疑問点や質問点については、教員に質問したり自身で資料にあたるなどして解決する。(復習：週45分程度) ②授業の中で扱うコメントペーパーに関する内容は、次回講義開始時にフィードバックを行う。また、授業内で記述してもらった課題についてもコメントをつけてフィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保育における教育相談の意義、方法と対象	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	保育における教育相談の意義を理解し、説明できる。	
2回	予習復習の内容	教育相談の意義、方法と対象について自分の言葉でまとめる。	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	授業内容	子どもの発達について	
3回	学習成果	乳幼児期の子どもの発達の特徴を説明することができる。	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	予習復習の内容	知的発達および社会性の発達について調べ、年齢ごとの発達の特徴をまとめる。	
4回	授業内容	幼児理解と教育相談	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	教育相談における子ども理解の重要性について説明することができる。	
5回	予習復習の内容	子ども理解のあり方について自分の言葉でまとめる。	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	授業内容	幼児理解の方法と視点	
6回	学習成果	子ども理解の方法について、一般的理解と個別的理解のそれぞれの視点から説明できる。	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	予習復習の内容	一般的理解と個別的理解のそれぞれの視点からの子ども理解の方法についてまとめておく。	
7回	授業内容	保育におけるアセスメント	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	アセスメントとして検査法の必要性を理解するとともに、保育記録を活用することの意義について説明できる。	
8回	予習復習の内容	保育中での子ども理解について、自身が経験した事例をもとに説明できる。	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	授業内容	保育カウンセリングに求められるカウンセリングマインド	
9回	学習成果	保育におけるカウンセリングマインドについて説明できる。	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	予習復習の内容	カウンセリングマインドとはどのようなことか、それをどのように保育実践に活かせるかを考え、まとめる。	
10回	授業内容	保育カウンセリングのプロセス	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	保育カウンセリングのプロセスについて理解し、説明することができる。	
11回	予習復習の内容	保育カウンセリングのプロセスの具体例についてまとめておく。	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	授業内容	教育相談の方法①発達相談・発達支援の方法と実際	
12回	学習成果	発達相談・発達支援の方法について具体的に説明することができる。	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	予習復習の内容	具体例をもとに発達支援のありかたについてまとめておく。	
13回	授業内容	教育相談の方法②子育て支援の方法と実際	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	保護者支援のあり方について理解し、説明することができる。	
14回	予習復習の内容	保護者支援としてどのようなことが求められるのかを考え、適切な支援の仕方についてまとめる。	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	授業内容	教育相談の方法③カウンセリングの基礎的姿勢と技法	
15回	学習成果	カウンセリング技法を身につけ、実際に活用することができる。	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	予習復習の内容	対人援助場面だけでなく、日常場面においても積極的にカウンセリング技法を意識して会話を行う。	
16回	授業内容	発達相談・発達支援、子育て支援の進め方やそのポイント	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	発達相談・発達支援、子育て支援の進め方やポイントについて説明できる。	
17回	予習復習の内容	保護者支援において重要なポイントをまとめておく。	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	授業内容	教育相談の方法④構成的グループエンカウンター(SGE)とは	
18回	学習成果	構成的グループエンカウンターの特徴、進め方について説明できる。	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	予習復習の内容	保育場面での活用方法を考え、まとめる。	
19回	授業内容	構成的グループエンカウンター(SGE)	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	構成的グループエンカウンターによりもたらされる効果について説明できる。	
20回	予習復習の内容	保育場面での活用方法を考えるとともに、その効果と限界について考察する。	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	授業内容	気になる子どもの理解と関わり方	
21回	学習成果	多面的・多角的に子どもを理解することの重要性、それに応じた支援について考察できる。	コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	予習復習の内容	実際に自分が出会った「気になる」子どもについて多面的・多角的に理解し、子どもの発達援助としてどのような支援が考えられるかをまとめる。	
22回	授業内容	地域・専門機関との連携について	期末レポート(子ども理解とその支援のあり方について、全授業内容を踏まえ考察する課題を課す)
	学習成果	地域・専門機関との連携の方法、対象、形態について説明できる。	
23回	予習復習の内容	専門機関との連携のあり方について、事例をもとにまとめる。	

科目名	教育実習事前事後指導Ⅱ				担当者	宮本美和子・小森谷一朗						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	通年
				授業時間数	30 <th>時間</th>	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、または担当者のメールへの連絡（学籍番号・氏名記載必須）とする。										
専門的 学習成果	① 教育実習の意義や目的について理解し、教育実習生として遵守すべき義務やその責任について説明できる。											
	② 教育実習の実習内容を理解し、その実践のために必要な知識や技術の習得に向けて、自ら積極的に取り組み、その成果を報告することができる。											
	③ 実習で得られた知識と経験を振り返ることができ、具体的に説明・報告することができる。											
	④ 実習で得られた知識と経験を振り返りを通し、自らの学習について、新たな目標や課題を具体的に設定することができる。											
	⑤ 自らが設定した目標や課題の達成に向けて、学習のプロセスについて自ら計画することができる。											
汎用的 学習成果	(1) 現代社会における保育者の重要性の高まりを理解し、教職の意欲を高め、進路選択における保育職のあり方を考え表現することができる。（専門的学習成果①②）											
	(2) 自らの活動を振り返り、省察を行うことで、課題を探索し、解決するためのプロセスを学び、実践的課題の解決に向けて取り組むことができる。（専門的学習成果③④⑤）											
	(3) 自ら課題を見出し、将来に渡り学び続けるための基礎となる研究心が養われ、学びに向かい続け探索することができる。（専門的学習成果②③④⑤）											
授業概要	実習の計画と準備から、実習内容、実習の振り返りと課題探索、課題解決といった一連の実習に係る学習の充実に向けて、教育実習事前指導および事後指導において、専任教員によるグループ別指導および個別指導を行う。実習前指導として、実習計画の作成や課題設定、教材研究、指導計画立案、ロールプレイを行い、実習活動において必要とされる知識や技術を身につける。実習終了後は、反省会を行い、実習を振り返ることで、自らの実習活動における課題探索に取り組み、課題解決に向けた一連の取り組みを身につけ、課題解決のための学習を身につける。その後、実習報告会の準備と、グループ別の反省記録をもとに、報告会の資料を作成し、実習を振り返り、学びの場とする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	各種レポートの提出と評価								
		提出物	30	受講課題の提出と評価								
		ワークの取り組み	40	受講時の取り組み（参与・貢献）の評価								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果③・④・⑤にて評価を行う。 (3) は、専門的学習成果②・③・④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	宮城県幼稚園教育実習 連絡協議会編	『教育実習の手引き』										
		『教育・保育実習ガイドブック』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	文部科学省	『幼稚園教育要領』										
	文部科学省	『幼稚園教育要領解説』										
	内閣府・文部科学省・ 厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①この科目では時間外学習（15時間）として、実習に必要な教材準備、幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認等の事前学習、指導案の作成、教材研究、学習の成果と課題の整理・反省のまとめとして事後学習を行うこと。 ②提出された課題は適宜フィードバックを実施する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	教育実習の意義と目的	▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価
	学習成果	教育実習の意義と目的について説明することができる。	
	予習復習の内容	学習課題への取り組み	
2回	授業内容	実習準備、課題の作成	▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷実習課題の提出
	学習成果	実習に必要な準備について説明することができ、計画と課題を作成することができる。	
	予習復習の内容	学習課題への取り組み	
3回	授業内容	指導案の作成と教材研究	▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷指導計画の提出
	学習成果	指導計画を作成することができ、それに伴う教材研究について計画することができる。	
	予習復習の内容	学習課題への取り組み	
4回	授業内容	構想を展開するための教材研究	▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷指導計画の提出
	学習成果	指導計画の展開を構想するための教材研究を行うことができる。	
	予習復習の内容	学習課題への取り組み	
5回	授業内容	構想を展開するための指導計画とロールプレイ	▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷指導計画の提出
	学習成果	教材研究に基づく指導案の作成ができ、ロールプレイを行うことができる。	
	予習復習の内容	学習課題への取り組み	
6回	授業内容	子どもの発達を踏まえた計画の必要性	▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷指導計画の提出
	学習成果	子どもの発達を踏まえた計画について、その必要性を理解し、説明することができる。	
	予習復習の内容	学習課題への取り組み	
7回	授業内容	指導計画と子どもの発達をふまえた考察の観点を学ぶ	▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷指導計画の提出
	学習成果	指導計画の子どもの発達を踏まえた考察の観点について説明することができる。	
	予習復習の内容	学習課題への取り組み	
8回	授業内容	実習の振り返りと自己評価	▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷自己評価チェックリストの提出
	学習成果	実習の振り返りを行うことができ、客観的視点での自己評価を行うことができる。	
	予習復習の内容	学習課題への取り組み	
9回	授業内容	自己の課題の明確化	▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷振り返り報告書の作成と提出
	学習成果	実習の振り返りをもとに、自らの新たな課題について、具体的に示すことができる。	
	予習復習の内容	学習課題への取り組み	
10回	授業内容	反省と自己課題の発見	▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷振り返り報告書の作成と提出
	学習成果	自らの示した課題について、その解決のためのプロセスを自ら考えることができる。	
	予習復習の内容	学習課題への取り組み	
11回	授業内容	事務手続きの把握	▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価
	学習成果	幼稚園教諭免許状取得に向けた事務手続きについて理解し、具体的に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	学習課題への取り組み	
12回	授業内容	実習園による実習評価のフィードバック	▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷自己課題の作成と提出
	学習成果	実習施設からの評価のフィードバックをもとに、自らの課題を明確にできる。	
	予習復習の内容	学習課題への取り組み	
13回	授業内容	自己評価と実習評価のずれの確認	▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷自己課題の作成と提出
	学習成果	自己評価と実習評価の乖離を確認し、自らの課題について、示す事ができる。	
	予習復習の内容	学習課題への取り組み	
14回	授業内容	体験の振り返りと自己課題の明確化	▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷自己課題の作成と提出
	学習成果	実習の体験をグループワークにおいて振り返り、自らの課題をメンバーに報告し、メンバーの課題について、提案することができる。	
	予習復習の内容	学習課題への取り組み	
15回	授業内容	子ども理解と学びの共有（実習報告会）	▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷実習報告会報告書
	学習成果	実習報告会において、自らの学びを報告することができ、メンバーと共に協働的に学びを深めることができる。	
	予習復習の内容	学習課題への取り組み	

科目名	教育実習				担当者	宮本美和子・小森谷一朗						
区分	選択	4	単位	授業回数	おおむね 20日	回	授業 形態	実習	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、または担当者のメールへの連絡（学籍番号・氏名記載必須）とする。											
専門的 学習成果	①	保育者としての業務や、学級担任の役割と職務内容を実際に即して理解し、説明することができる。										
	②	実習活動での様々な場面において、自身の保育活動を客観的に評価しながら、幼児と適切に関わることができる。										
	③	保育形態や保育展開、環境構成の仕組みを実際に即して理解することができ、実習生として保育活動に取り組むことができる。										
	④	幼児の体験との関係を考慮しながら適切な場面で学習理解に向けた情報機器を用いることができる。										
	⑤	実習における自らの課題を振り返り、翌日以降の保育活動に適切に活かすことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における保育者の重要性の高まりを理解し、教職の意欲を高め、保育職のあり方を考え表現することができる。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	自らの活動を振り返り、省察を行うことで、課題を探索し、解決するためのプロセスを学び、実践的課題の解決に向けて取り組むことができる。（専門的学習成果②③④⑤）										
	(3)	自ら課題を見出し、将来に渡り学び続けるための基礎となる研究心が養われ、学びに向かい続け探求することができる。（専門的学習成果②③⑤）										
授業概要	聖和幼稚園で行う2日間の予備実習と、5月下旬から6月下旬にかけての4週間に渡る各幼稚園にて行う約20日間の教育実習の双方の活動にて、本授業は構成される。この期間は、実習施設となる各幼稚園の担当教諭のもと、保育者として実際に保育活動を体験する。そして、そのような実習活動を通して、幼児の姿や活動、保育の流れと展開、幼児との接し方、教員（保育者）の役割と責任、保育環境の構成と整備、保育者との関わり方（同僚との連携）といった保育の基本について学ぶ。また、自らの実習活動を常に振り返り、自身の保育実践の課題を明らかとし、自らの保育活動の改善を図る。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		施設評価	50	実習施設による実習評価と報告、出勤も含めた実習活動状況に基づく								
		学内評価	50	実習記録（実習日誌、指導計画、実習報告等）及び実習巡回指導結果に基づく								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・④にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②・③・④・⑤にて評価を行う。 (3) は、専門的学習成果②・③・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	宮城県幼稚園教育実習 連絡協議会編	『教育実習の手引き』										
	聖和学園短期大学保育 学科	『教育・保育実習ガイドブック』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	文部科学省	『幼稚園教育要領』										
	文部科学省	『幼稚園教育要領解説』										
	内閣府・文部科学省・ 厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①本授業では、時間外学習（120時間）として、実習に必要な教材準備、教材研究、指導計画作成、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認等といった事前学習、実習記録や報告、学習の成果と課題の整理、反省とまとめといった記録を含む事後学習を行うこと。 ②実習活動に関する取り組みにおいては、実習巡回指導（訪問指導）などを通じて、適宜フィードバックを行う。											

授業計画		学習成果の評価
予備実習	授業内容	聖和幼稚園での2日間の実習による保育体験
	学習成果	幼稚園の教育内容・機能・園生活の流れなどについて理解し、補助的な立場で遊びや生活を通して幼児とかかわる中で一人一人を理解すると同時に、幼児の発達の実態や課題を把握し、援助・指導の在り方を記録し、報告することができる。
	予習復習 の内容	事前学習：教材準備、教材研究、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認 事後学習：実習記録や報告書類の作成、実習活動の振り返り
1週目 (1-5日 目)	授業内容	各実習園での約20日間の実習（1週目）
	学習成果	幼稚園の教育内容・機能・園生活の流れなどについて理解し、補助的な立場で遊びや生活を通して幼児とかかわる中で一人一人を理解すると同時に、幼児の発達の実態や課題を把握し、援助・指導の在り方を記録し、報告することができる。
	予習復習 の内容	事前学習：教材準備、教材研究、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認、指導計画案の立案・作成 事後学習：実習記録や報告書類の作成、実習活動の振り返り
2週目 (6-10日 目)	授業内容	各実習園での約20日間の実習（2週目）
	学習成果	幼稚園教諭の専門性や職務内容及び役割などに関して説明することができると共に、保育技術の習得に向けて、実習生自身が様々な働きかけを子どもや保育者に対して行うことができる。また、幼稚園教諭の保育を視点を持って観察し、事実 に即して記録することが出来る。
	予習復習 の内容	事前学習：教材準備、教材研究、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認、指導計画案の立案・作成 事後学習：実習記録や報告書類の作成、実習活動の振り返り
3週目 (11-15日 目)	授業内容	各実習園での約20日間の実習（3週目）
	学習成果	幼児一人一人の個性や特徴、発達課題を理解したうえで、個に応じた援助を実践することができる。また、指導計画の立案や活用方法を学び、保育を実践することができる。その他、保育に必要な基礎的技術（話法、保育形態、保育展開、環境構成等）を実際に即して身に付け、用いようとする事ができる。
	予習復習 の内容	事前学習：教材準備、教材研究、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認、指導計画案の立案・作成 事後学習：実習記録や報告書類の作成、実習活動の振り返り
4週目 (16-20日 目)	授業内容	各実習園での約20日間の実習（4週目）
	学習成果	保育に必要な基礎的技術（話法、保育形態、保育展開、環境構成等）を実際に即して身に付け、保育実践に活用することができる。幼稚園教育の基本を理解し、様々な場面で、適切に幼児と関わる事ができる。
	予習復習 の内容	事前学習：教材準備、教材研究、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認、指導計画案の立案・作成 事後学習：実習記録や報告書類の作成、実習活動の振り返り
	授業内容	
	学習成果	
	予習復習 の内容	
	授業内容	
	学習成果	
	予習復習 の内容	